



BrightAuthor 4.7.2.8 日本語版

取扱説明書

目次

1 はじめに	7
1-1 BrightAuthor とは	7
1-2 BrightAuthor 4.7.2.8	7
1-3 BrightAuthor のインストール手順	7
1-4 BrightSign OS のアップデート	8
2 BrightSign で再生を行うには	10
2-1 再生までのステップ	10
2-2 BrightSign の更新方法	11
3 BrightSign の設定（ユニットの設定）	13
3-1 スタンドアローンの設定	13
3-2 ローカルファイルネットワーキングの設定	25
3-3 シンプルファイルネットワーキングの設定	38
4 プレゼンテーション作成の基本	53
4-1 新規プロジェクトの作成	53
4-1-1 メインタブの設定	53
4-1-2 アドバンスタブの設定	54
4-2 テンプレートの選択	55

4-3 基本的なプレゼンテーションの作成	56
4-3-1 基本的なプレゼンテーションの作成画面	56
4-3-2 プレイリストの設定	57
4-3-3 ゾーンの編集	58
4-3-4 プレゼンテーションの保存	62
5 ゾーンとレイアウト	62
5-1 ゾーンの種類	62
5-2 レイアウトの設定	63
5-3 ゾーンの設定	66
5-3-1 ビデオ／画像ゾーン	66
5-3-2 ビデオゾーン	66
5-3-3 画像ゾーン	67
5-3-4 オーディオゾーン	67
5-3-5 拡張オーディオゾーン	68
5-3-6 ティッカーゾーン	70
5-3-7 クロックゾーン	73
5-3-8 背景画像ゾーン	77
6 スケジュールの作成	77

6-1 スケジュールの設定画面	77
6-2 スケジュールの設定	78
6-3 スケジュールの追加	79
7 書き出し	81
7-1 スタンドアローンの書き出し	81
7-2 ローカルファイルネットワーキングの書き出し	83
7-3 シンプルファイルネットワーキングの書き出し	85
8 インタラクティブ・プレゼンテーション	86
8-1 インタラクティブ・プレゼンテーションの基本的な操作	87
8-2 イベントアイコン	90
8-3 GPIO イベント（接点制御）	91
8-4 タッチイベント	92
8-5 同期再生	93
8-5-1 同期再生の仕組み	94
8-5-2 同期再生の設定手順	95
8-6 ゾーンメッセージ・リンクゾーン	99
8-7 UDP コマンド制御	102
8-8 シリアル制御	103

8-9 キーボード入力イベント	104
8-10 USB 入力イベント	106
8-11 ビデオタイムコード	107
8-12 日付/時間イベント	107
8-13 GPS イベント	109
9 その他の設定、便利な機能	111
9-1 コンテンツファイルの置き換え	111
9-1-1 個別の置き換え	111
9-1-2 一括の置き換え	112
9-2 HTML5 の表示設定	112
9-3 HDMI 入力の設定	114
9-4 プレゼンテーションの切り替え	114
9-5 動画の一時停止、一時停止からの再生再開	120
9-6 モザイクモード	122
9-7 Bright Beacon	124
9-8 USB 更新	127
9-9 時刻の設定	128
9-9-1 タイムサーバーでの時刻合わせ	128

9-9-2 スクリプトによる設定.....	128
9-9-3 ダイアグノスティック Web サーバーによる設定.....	129
9-10 ダイアグノスティック Web サーバー	129
9-10-1 ダイアグノスティック Web サーバーを使用する	130
9-10-2 ダイアグノスティック Web サーバーの操作	130
10 BrightSign を使いこなすために.....	132
11 BrightSign のハードウェア仕様.....	133
11-1 BrightSign XT244/XT1144.....	133
11-2 BrightSign XD234/XD1034.....	136
11-3 BrightSign HD224/HD1024	139
11-4 BrightSign LS424	142
12-5 BrightSign HO523	144

1 はじめに

本書は BrightSign 社製のデジタルサイネージプレーヤー「BrightSign」専用のオーサリングソフト『BrightAuthor（ブライトオーサー）』の取扱説明書です。

1-1 BrightAuthor とは

BrightAuthor は BrightSign で再生するプレゼンテーション、スケジュール、設定ファイルを作成するための Windows 専用ソフトウェアです。動画・静止画のループ再生、テキスト表示などの基本的なプレゼンテーションから、タッチパネル・人感センサーを使用したインタラクティブ再生、同期再生などの高度なプレゼンテーションを、グラフィカルで直感的なユーザーインターフェースとドラッグ&ドロップをベースとしたシンプルな操作で作成することができます。

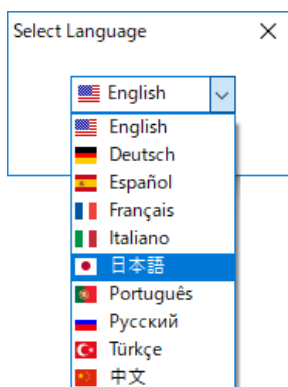
1-2 BrightAuthor 4.7.2.8

BrightAuthor ver4.7.2.8 は最新の BrightSign（XT4/XD4/HD4/LS4 の各シリーズ）、日本語表示に対応したバージョンです。

1-3 BrightAuthor のインストール手順

BrightAuthor 4.7.2.8 のインストーラーは弊社 Web サイトからダウンロードすることができます。下記の弊社 Web サイトよりインストーラーの圧縮ファイルをダウンロードします。ダウンロードしたファイルを解凍したフォルダーの中に「BrightAuthor.4.7.2.8.setup7z.exe」というファイルがあり、これをダブルクリックするとインストーラーが起動します。

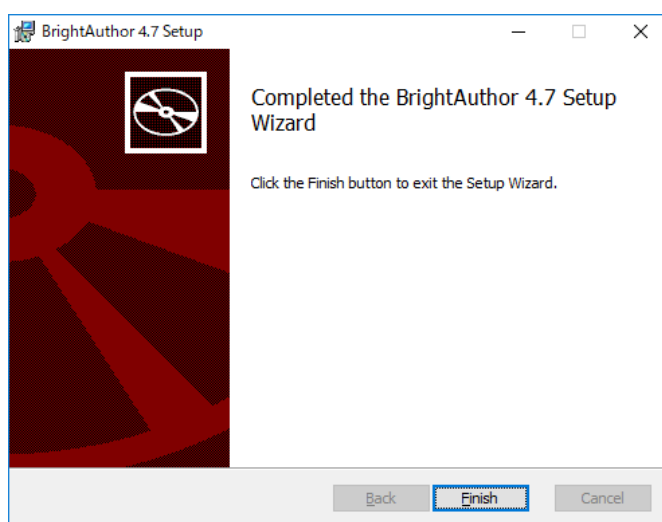
<https://jimgs.jp/download/brightsign/BrightAuthor.4.7.2.8.setup7z.zip>



Select Language ウィンドウで「日本語」を選択し [OK] をクリックします。



BrightAuthor の使用許諾に関するテキストが表示されます。I accept the terms in the License Agreement にチェックを入れ、[Install] をクリックすると、インストールを実行します。



インストールを完了しました。[Finish] をクリックして終了します。

1-4 BrightSign OS のアップデート

BrightSign は独自の BrightSign OS で動作します。BrightSign OS をアップデートすることで新しい機能の追加や、特定条件で発生する問題の修正を行うことがあります。また新しいバージョンの BrightAuthor を使用する場合、OS のアップデートが必須となることがあります。**BrightSign をご購入後は、開封後に必ず BrightSign OS を最新のバージョンにアップデートしてください。**

※BrightSign OS は資料によりファームウェアと表記されている場合があります。ファームウェアのバージョンとは、BrightSign OS のバージョンを表します。

BrightSign OS のバージョンの確認

BrightSign OS のバージョンはディスプレイに表示することができます。BrightSign にディスプレイ、AC アダプターを接続します。**Micro SD カード を接続しない**で AC アダプターを電源に接続し、BrightSign を起動させると『BrightSign』のロゴの下にバージョンが表示されます。

最新バージョン OS のダウンロード

BrightSign 社の Web サイトより BrightSign OS の最新バージョンをダウンロードします。BrightSign のシリーズによって対応する BrightSign OS が異なりますので適したものをダウンロードします。

<https://www.brightsign.biz/downloads/overview>

BrightSign OS のアップデート手順

- ①ダウンロードしたファイル（zip 圧縮ファイル）を解凍します。
- ②解凍したフォルダーを開き、拡張子が.bsfw のファイル（BrightSign OS アップデートファイル）を Micro SD カードにコピーします。（例）brightsign_xt4_update_x.x.xxx.bsfw
- ③アップデートファイルをコピーした Micro SD カードを BrightSign に接続します。BrightSign にはディスプレイを接続しておき、AC アダプターを接続して電源を入れます。
- ④電源を入れると Pwr LED が点灯し、Bsy LED が点滅します。ディスプレイにアップデート中であることを表すメッセージが表示され、Pwr LED が点滅します。
- ⑤BrightSign が再起動し、ディスプレイにアップデート後の OS のバージョンが表示されると完了です。アップデートは通常 3 分程度で終了します。OS のバージョンにより、アップデートに要する時間が異なる場合があります。
- ⑥アップデート完了後、Micro SD カードを取り外します。アップデートが正常に完了すると、Micro SD カードにコピーしたアップデートファイルは削除されています。

<拡張子の表示について>

Windows の初期設定ではファイルの拡張子が表示されません。BrightSign、BrightAuthor を扱う際は、拡張子を表示するように設定すると便利です。

拡張子の表示（Windows 10 の場合）

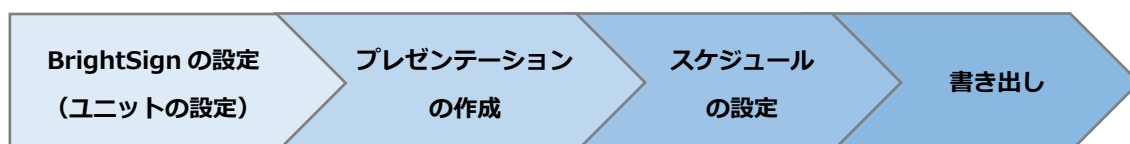
- ① スタート（Windows マーク）をクリックします。スタートメニュー（すべてのアプリ）から Windows システムツール、コントロールパネルの順にクリックします。
- ② 表示方法がカテゴリの場合は、デスクトップのカスタマイズ > エクスプローラーのオプションの順に、表示方法が大きい（小さい）アイコンの場合は、エクスプローラーのオプションをクリックします。
- ③ 表示タブをクリックして開き、詳細設定の登録されている拡張子は表示しないのチェックを外し、OKをクリックしてエクスプローラーのオプションを閉じます。

2 BrightSign で再生を行うには

BrightSign でコンテンツを再生するには、BrightAuthor で BrightSign 本体の設定を行い、プレゼンテーション、スケジュールを作成する必要があります。作成したプレゼンテーション、スケジュールを更新方法に合わせた手順で BrightSign に転送することで、コンテンツの再生が実行されます。

2-1 再生までのステップ

BrightSign でコンテンツを再生するには、「BrightSign の設定（ユニットの設定）」、「プレゼンテーションの作成」、「スケジュールの設定」、「書き出し」の4つのステップが必要です。



プレゼンテーションやスケジュールを BrightSign が読み取れるような形式に出力することを書き出しと呼びます。BrightSign は書き出したファイルを読み込んで再生を行い、書き出ししたファイルを更新することで再生する内容を変更（更新）することができます。

BrightSign を更新する方法は、①スタンドアローン（Micro SD カード差し替えによる更新）、②ローカルファイルネットワーキング（LAN 経由のプッシュ更新）、③シンプルファイルネットワーキング（Web サーバーを利用した更新）、④BrightSignNetwork.jp（クラウドサーバーを利用した更新）があります。③シンプルファイルネットワーキング、④BrightSignNetwork.jp ではインターネットを介して遠隔地の BrightSign を更新することが可能です。

2-2 BrightSign の更新方法

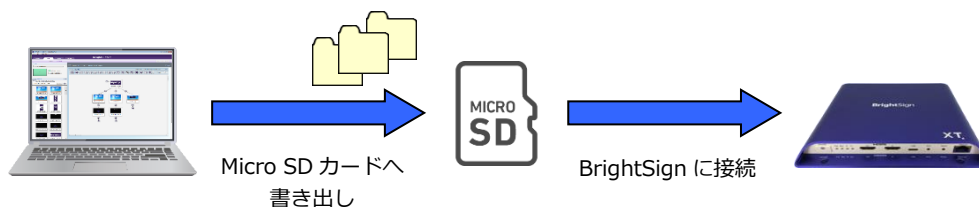
BrightSign の 4 つの更新方法（①スタンドアローン、②ローカルファイルネットワーキング、③シンプルファイルネットワーキング、④BrightSignNetwork.jp）について説明します。クラウドサービスである BrightSignNetwork.jp に関しては、本書では概要のみ説明します。BrightSignNetwork.jp の設定方法については別紙『**BrightSignNetwork.jp クイックスタートガイド**』をご参照ください。

BrightSignNetwork.jp クイックスタートガイド

https://www.jmgs.jp/pdf/media_player/BrightSignNetwork_Quick_start.pdf

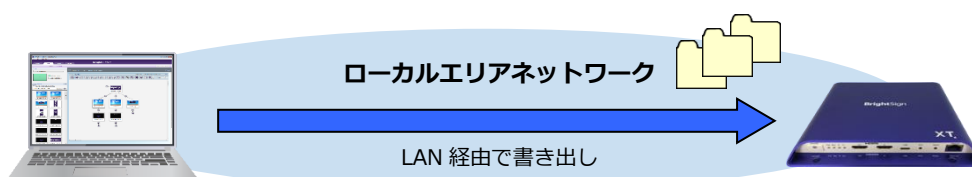
①スタンドアローン（Micro SD カード差し替えによる更新）

Micro SD カードを差し替えて行う最も基本的な更新方法です。BrightAuthor で書き出したファイルを Micro SD カードにコピーし、BrightSign に接続します。再生内容を変更する場合は Micro SD カードを BrightSign から取り外して Micro SD カードのファイルを削除し、新しいプレゼンテーションを書き出して BrightSign に接続します。（新しいプレゼンテーションを Micro SD カードに書き出す際は、上書きを使用しないでください。古いファイルを削除してから書き出しを実行します。）



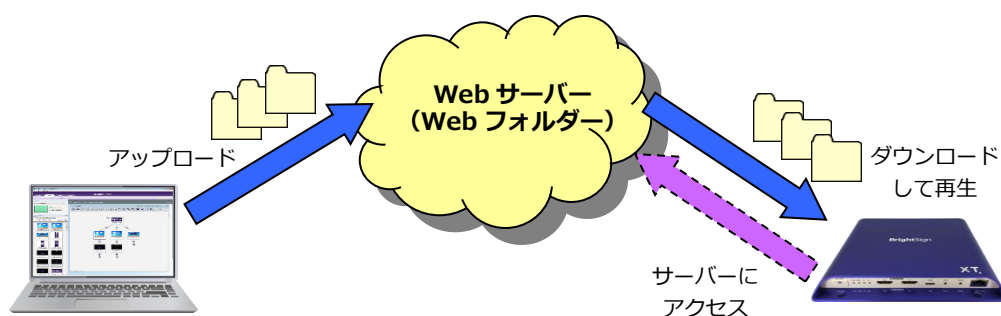
②ローカルファイルネットワーキング（LAN 経由のプッシュ更新）

BrightAuthor をインストールしたコンピューターから、ローカルエリアネットワーク（LAN）接続した BrightSign（に接続した Micro SD カード）に書き出しを実行します。再生内容を変更する場合は、上書きで書き出しを行います。コンピューターと BrightSign には同一セグメントの IP アドレスを設定する必要があります。WiFi/Beacon モジュールを内蔵した BrightSign の場合、WiFi 経由の更新が可能です。



③ シンプルファイルネットワーキング（Web サーバーを利用した更新）

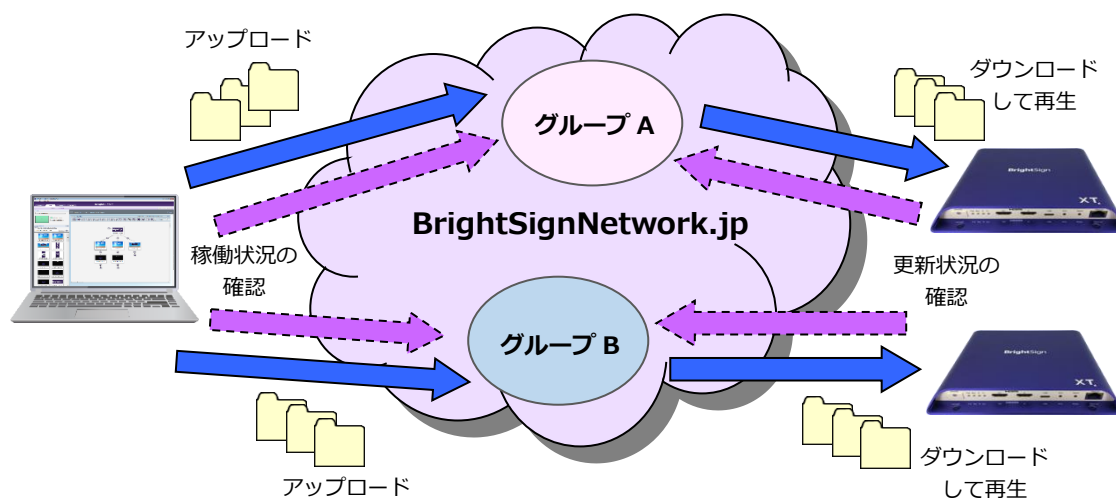
Web サーバー（Web フォルダー）を利用した更新方法です。インターネットを介した更新が可能です。BrightAuthor で書き出したファイルを Web サーバーにアップロードし、BrightSign は Web サーバーにアクセスしてプレゼンテーション、スケジュールをダウンロードし、再生を行います。同じアドレスにアクセスさせることで複数の BrightSign を同時に更新することができます。（端末ごとに異なるプレゼンテーションを再生させる場合は、アップロード先のアドレスを複数用意します。）



※Web サーバーを別途ご用意いただく必要があります。また Web サーバーにファイルをアップロードするには FTP クライアントソフトが必要です。

④ BrightSignNetwork.jp（クラウドサーバーを利用した更新）

クラウドサーバーを利用した有料の配信サービスです。インターネットを介してグループ分けによる複数の BrightSign の一括更新が可能です。またクラウドを利用した稼働状況の確認や、何らかの理由で BrightSign のアクセスが途絶えた場合に管理者にメールで知らせるなどの管理機能を持ちます。



3 BrightSign の設定（ユニットの設定）

はじめに BrightSign 本体の設定（ユニットの設定）を行います。「ユニットの設定」では BrightSign を識別するための名前の設定や、IP アドレスの設定、更新方法の選択、その他オプション機能の有効化（無効化）を行います。スタンドアローンで更新を行う場合は、一部の使い方を除き「ユニットの設定」は不要ですが、LAN 経由のプッシュ更新、インターネットを介した更新を行う場合は「ユニットの設定」が必要になります。

「ユニットの設定」は BrightSign の更新方法によって設定項目が異なります。更新方法に合わせて設定を行います。

- (1) スタンドアローン（Micro SD カードの差し替えによる更新）で使用する場合

→ **3-1 スタンドアローンの設定** を参照

- (2) ローカルファイルネットワーク（LAN を介したプッシュ更新）で使用する場合

→ **3-2 ローカルファイルネットワークの設定** を参照

- (3) シンプルファイルネットワーク（Web サーバーを利用した更新）で使用する場合

→ **3-3 シンプルファイルネットワークの設定** を参照

3-1 スタンドアローンの設定

スタンドアローンで使用する場合は、ネットワークへの接続が必要な場合（Web 上の HTML5 コンテンツを表示する、タイムサーバーに接続して時刻合わせをする等）、またはオプション機能を有効にする場合を除き、BrightSign の設定（ユニットの設定）は不要です。

設定が不要な場合は、**4 プレゼンテーション作成の基本** に進みます。

スタンドアローンの設定手順

「ユニットの設定」を行うには、BrightAuthor で設定ファイルを作成する必要があります。作成した設定ファイルを BrightSign に読み込ませることで、BrightSign 本体に設定を反映させます。

- ① BrightAuthor の編集タブで ツール > BrightSign ユニットの設定 の順にクリックすると、BrightSign ユニットの設定 ウィンドウが開きます。各項目の設定を行い、設定ファイルを作成します。

(1) 名前の設定

BrightSign を識別するための名前や説明を入力します。スタンドアロン運用の場合、設定した名前、説明はダイアグノスティック Web サーバー（診断サーバー）で確認することができます。

ダイアグノスティックサーバーの有効化については **(5) ユニットの設定** を、使い方については、**10-10 ダイアグノスティック Web サーバー** をご参照ください。

名前 : BrightSign の名前を設定します。半角英数字のみ使用できます。必須入力項目です。

説明 : BrightSign の説明を入力することができます。設置場所や再生内容を入力すると便利です。

カスタマイズ : スタンドアロンでは使用しません。

(2) ネットワークのプロパティ

IP アドレスの設定などのネットワーク接続に関する設定を行います。

無線を有効化 : WiFi を利用する場合はチェックを入れ、**SSID**、**セキュリティキー**（パスワード）を入力します。WiFi 機能は WiFi/Beacon モジュールを増設した BrightSign のみ使用できます。

パスワードを表示する : チェックを入れると入力したセキュリティキー（パスワード）を表示します。チェックを外すと非表示（例：●●●●●●●●）になります。

ネットワーク接続の優先順位：↓↑ をクリックして有線/無線 LAN のネットワーク接続の優先順位を設定します。上に表示された接続方法（有線/無線）が優先されます。↓ をクリックすると優先順位が下がります。↑ をクリックすると優先順位が上がります。はじめに優先順位が高い方に接続を試み、接続できない場合に優先順位が低い方の接続を試みます。

[詳細ネットワーク設定]

クリックすると**詳細ネットワーク設定**ウィンドウが開きます。IP アドレスの 設定や、ネットワークに関する高度な設定を行います。

【ユニットの設定】

ユニットの設定タブではホスト名の指定、プロキシの設定を行います。設定は必須ではありません。

ホスト名の指定：任意のホスト名を設定する場合はチェックを入れ、ホスト名にホスト名を入力します。
(デフォルトのホスト名：brightsign-シリアル番号)

プロキシを使用：プロキシサーバーを使用する場合はチェックを入れます。

アドレス：プロキシのアドレスを入力します。
ユーザー名とパスワードを入力する必要がある場合は、
以下のように入力します。

ユーザー名：パスワード@プロキシサーバーのアドレス
(例) admin：password@yourproxy.com

ポート：プロキシのポート番号を指定します。ポート番号を入力しない場合は「1080」をポート番号として使用します。

プロキシサーバーのバイパス：プロキシ接続の例外を設定することができます。(+) ホストを追加する をクリックしてリストに追加します。追加したホストはプロキシを使用しません。ホスト名を example.com と入力した場合、プロキシ設定から example.com、example.com:80、www.example.com が除外されます。

【有線】

有線タブでは有線 LAN 接続の設定を行います。

有効なデータ型

有線 LAN 接続で通信を許可するデータの種類の選択します。有線 LAN と無線 LAN に通信可能なデータの種類の振り分けることができます。**(2) ネットワークのプロパティの無線を有効化**にチェックを入れていない場合は変更できません。デフォルトでは全てにチェックが入っており、チェックを外すと通信を無効にします。コンテンツ、テキストフィード、メディアフィードを個別に設定可能です。

接続設定

IP アドレスを自動的に取得：IP アドレスを自動取得（DHCP から割り振られた IP アドレスを使用）する場合はチェックを入れます。

次の IP アドレスを使用：固定 IP アドレスを設定する場合にチェックを入れます。IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS 1～3をマニュアルで入力します。

ネットワーク認証

Enable 802.1X Authentication：IEEE802.1X 認証を有効にする場合はチェックを入れます。

以下の項目は **Enable 802.1X Authentication** にチェックを入れた場合に表示されます。

ネットワーク認証のバリエーションを選択

EAP-TLS、PEAP/MSCHAPv2 のいずれかにチェックを入れて選択します。

EAP-TLS：クライアント証明書とプライベートキーが必要です。次のいずれかの証明書タイプを指定することができます。

PKCS#12 : クライアント証明書とプライベートキーは PKCS#12 形式（通常は拡張子 .p12）で提供されます。[\[参照\]](#) をクリックして証明書ファイルを指定します。

X.509 PEM/DER : クライアント証明書は PEM、または DER エンコーディングを使用して X.509 証明書として提供され、キーは個別にエンコードされます。上の [\[参照\]](#) をクリックして X.509 証明書を指定し、下の [\[参照\]](#) をクリックして PEM/DER キーを指定します。

PKCS#12、または X.509 を使用している場合は、[パスフレーズの入力](#)にパスフレーズを入力してクライアント証明書を保護することができます。

PEAP/MSCHAPv2 : ユーザー名 (ID) とパスフレーズが必要です。クライアント証明書の代わりにユーザー名、パスワード方式を受け入れるようにサーバーを構成する必要があります。

追加の CA 証明書 : 認証の際に追加の PEM/DER CA 証明書が必要な場合は、[\[参照\]](#) をクリックして証明書ファイルを指定します。

<重要>

追加の CA 証明書を指定した場合、BrightSign はサーバーから送信された CA 証明書の代わりにここで指定した証明書を使用します。BrightSign は WPA Enterprise を使用して、安全性が低い可能性のあるネットワークに接続します。

【無線】

無線タブでは無線 LAN 接続 (WiFi) の設定を行います。**(2) ネットワークのプロパティで無線を有効化**にチェックを入れていない場合は、[無線タブ](#)を選択することができません。

詳細ネットワーク設定

ユニットの設定 | 有線 | **無線** | 診断

有効なデータ型

- ☒ コンテンツ (ビデオ、画像、オーディオ)
- ☒ テキストフィールド (ティッカー、ライブテキスト)
- ☒ メディアフィールド (メディア RSS、ダイナミックプレイリスト)

接続設定

☒ IP アドレスを自動的に取得

☐ 次の IP アドレスを使用 :

IP アドレス :

サブネットマスク :

デフォルトゲートウェイ :

DNS 1 :

DNS 2 :

DNS 3 :

ネットワーク認証

☐ Enable WPA Enterprise Authentication

OK キャンセル

有効なデータ型

無線 LAN 接続で通信を許可するデータの種別を選択します。有線 LAN と無線 LAN に通信可能なデータの種別を振り分けることができます。デフォルトでは全てにチェックが入っており、チェックを外すと無効にします。コンテンツ、テキストフィールド、メディアフィールドを個別に設定可能です。

接続設定

IP アドレスを自動的に取得 : IP アドレスを自動取得 (DHCP から割り振られた IP アドレスを使用する場合にチェックを入れます)。

次の IP アドレスを使用 : 固定 IP アドレスを設定する場合はチェックを入れます。IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS 1~3をマニュアルで入力します。

ネットワーク認証

Enable WPA Enterprise Authentication : WPA エンタープライズ認証を有効にする場合はチェックを入れます。

以下の項目は **Enable WPA Enterprise Authentication** にチェックを入れた場合に表示されます。

ネットワーク認証のバリエーションを選択

EAP-TLS、PEAP/MSCHAPv2 のいずれかにチェックを入れて選択します。

EAP-TLS : クライアント証明書とプライベートキーが必要です。次のいずれかの証明書タイプを指定することができます。

PKCS#12 : クライアント証明書とプライベートキーは PKCS#12 形式 (通常は拡張子.p12) で提供されます。参照 をクリックして証明書ファイルを指定します。

X.509 PEM/DER : クライアント証明書は、PEM、または DER エンコーディングを使用して X.509 証明書として提供され、キーは個別にエンコードされます。上の 参照 をクリックして X.509 証明書を指定し、下の 参照 をクリックして PEM/DER キーを指定します。

PKCS#12、または X.509 を使用している場合は、パスフレーズの入力にパスフレーズを入力してクライアント証明書を保護することができます。

PEAP/MSCHAPv2 : ユーザー名 (ID) とパスフレーズが必要です。クライアント証明書の代わりにユーザー名、パスワード方式を受け入れるようにサーバーを構成する必要があります。

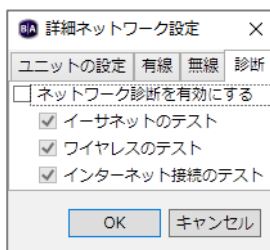
追加の CA 証明書：認証の際に追加の PEM/DER CA 証明書が必要な場合は、[参照] をクリックして証明書ファイルを指定します。

<重要>

追加の CA 証明書を指定した場合、BrightSign はサーバーから送信された CA 証明書の代わりにここで指定した証明書を使用します。BrightSign は WPA Enterprise を使用して、安全性が低い可能性のあるネットワークに接続します。

【診断】

「ユニットの設定」を実行する際にネットワークの接続テストを行うことができます。テスト結果はディスプレイに表示されます。「BrightSign」のロゴが表示された後、診断を実行します。



ネットワーク診断を有効にする：チェックを入れるとセットアップ中にネットワーク接続のテストを行います。

イーサネットのテスト：有線 LAN 接続のテストを行います。

ワイヤレスのテスト：無線 LAN（WiFi）接続のテストを行います。**(2) ネットワークのプロパティの無線を有効化**にチェックを入れていないと選択することができません。

インターネット接続のテスト：インターネットの接続テストを行います。

接続テストの結果、接続に問題がない場合は、ディスプレイに **Test passed – proceeding...** と表示され、セットアップを続行します。接続に失敗した場合は **Restarting Test in 30 seconds** と表示され、30 秒のカウントダウンの後に再度、テストを実行します。LAN ケーブルの接続や、ルーターの設定を確認してください。

タイムゾーン：スケジュール再生を行う際は正しいタイムゾーンを選択します。日本標準時の場合は JST : Japanese Standard Time を選択します。また BrightSign の時刻合わせを行う必要があります。ネットワークに接続できる場合は、**タイムサーバー** に設定されたアドレスにアクセスして時刻を合わせます。タイムサーバーに接続せずに時刻を合わせる方法は **10-8 時刻の設定** をご参照ください。

タイムサーバー：時刻合わせのためにアクセスするタイムサーバーのアドレスを入力します。初期値として BrightSign 社のアドレスが入力されています。特にアクセス先のタイムサーバーを指定する必要がない場合は、初期値のままで問題ありません。

(3) ファームウェア

「ユニットの設定」の際にファームウェア（BrightSign OS）のアップデートを行うことができます。アップデートを行わない場合は、次の項目に進みます。

[ファームウェア更新の指定]：BrightSign OS のアップデートを行う場合はクリックします。ファームウェア更新ウィンドウが開きます。

BrightSign のモデルに合わせてアップデートするバージョンを選択します。各モデル名の下に表示されるバージョンにチェックを入れて選択します。または特定のファイルを選択にチェックを入れ、**[参照]**をクリックしてアップデートファイルを指定し、**[OK]**をクリックします。全てのモデルで更新しないを選択するか**[キャンセル]**をクリックするとアップデートをキャンセルします。

製品版リリース：バージョン X.X.XX

BrightAuthor 4.7.2.8 がリリースされた時点の最新の正式リリースバージョンです。

ベータ版リリース：バージョン X.X.XX

ベータ版です。製品版リリースに新しい機能が追加、または特定条件下で発生する不具合が解消されている場合がありますが、未確認の不具合を含む場合もあります。ベータ版で不具合が生じた場合は、他のバージョンで上書きしてください。

最小互換リリース：バージョン X.X.XX

BrightAuthor 4.7.2.8 に対応する最も古いバージョンです。

特定のファイルを選択

アップデートファイルを使用して特定のバージョンにアップデートします。[参照] をクリックしてアップデートファイル（拡張子.bsfw）を選択し、[開く] をクリックします。

（アップデートファイルのダウンロードについては **1-4 BrightSign OS のアップデート** を参照）

※最小互換リリースより古いバージョンの BrightSign OS にアップデートした場合、BrightAuthor で書き出したファイルを再生できなくなります。最小互換リリース以降のバージョンに上書きアップデートしてください。

(4) スプラッシュ画面

スプラッシュ画面（起動画面）に表示される「BrightSign」のロゴを他の画像に置き換えることができます。置き換えを行わない場合は、次の項目に進みます。

標準スプラッシュ画面：標準の起動画面を使用します。「BrightSign」ロゴが表示されます。

カスタムスプラッシュ画面：指定した画像ファイルをスプラッシュ画面に使用することができます。

[参照] をクリックしてファイルを指定し、[開く] をクリックします。

※カスタムスプラッシュ画面で使用する画像ファイルは、**解像度 332 x 72、.png ファイル、背景を黒**にすると最も綺麗に表示できます。スプラッシュ画面で指定した画像はスケーリングされませんので、解像度の大きな画像ファイルを使用した場合、スプラッシュ画面に表示される情報（BrightSign OS のバージョンなどの表示）が画面外に押し出され、正しく表示されない場合があります。

(5) ユニットの設定

ダイアグノスティック Web サーバー、ローカル Web サーバーの有効/無効化の設定を行い、BrightSign の更新方法を選択します。ダイアグノスティック Web サーバー、ローカル Web サーバーを使用しない場合は、**スタンドアロン**にチェックを入れ、次の項目に進みます。

ダイアグノスティック Web サーバーを有効にする : チェックを入れて有効にすると、Web ブラウザーを利用して BrightSign にアクセスし、BrightSign の情報の確認、時間の設定、ログの確認、再起動、ネットワーク診断などの操作が実行できます。

ダイアグノスティックサーバー認証 (オプション) : Web ブラウザーで BrightSign にアクセスした際にユーザー名、パスワードの入力を求めることができます。ユーザー名は admin で固定 (変更不可) です。パスワードのみ任意で設定することができます。

ローカル Web サーバーを有効にする : スタンドアロンでは、ローカル Web サーバー機能を有効にすることで、Web ブラウザーを利用してユーザー変数の変更ができます。

ローカル Web サーバー認証 (オプション) : Web ブラウザーで BrightSign にアクセスした際に、ユーザー名、パスワードの入力を求めることができます。設定する場合は、ユーザー名、パスワードを入力します。

更新通知を有効にする : チェックを入れるとユーザー変数が変更された際に、ユーザー変数の Web ページを自動的に更新します。

スタンドアロン : チェックを入れます。スタンドアロンで更新を行う場合にチェックが必要です。

USB コンテンツ更新パスワード (オプション) :

USB コンテンツ更新を行う際に、パスワードを設定することができます。パスワードが一致しないと更新を行いません。(USB コンテンツ更新については、**10-7 USB 更新** を参照)

(6) ビーコン (XT/4K/2K、XDx33、HDx23、LS423 のみ) ※

ビーコンの設定を行います。設定したビーコン信号を永続的に出力します。**WiFi/Beacon モジュールを増設したシリーズ 3/シリーズ 4 の BrightSign のみ有効です。**ビーコンを追加する (+) をクリックしてビーコンデータウインドウを開きます。BrightSign ではプレゼンテーションに連動してビーコン信号を切り替えることもできます。(10-6 Bright Beacon 参照)

※シリーズ 4 (XT4/XD4/HD4/LS4) もビーコン に対応します。

名前：ビーコンデータに名前を設定します。

タイプ：ビーコンの通信方式を [iBeacon]、[Eddystone URL]、[Eddystone UID] から選択します。

[iBeacon]

UUID：16bit、32bit、または 128bit UUID を入力します。16bit UUID はハイフンを含まない 4 桁の 16 進数、32bit UUID はハイフンを含まない 8 桁の 16 進数を入力し、128bit UUID はハイフンを含めた正確な値を入力します。[作成] をクリックすると 128bit 形式の UUID を自動生成します。

メジャー：メジャー値を入力します。(0～65535)

マイナー：マイナー値を入力します。(0～65535)

Tx パワー：TxPower の値を入力します。

[Eddystone URL]

URL：URL を入力します。

Tx パワー：TxPower の値を入力します。

[Eddystone UID]

ネームスペース：Namespace を 10byte (20 桁の 16 進数) で入力します。[作成] をクリックすると自動生成します。

インスタンス：Instance を 6byte (12 桁の 16 進数) で入力します。

Tx パワー：TxPower の値を入力します。

(7) ログの作成

チェックを入れた項目のログファイルを作成します。ログは USB メモリーに抽出することができます。USB ポートのないモデルでは抽出できません。一部のログ情報はダイアグノスティック Web サーバーでも確認することができます。

再生ログを有効にする：再生の開始時刻と終了時刻、ゾーン名、メディアタイプ、ファイル名を記録します。

イベントログを有効にする：タイムスタンプ、ステート名、ゾーン名、イベントタイプ、イベントデータを記録します。

ステートログを有効にする：現在、及び直前のステート名、タイムスタンプ、メディアタイプを記録します。

ダイアグノスティックログを有効にする：タイムスタンプ、ファームウェア（BrightSign OS）とスクリプトのバージョン、プレゼンテーションを記録します。

変数ロギングを使用する：プレゼンテーション内の全てのユーザー変数について、現在の値と初期設定値を記録します。

(8) リモートスナップショット

リモートスナップショットは、BrightSign が表示する映像のスナップショット（スクリーンショット）を保存し、遠隔で確認することができる機能です。スタンドアローンの場合は、ダイアグノスティック Web サーバーで確認することができます。

リモートスナップショットの有効化：チェックを入れるとリモートスナップショットを有効にします。

リモートスナップショットを [] 分ごとに取得する。：スナップショットを保存する頻度を分単位で設定します。半角数字で入力します。例えば [15] と入力した場合、15 分ごとにスナップショットを保存します。

最大 [] 枚 (1~100) の画像をローカルストレージに保存する。：スナップショットを保存する最大数を 1~100 の半角数字で設定します。設定した最大数まで保存すると、最も古いスナップショットを削除し、新しいスナップショットを保存します。

JPEG 品質レベル [] (0~100)：保存するスナップショットの画質を設定します。0~100 の半角数字で設定します。数値を大きくすると高画質で保存できますが、Micro SD カードの容量を消費します。数値を小さくすると容量の消費を抑えることができますが、あまり数値を小さくするとスナップショットの視認が難しくなります。

スナップショットをポートレートモードで表示：スナップショットを縦表示で保存する場合はチェックを入れます。

(9) RF チャンネルスキャン：日本国内、及び現行モデルでは使用しません。

(10) 画面の色：スタンドアローンでは使用しません。

②各種の設定を入力後、[設定ファイルの作成] をクリックして設定ファイルの保存先を選択し、[OK] をクリックします。設定ファイルをデスクトップなどに一時的に保存する際は、保存用にフォルダーを作成することをお勧めします。設定ファイルは複数のファイル、フォルダーで構成されます。

③保存した設定ファイルを Micro SD カードにコピーし、BrightSign に接続します。BrightSign にはディスプレイを接続しておきます。BrightSign に AC アダプターを接続して電源を入れます。

④BrightSign が設定ファイルを読み込みます。ディスプレイに「Standalone Setup is complete – you may now remove the card」と表示されると設定は完了です。**Micro SD カードを取り外します。**

以上でスタンドアローンの設定が完了です。プレゼンテーションの作成、スケジュールの設定を行い、書き出しを行います。**4 プレゼンテーション作成の基本**に進みます。

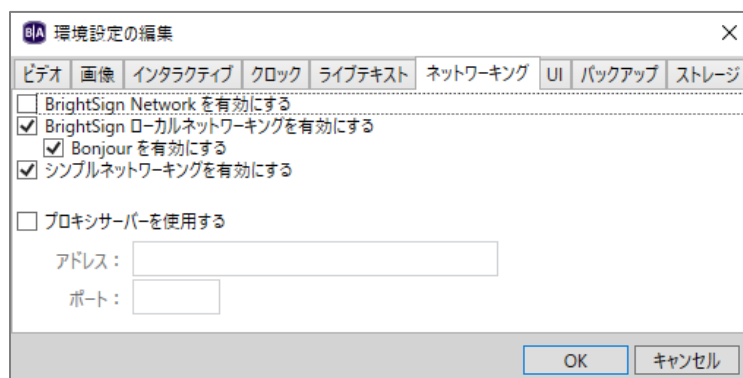
3-2 ローカルファイルネットワーキングの設定

ローカルファイルネットワーキング機能を使用して LAN 経由の更新を行う場合は、「ユニットの設定」が必要になります。BrightAuthor で設定ファイルを作成します。作成した設定ファイルを BrightSign に読み込ませることで設定を反映させます。

ローカルファイルネットワーキングの設定手順

①はじめに BrightAuthor でローカルファイルネットワーキングが有効になっていることを確認します。
BrightSign ユニットの設定ウィンドウでローカルファイルネットワーキングが選択できない（グレーアウトしている）場合も以下を確認します。（初期設定では有効になっています。）

編集タブで 編集 > 環境設定 の順にクリックして、環境設定の編集ウィンドウを開き、ネットワーキングタブを開きます。

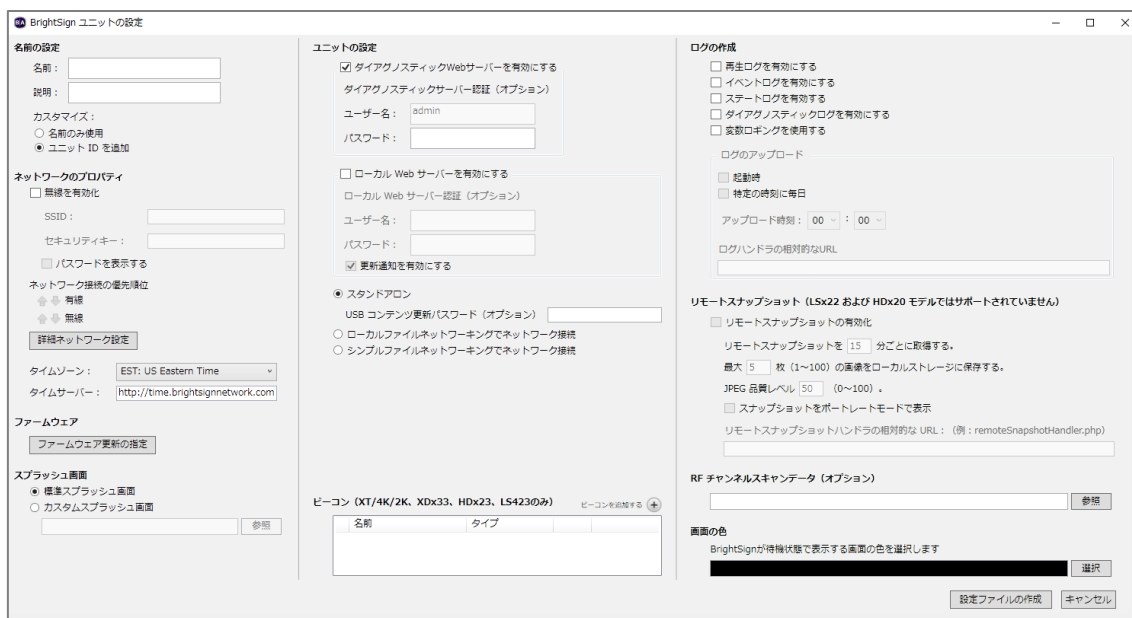


BrightSign ローカルネットワーキングを有効にする にチェックを入れ、[OK] をクリックします。

Bonjour を有効にする にチェックを入れてると、BrightAuthor がネットワーク上にあるローカルファイルネットワーキング設定がされた BrightSign を自動的に検出します。

※Bonjour は Apple 社のソフトウェアです。Bonjour を使用するには事前に Apple 社のホームページより Bonjour を入手し、インストールしておく必要があります。

②編集タブで ツール > BrightSign ユニットの設定 の順にクリックすると BrightSign ユニットの設定 ウィンドウが開きます。各項目の設定を行い、設定ファイルを作成します。



(1) 名前の設定

BrightSign を識別するための名前や説明を入力します。設定した名前は LAN 経由で更新する際に BrightSign の識別に使用します。またダイアグノスティック Web サーバー（診断サーバー）で確認することもできます。

ダイアグノスティック Web サーバーの有効化については **(5) ユニットの設定**を、使い方については、**10-10 ダイアグノスティック Web サーバー** をご参照ください。

名前 : BrightSign を識別する名前を設定します。半角英数字のみ使用できます。名前はプレゼンテーションを BrightSign に転送する際に、BrightAuthor に表示されます。必須入力項目です。

説明 : BrightSign の説明を入力することができます。設置場所や再生内容を入力すると便利です。設定した説明は、ダイアグノスティック Web サーバーで確認することができます。

カスタマイズ : プレゼンテーションを BrightSign に転送する際、BrightAuthor に表示される名前の後ろに BrightSign のシリアル番号を加えることができます。

名前のみ使用 : チェックを入れると名前のみ表示し、シリアル番号を表示しません。BrightSign のシリアル番号はダイアグノスティック Web サーバーでも確認することができます。

ユニット ID を追加 : チェックを入れると名前の後にシリアル番号を表示します。

(2) ネットワークのプロパティ

ネットワーク接続に関する設定を行います。ローカルファイルネットワーキングでは、IP アドレスで BrightSign を検出するため、BrightSign に任意の IP アドレスを設定する必要があります。

無線を有効化 : WiFi を利用する場合はチェックを入れ、SSID、セキュリティキー（パスワード）を入力します。WiFi 機能は WiFi/Beacon モジュールを増設した BrightSign のみ使用できます。

パスワードを表示する : チェックを入れると入力したセキュリティキー（パスワード）を表示します。チェックを外すと非表示（例：●●●●●●●●）になります。

ネットワーク接続の優先順位：↓↑ をクリックして有線/無線 LAN のネットワーク接続の優先順位を設定します。上に表示された接続方法（有線/無線）が優先されます。↓ をクリックすると優先順位が下がります。↑ をクリックすると優先順位が上がります。はじめに優先順位が高い方に接続を試み、接続できない場合に優先順位が低い方の接続を試みます。

【詳細ネットワーク設定】

クリックすると**詳細ネットワーク設定**ウィンドウが開きます。IP アドレスの 設定や、ネットワークに関する高度な設定を行います。

【ユニットの設定】

ユニットの設定タブではホスト名の指定、プロキシの設定を行います。設定は必須ではありません。

ホスト名の指定：任意のホスト名を設定する場合はチェックを入れ、ホスト名にホスト名を入力します。
（デフォルトのホスト名：brightsign-シリアル番号）

プロキシを使用：プロキシサーバーを使用する場合はチェックを入れます。

アドレス：プロキシのアドレスを入力します。
ユーザー名とパスワードを入力する必要がある場合は、以下のように入力します。

ユーザー名：パスワード@プロキシサーバーのアドレス
（例）admin：password@yourproxy.com

ポート：プロキシのポート番号を指定します。ポート番号を入力しない場合は「1080」をポート番号として使用します。

プロキシサーバーのバイパス：プロキシ接続の例外を設定することができます。（+）ホストを追加するをクリックしてバイパスリストにホストを追加します。バイパスリストに追加したホストはプロキシを介さず直接アクセスします。例えばホスト名を“example.com”と入力した場合、プロキシ設定から“example.com”、“example.com:80”、及び “www.example.com”が除外されます。

【有線】

有線タブでは有線 LAN 接続の設定を行います。

有効なデータ型

有線 LAN 接続で通信を許可するデータの種別を選択します。有線 LAN と無線 LAN に通信可能なデータの種別を振り分けることができます。**(2) ネットワークのプロパティの無線を有効化**にチェックを入れていない場合は変更できません。デフォルトでは全てにチェックが入っており、チェックを外すと通信を無効にします。コンテンツ、テキストフィード、メディアフィードを個別に設定可能です。

接続設定

IP アドレスを自動的に取得：IP アドレスを自動取得（DHCP から割り振られた IP アドレスを使用）する場合にチェックを入れます。

次の IP アドレスを使用：固定 IP アドレスを設定する場合にチェックを入れます。IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS 1～3をマニュアルで入力します。

ネットワーク認証

Enable 802.1X Authentication：IEEE802.1X 認証を有効にする場合はチェックを入れます。

以下の項目は **Enable 802.1X Authentication** にチェックを入れた場合に表示されます。

ネットワーク認証のバリエーションを選択

EAP-TLS、PEAP/MSCHAPv2 のいずれかにチェックを入れて選択します。

EAP-TLS：クライアント証明書とプライベートキーが必要です。次のいずれかの証明書タイプを指定することができます。

PKCS#12 : クライアント証明書とプライベートキーは PKCS#12 形式 (通常は拡張子 .p12) で提供されます。[参照] をクリックして証明書ファイルを指定します。

X.509 PEM/DER : クライアント証明書は、PEM、または DER エンコーディングを使用して X.509 証明書として提供され、キーは個別にエンコードされます。上の [参照] をクリックして X.509 証明書を指定し、下の [参照] をクリックして PEM/DER キーを指定します。

PKCS#12、または X.509 を使用している場合は、パスフレーズの入力にパスフレーズを入力してクライアント証明書を保護することができます。

PEAP/MSCHAPv2 : ユーザー名 (ID) と パスフレーズが必要です。クライアント証明書の代わりにユーザー名、パスワード方式を受け入れるようにサーバーを構成する必要があります。

追加の CA 証明書 : 認証の際に追加の PEM/DER CA 証明書が必要な場合は、[参照] をクリックして証明書ファイルを指定します。

<重要>

追加の CA 証明書を指定した場合、BrightSign はサーバーから送信された CA 証明書の代わりにここで指定した証明書を使用します。BrightSign は WPA Enterprise を使用して、安全性が低い可能性のあるネットワークに接続します。

【無線】

無線タブでは無線 LAN 接続 (WiFi) の設定を行います。**(2) ネットワークのプロパティの無線を有効化**にチェックを入れていない場合は選択することができません。

詳細ネットワーク設定

ユニットの設定 | 有線 | **無線** | 診断

有効なデータ型

- ☒ コンテンツ (ビデオ、画像、オーディオ)
- ☒ テキストフィールド (ティッカー、ライブテキスト)
- ☒ メディアフィールド (メディア RSS、ダイナミックプレイリスト)

接続設定

☒ IP アドレスを自動的に取得

☐ 次の IP アドレスを使用 :

IP アドレス :

サブネットマスク :

デフォルトゲートウェイ :

DNS 1 :

DNS 2 :

DNS 3 :

ネットワーク認証

☐ Enable WPA Enterprise Authentication

OK キャンセル

有効なデータ型

無線 LAN 接続で通信を許可するデータの種類の選択します。有線 LAN と無線 LAN に通信可能なデータの種類の振り分けることができます。デフォルトでは全てにチェックが入っており、チェックを外すと無効にします。コンテンツ、テキストフィールド、メディアフィールドを個別に設定可能です。

接続設定

IP アドレスを自動的に取得 : IP アドレスを自動取得 (DHCP から割り振られた IP アドレスを使用) する場合にチェックを入れます。

次の IP アドレスを使用 : 固定 IP アドレスを設定する場合はチェックを入れます。IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS 1~3をマニュアルで入力します。

ネットワーク認証

Enable WPA Enterprise Authentication : WPA エンタープライズ認証を有効にする場合はチェックを入れます。

以下の項目は **Enable WPA Enterprise Authentication** にチェックを入れた場合に表示されます。

ネットワーク認証のバリエーションを選択

EAP-TLS、PEAP/MSCHAPv2 のいずれかにチェックを入れて選択します。

EAP-TLS : クライアント証明書とプライベートキーが必要です。次のいずれかの証明書タイプを指定することができます。

PKCS#12 : クライアント証明書とプライベートキーは PKCS#12 形式 (通常は拡張子.p12) で提供されます。[参照] をクリックして証明書ファイルを指定します。

X.509 PEM/DER : クライアント証明書は、PEM、または DER エンコーディングを使用して X.509 証明書として提供され、キーは個別にエンコードされます。上の [参照] をクリックして X.509 証明書を指定し、下の [参照] をクリックして PEM/DER キーを指定します。

PKCS#12、または X.509 を使用している場合は、パスフレーズの入力にパスフレーズを入力してクライアント証明書を保護することができます。

PEAP/MSCHAPv2 : ユーザー名 (ID) とパスフレーズが必要です。クライアント証明書の代わりにユーザー名、パスワード方式を受け入れるようにサーバーを構成する必要があります。

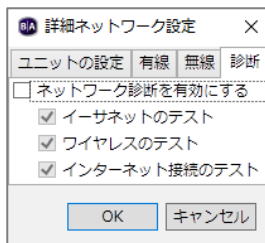
追加の CA 証明書：認証の際に追加の PEM/DER CA 証明書が必要な場合は、[参照] をクリックして証明書ファイルを指定します。

<重要>

追加の CA 証明書を指定した場合、BrightSign はサーバーから送信された CA 証明書の代わりにここで指定した証明書を使用します。BrightSign は WPA Enterprise を使用して、安全性が低い可能性のあるネットワークに接続します。

【診断】

「ユニットの設定」を実行する際にネットワークの接続テストを行うことができます。テスト結果はディスプレイに表示されます。「BrightSign」のロゴが表示された後、診断を実行します。



ネットワーク診断を有効にする：チェックを入れるとセットアップ中にネットワーク接続のテストを行います。

イーサネットのテスト：有線 LAN 接続のテストを行います。

ワイヤレスのテスト：無線 LAN (WiFi) 接続のテストを行います。(2) ネットワークのプロパティの無線を有効化にチェックを入れていない場合は選択することができません。

インターネット接続のテスト：インターネットの接続テストを行います。

接続テストの結果、接続に問題がない場合は、ディスプレイに **Test passed – proceeding...** と表示され、セットアップを続けます。接続に失敗した場合は、**Restarting Test in 30 seconds** と表示され、30 秒のカウントダウンの後に再度、テストを実行します。LAN ケーブルの接続や、ルーターの設定を確認してください。

タイムゾーン：スケジュール再生を行う際は正しいタイムゾーンを選択します。日本標準時の場合は JST : Japanese Standard Time を選択します。また BrightSign の時刻合わせを行う必要があります。ネットワークに接続できる場合は、**タイムサーバー** に設定されたアドレスにアクセスして時刻を合わせます。タイムサーバーに接続せずに時刻を合わせる方法は **10-8 時刻の設定** をご参照ください。

タイムサーバー：時刻合わせのためにアクセスするタイムサーバーのアドレスを入力します。初期値として BrightSign 社のアドレスが入力されています。特にアクセス先のタイムサーバーを指定する必要がない場合は、初期値のままで問題ありません。

(3) ファームウェア

ユニットの設定の際にファームウェア（BrightSign OS）の更新を行うことができます。更新をしない場合は、次の項目に進みます。

[ファームウェア更新の指定]：セットアップの際に BrightSign OS の更新を行う場合はクリックします。
ファームウェア更新ウインドウが開きます。

BrightSign のモデルに合わせてアップデートするバージョンを選択します。各モデル名の下に表示されるバージョンにチェックを入れて選択します。または特定のファイルを選択にチェックを入れ、
[参照] をクリックしてアップデートファイルを指定し、[OK] をクリックします。全てのモデルで 更新しない を選択するか [キャンセル] をクリックするとアップデートをキャンセルします。

The screenshot shows the 'ファームウェア更新' (Firmware Update) window. It contains the following sections:

- XD234, XD1034, XT244, XT1144**:
 - ☐ 製品版リリース: バージョン 7.1.95
 - ☐ ベータ版リリース: バージョン 8.0.11
 - ☐ 最小互換リリース: バージョン 7.1.12.2
 - ☐ 特定のファイルを選択
 - ☒ 更新しない
- HD1024, HD224, LS424, HS124, HS144**:
 - ☐ 製品版リリース: バージョン 8.0.6.6
 - ☐ ベータ版リリース: バージョン 8.0.11
 - ☐ 最小互換リリース: バージョン 8.0.6.6
 - ☐ 特定のファイルを選択
 - ☒ 更新しない
- LS423, HD223, HD1023, HS123, HS523, HD1423**:
 - ☐ 製品版リリース: バージョン 7.1.95
 - ☐ ベータ版リリース: バージョン 8.0.11
 - ☐ 最小互換リリース: 使用不可
 - ☐ 特定のファイルを選択
 - ☒ 更新しない
- XD233, XD1033, XT243, XT1143**:
 - ☐ 製品版リリース: バージョン 7.1.95
 - ☐ ベータ版リリース: バージョン 8.0.11
 - ☐ 最小互換リリース: 使用不可
 - ☐ 特定のファイルを選択
 - ☒ 更新しない
- HD222, HD1022, HD922, HD972**:
 - ☐ 製品版リリース: バージョン 7.1.65
 - ☐ ベータ版リリース: バージョン 7.1.95
 - ☐ 最小互換リリース: 使用不可
 - ☐ 特定のファイルを選択
 - ☒ 更新しない
- XD232, XD1032, XD1132**:
 - ☐ 製品版リリース: バージョン 7.1.65
 - ☐ ベータ版リリース: バージョン 7.1.95
 - ☐ 最小互換リリース: 使用不可
 - ☐ 特定のファイルを選択
 - ☒ 更新しない
- HD120, HD220, LS322, LS422, HD1020, AU320**:
 - ☐ 製品版リリース: バージョン 6.1.76
 - ☐ ベータ版リリース: バージョン 6.1.76
 - ☐ 最小互換リリース: 使用不可
 - ☐ 特定のファイルを選択
 - ☒ 更新しない
- XD230, XD1030, XD1230**:
 - ☐ 製品版リリース: バージョン 6.1.76
 - ☐ ベータ版リリース: バージョン 6.1.76
 - ☐ 最小互換リリース: 使用不可
 - ☐ 特定のファイルを選択
 - ☒ 更新しない
- 4K242, 4K1042, 4K1142**:
 - ☐ 製品版リリース: バージョン 7.1.95
 - ☐ ベータ版リリース: バージョン 8.0.11
 - ☐ 最小互換リリース: 使用不可
 - ☐ 特定のファイルを選択
 - ☒ 更新しない
- HD970**:
 - ☐ 製品版リリース: バージョン 6.2.45
 - ☐ ベータ版リリース: バージョン 6.2.45
 - ☐ 最小互換リリース: 使用不可
 - ☐ 特定のファイルを選択
 - ☒ 更新しない

At the bottom right, there are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

製品版リリース: バージョン X.X.XX

BrightAuthor 4.7.2.8 がリリースされた時点の正式な最新バージョンです。

ベータ版リリース：バージョン X.X.XX

ベータ版です。製品版リリースに新しい機能が追加、または特定条件下で発生する不具合が解消されている場合がありますが、未確認の不具合を含む場合があります。ベータ版で不具合が生じた場合は、他のバージョンで上書きしてください。

最小互換リリース：バージョン X.X.XX

BrightAuthor 4.7.2.8 に対応する最も古いバージョンです。

特定のファイルを選択

アップデートファイルを使用して特定のバージョンにアップデートします。[参照] をクリックしてアップデートファイル（拡張子.bsfw）を選択し、[開く] をクリックします。

（アップデートファイルのダウンロードについては **1-4 BrightSogn OS のアップデート** を参照）

※BrightSign OS を最小互換リリースより古いバージョンでアップデートした場合、BrightAuthor で書き出したファイルを再生できなくなります。最小互換リリース以降のバージョンに上書きアップデートしてください。

(4) スプラッシュ画面

スプラッシュ画面（起動画面）に表示される「BrightSign」のロゴを他の画像に置き換えることができます。置き換えを行わない場合は、次の項目に進みます。

標準スプラッシュ画面：標準の起動画面を使用します。「BrightSign」ロゴが表示されます。

カスタムスプラッシュ画面：指定した画像ファイルをスプラッシュ画面に使用することができます。

[参照] をクリックしてファイルを指定し、[開く] をクリックします。

※カスタムスプラッシュ画面で使用する画像ファイルは、**解像度 332 x 72、.png ファイル、背景を黒**にすると最も綺麗に表示できます。スプラッシュ画面で指定した画像はスケーリングされませんので、解像度の大きな画像ファイルを使用した場合、スプラッシュ画面に表示される情報（BrightSign OS のバージョンなどの表示）が画面外に押し出され、正しく表示されない場合があります。

(5) ユニットの設定

ダイアグノスティック Web サーバー、ローカル Web サーバーの有効/無効化の設定を行い、BrightSign の更新方法を選択します。ローカルファイルネットワーキングを選択すると、ローカル Web サーバーが自動的に有効になります。（ローカル Web サーバーを無効にすると スタンドアロン が選択されます。）

ダイアグノスティック Web サーバーを有効にする：チェックを入れて有効にすることで、Web ブラウザーで BrightSign にアクセスし、BrightSign の情報の確認、時間の設定、ログの確認、再起動、ネットワーク診断などの操作が実行できます。

ダイアグノスティックサーバー認証 (オプション)：Web ブラウザーで BrightSign にアクセスした際にユーザー名、パスワードの入力を求めることができます。ユーザー名は admin で固定 (変更不可) です。パスワードのみ任意で設定することができます。

ローカル Web サーバーを有効にする：ローカルファイルネットワーキングを利用する場合は有効にする必要があります。有効にすることで Web ブラウザーを利用したユーザー変数の変更が可能です。

ローカル Web サーバー認証 (オプション)：Web ブラウザーで BrightSign にアクセスした際に、ユーザー名、パスワードの入力を求めることができます。設定する場合は、ユーザー名、パスワードを入力します。

更新通知を有効にする：チェックを入れるとユーザー変数が変更された際に、ユーザー変数の Web ページを自動的に更新します。

ローカルファイルネットワーキングでネットワーク接続：チェックを入れます。ローカルファイルネットワーキングを使用する場合にチェックが必要です。

(6) ビーコン (XT/4K/2K、XDx33、HDx23、LS423 のみ) ※

ビーコンの設定を行います。設定したビーコン信号を永続的に出力します。**WiFi/Beacon モジュールを増設したシリーズ 3/シリーズ 4 の BrightSign のみ有効です。**ビーコンを追加する (+) をクリックしてビーコンデータウインドウを開きます。BrightSign ではプレゼンテーションに連動してビーコン信号を切り替えることもできます。(10-6 Bright Beacon 参照)

※シリーズ 4 (XT4/XD4/HD4/LS4) もビーコンに対応します。

名前：ビーコンデータに名前を設定します。

タイプ：ビーコンの通信方式を [iBeacon]、[Eddystone URL]、[Eddystone UID] から選択します。

[iBeacon]

UUID：16bit、32bit、または 128bit UUID を入力します。16bit UUID はハイフンを含まない 4 桁の 16 進数、32bit UUID はハイフンを含まない 8 桁の 16 進数を入力し、128bit UUID はハイフンを含めた正確な値を入力します。[作成] をクリックすると 128bit 形式の UUID を自動生成します。

メジャー：メジャー値を入力します。(0～65535)

マイナー：マイナー値を入力します。(0～65535)

Tx パワー：TxPower の値を入力します。

[Eddystone URL]

URL：URL を入力します。

Tx パワー：TxPower の値を入力します。

[Eddystone UID]

ネームスペース：Namespace を 10byte (20 桁の 16 進数) で入力します。[作成] をクリックすると自動生成します。

インスタンス：Instance を 6byte (12 桁の 16 進数) で入力します。

Tx パワー：TxPower の値を入力します。

(7) ログの作成

チェックを入れた項目のログファイルを作成します。ログは USB メモリーに抽出することができます。USB ポートのないモデルでは抽出できません。一部のログ情報はダイアグノスティック Web サーバーでも確認することができます。

再生ログを有効にする：再生の開始時刻と終了時刻、ゾーン名、メディアタイプ、ファイル名を記録します。

イベントログを有効にする：タイムスタンプ、ステート名、ゾーン名、イベントタイプ、イベントデータを記録します。

ステートログを有効にする：現在、及び直前のステート名、タイムスタンプ、メディアタイプを記録します。

ダイアグノスティックログを有効にする：タイムスタンプ、ファームウェア（BrightSign OS）とスクリプトのバージョン、プレゼンテーションを記録します。

変数ロギングを使用する：プレゼンテーション内の全てのユーザー変数について、現在の値と初期設定値を記録します。

(8) リモートスナップショット

リモートスナップショットは、BrightSign が表示する映像のスナップショット（スクリーンショット）を保存し、遠隔で確認することができる機能です。ローカルファイルネットワークワーキングの場合は、BrightAuthor、またはダイアグノスティック Web サーバーでスナップショットの確認ができます。

リモートスナップショットの有効化：チェックを入れるとリモートスナップショットを有効にします。

リモートスナップショットを [] 分ごとに取得する。：スナップショットを保存する頻度を分単位で設定します。半角数字で入力します。例えば [15] と入力した場合、15 分ごとにスナップショットを保存します。

最大 [] 枚 (1~100) の画像をローカルストレージに保存する。：スナップショットを保存する最大数を 1~100 の半角数字で設定します。設定した最大数まで保存すると、最も古いスナップショットを削除し、新しいスナップショットを保存します。

JPEG 品質レベル [] (0~100)：保存するスナップショットの画質を設定します。0~100 の半角数字で設定します。数値を大きくすると高画質で保存できますが、Micro SD カードの容量を消費します。数値を小さくすると容量の消費を抑えることができますが、あまり数値を小さくするとスナップショットの視認が難しくなります。

スナップショットをポートレートモードで表示：スナップショットを縦表示で保存する場合はチェックを入れます。

(9) RF チャンネルスキャン：日本国内、及び現行モデルでは使用しません。

(10) 画面の色

セットアップが完了した後に表示する画面の色を設定することができます。初期設定では「黒」に設定されており、変更するとセットアップの完了を判別しやすく便利です。[選択] をクリックすると色の設定ウィンドウが開きます。基本色から選択、または、色の作成で色を作成し、[OK] をクリックして決定します。セットアップが完了後、ディスプレイが選択した色で表示されます。

③設定の入力を終了後、[設定ファイルの作成] をクリックして設定ファイルの保存先を選択し、[OK] をクリックします。設定ファイルをデスクトップなどに一時的に保存する際は、保存用にフォルダーを作成することをお勧めします。設定ファイルは複数のファイル、フォルダーで構成されます。

④保存した設定ファイルを Micro SD カードにコピーし、BrightSign に接続します。BrightSign にはディスプレイを接続しておきます。BrightSign に AC アダプターを接続して電源を入れます。

⑤BrightSign が設定ファイルを読み込みます。ディスプレイの表示が **(10) 画面の色** で設定した色に変わると設定は完了です。

BrightAuthor からプレゼンテーションを転送する準備ができました。プレゼンテーションは BrightSign に接続した Micro SD カードに保存されますので **Micro SD カードは接続したままにします。**

以上でローカルファイルネットワーキングの設定が完了です。プレゼンテーションの作成、スケジュールの設定を行い、LAN 経由で書き出しを行います。**4 プレゼンテーション作成の基本**に進みます。

3-3 シンプルファイルネットワーキングの設定

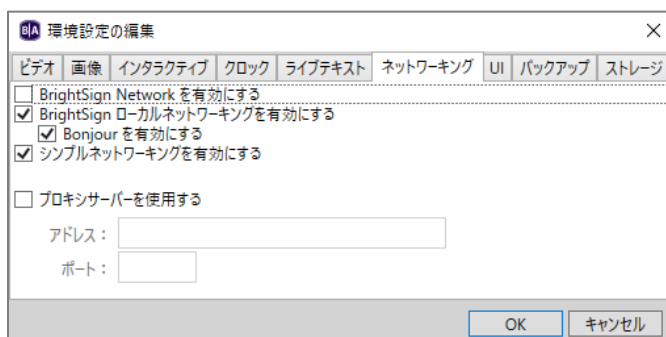
シンプルファイルネットワーキングを利用して BrightSign を Web サーバーにアクセスさせ、更新を行う場合は「ユニットの設定」が必要です。BrightAuthor で設定ファイルを作成し、BrightSign に読み込ませることで、BrightSign 本体に設定を反映させます。

シンプルファイルネットワーキングの設定手順

①はじめに BrightAuthor でシンプルファイルネットワーキングが有効になっていることを確認します。

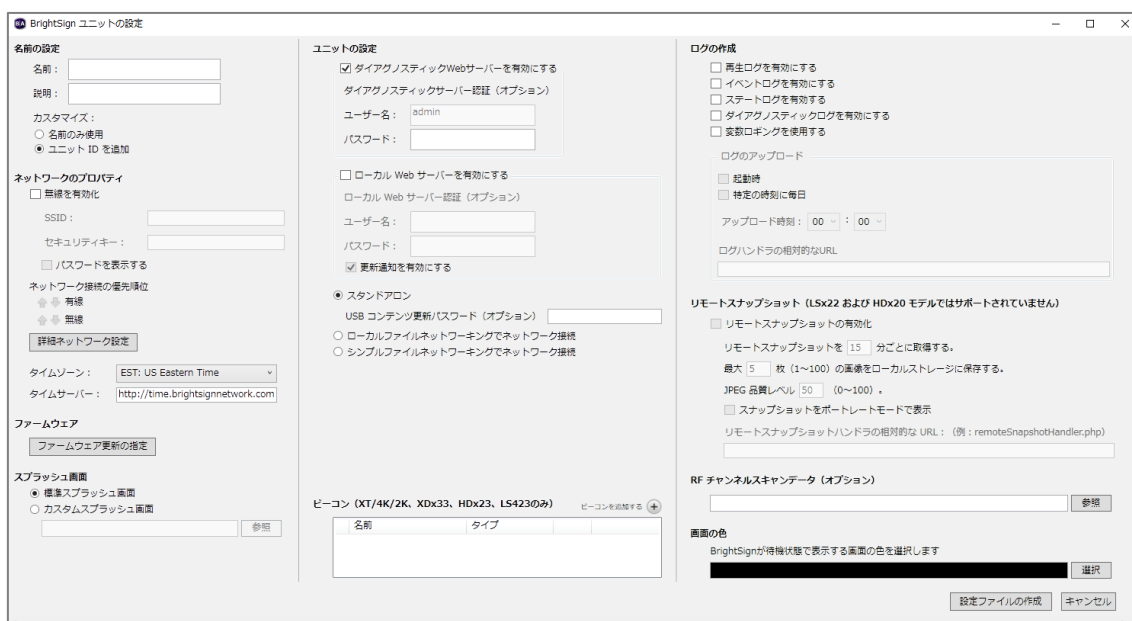
BrightSign ユニットの設定ウィンドウでシンプルファイルネットワーキングが選択できない（グレーアウトしている）場合も以下を確認します。（初期設定では有効になっています。）

編集タブで **編集 > 環境設定** の順にクリックして**環境設定の編集**ウィンドウを開き、**ネットワーキング**タブを開きます。



Simple Networkingを有効にするにチェックを入れ、[OK] をクリックします。

②編集タブで **ツール > BrightSign ユニットの設定** の順にクリックすると **BrightSign ユニットの設定** ウィンドウが開きますので各種設定を行います。



(1) 名前の設定

BrightSign を識別するための名前や説明を入力します。シンプルファイルネットワーキングの場合は、設定した名前はダイアグノスティック Web サーバー（診断サーバー）で確認することができます。

ダイアグノスティック Web サーバーの有効化については **(5) ユニットの設定**を、使い方については、**10-10 ダイアグノスティック Web サーバー** をご参照ください。

名前 : BrightSign を識別する名前を設定します。半角英数字のみ使用できます。必須入力項目です。

説明 : BrightSign の説明を入力することができます。設置場所や再生内容を入力すると便利です。設定した説明は、ダイアグノスティック Web サーバーで確認することができます。





カスタマイズ : シンプルファイルネットワーキングでは使用しません。

(2) ネットワークのプロパティ

IP アドレスの設定などのネットワーク接続に関する設定を行います。

無線を有効化 : WiFi を利用する場合はチェックを入れ、SSID、セキュリティキー（パスワード）を入力します。WiFi 機能は WiFi/Beacon モジュールを増設した BrightSign のみ使用できます。

パスワードを表示する : チェックを入れると入力したセキュリティキー（パスワード）を表示します。チェックを外すと非表示（例：●●●●●●●●）になります。

ネットワーク接続の優先順位 :   をクリックして有線/無線 LAN のネットワーク接続の優先順位を設定します。上に表示された接続方法（有線/無線）が優先されます。 をクリックすると優先順位が下がります。 をクリックすると優先順位が上がります。はじめに優先順位が高い方に接続を試み、接続できない場合に優先順位が低い方の接続を試みます。

[詳細ネットワーク設定]

クリックすると 詳細ネットワーク設定 ウィンドウが開き、ネットワークに関する高度な設定が可能です。先に (5) ユニットの設定 の シンプルファイルネットワーキング でネットワークに接続にチェックを入れておきます。チェックを入れていない場合、シンプルファイルネットワーキングの設定項目が表示されません。

【ユニットの設定】

ユニットの設定タブではホスト名の指定、プロキシの設定を行います。設定は必須ではありません。

ホスト名の指定：任意のホスト名を設定する場合はチェックを入れ、ホスト名にホスト名を入力します。
(デフォルトのホスト名：brightsign-シリアル番号)

プロキシを使用：プロキシサーバーを使用する場合はチェックを入れます。

アドレス：プロキシのアドレスを入力します。
ユーザー名とパスワードを入力する必要がある場合は、以下のように入力します。

ユーザー名：パスワード@プロキシサーバーのアドレス
(例) admin：password@yourproxy.com

ポート：プロキシのポート番号を指定します。ポート番号を入力しない場合は「1080」をポート番号として使用します。

プロキシサーバのバイパス：プロキシ接続の例外を設定することができます。(+) ホストを追加するをクリックしてバイパスリストにホストを追加します。バイパスリストに追加したホストはプロキシを介さず直接アクセスします。例えばホスト名を“example.com”と入力した場合、プロキシ設定から“example.com”、“example.com:80”、及び “www.example.com”が除外されます。

コンテンツのダウンロードを制限：コンテンツのダウンロードを実行する時間帯を設定する場合はチェックを入れ、開始時刻と終了時刻を設定します。

【有線】

有線タブでは有線 LAN 接続の設定を行います。

有効なデータ型

有線 LAN 接続で通信を許可するデータの種類の選択します。有線 LAN と無線 LAN に通信可能なデータの種類の振り分けることができます。**(2) ネットワークのプロパティの無線を有効化**にチェックを入れていない場合は変更できません。デフォルトでは全てにチェックが入っており、チェックを外すと通信を無効にします。コンテンツ、テキストフィード、メディアフィード、アップロードの記録を個別に設定可能です。

接続設定

IP アドレスを自動的に取得：IP アドレスを自動取得（DHCP から割り振られた IP アドレスを使用）する場合にチェックを入れます。

次の IP アドレスを使用：固定 IP アドレスを設定する場合にチェックを入れます。IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS 1～3をマニュアルで入力します。

ネットワーク認証

Enable 802.1X Authentication：IEEE802.1X 認証を有効にする場合はチェックを入れます。

以下の項目は **Enable 802.1X Authentication** にチェックを入れた場合に表示されます。

ネットワーク認証のバリエーションを選択

EAP-TLS、PEAP/MSCHAPv2 のいずれかにチェックを入れて選択します。

EAP-TLS : クライアント証明書とプライベートキーが必要です。次のいずれかの証明書タイプを指定することができます。

PKCS#12 : クライアント証明書とプライベートキーは PKCS#12 形式（通常は拡張子 .p12 ）で提供されます。[\[参照\]](#) をクリックして証明書ファイルを指定します。

X.509 PEM/DER : クライアント証明書は、PEM、または DER エンコーディングを使用して X.509 証明書として提供され、キーは個別にエンコードされます。上の [\[参照\]](#) をクリックして X.509 証明書を指定し、下の [\[参照\]](#) をクリックして PEM/DER キーを指定します。

PKCS#12、または X.509 を使用している場合は、[パスフレーズの入力](#)にパスフレーズを入力してクライアント証明書を保護することができます。

PEAP/MSCHAPv2 : ユーザー名（ID）とパスフレーズが必要です。クライアント証明書の代わりにユーザー名、パスワード方式を受け入れるようにサーバーを構成する必要があります。

追加の CA 証明書 : 認証の際に追加の PEM/DER CA 証明書が必要な場合は、[\[参照\]](#) をクリックして証明書ファイルを指定します。

<重要>

追加の CA 証明書を指定した場合、BrightSign はサーバーから送信された CA 証明書の代わりに指定した証明書を使用します。安全性が低い可能性があるネットワークに接続します。

ネットワークのダウンロードトラフィックのレート制限 : ダウンロード時のレートを制限することができます。[コンテンツダウンロード時以外](#)（外部コンテンツのダウンロード）、[コンテンツダウンロード時](#)、[初回ダウンロード時](#)について個別で設定が可能です。[コンテンツダウンロード時](#)の設定は [【ユニットの設定】](#) タブで [コンテンツのダウンロードを制限](#)にチェックを入れた場合のみ設定が可能になります。（チェックを入れていない場合はグレースアウトして選択できません。）

ダウンロードレートを制限しない : ダウンロードに制限を設定しません。

デフォルトの制限値 : 2000Kbps のダウンロード制限をします。

制限値を指定する（1-2000） : 1-2000 の数値を入力して制限を設定します。（単位 : Kbps）

【無線】

無線タブでは無線 LAN 接続（WiFi）の設定を行います。**(2) ネットワークのプロパティの無線を有効化**にチェックを入れていない場合は選択することができません。

有効なデータ型

無線 LAN 接続で通信を許可するデータの種類の選択します。有線 LAN と無線 LAN に通信可能なデータの種類の振り分けることができます。デフォルトでは全てにチェックが入っており、チェックを外すと無効にします。コンテンツ、テキストフィード、メディアフィードを個別に設定可能です。

接続設定

IP アドレスを自動的に取得：IP アドレスを自動取得（DHCP から割り振られた IP アドレスを使用）する場合にチェックを入れます。

次の IP アドレスを使用：固定 IP アドレスを設定する場合はチェックを入れます。IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS 1～3をマニュアルで入力します。

ネットワーク認証

Enable WPA Enterprise Authentication：WPA エンタープライズ認証を有効にする場合はチェックを入れます。

以下の項目は **Enable WPA Enterprise Authentication** にチェックを入れた場合に表示されます。

ネットワーク認証のバリエーションを選択

EAP-TLS、PEAP/MSCHAPv2 のいずれかにチェックを入れて選択します。

EAP-TLS : クライアント証明書とプライベートキーが必要です。次のいずれかの証明書タイプを指定することができます。

PKCS#12 : クライアント証明書とプライベートキーは PKCS#12 形式（通常は拡張子.p12）で提供されます。[\[参照\]](#) をクリックして証明書ファイルを指定します。

X.509 PEM/DER : クライアント証明書は、PEM、または DER エンコーディングを使用して X.509 証明書として提供され、キーは個別にエンコードされます。上の [\[参照\]](#) をクリックして X.509 証明書を指定し、下の [\[参照\]](#) をクリックして PEM/DER キーを指定します。

PKCS#12、または X.509 を使用している場合は、[パスフレーズの入力](#)にパスフレーズを入力してクライアント証明書を保護することができます。

PEAP/MSCHAPv2 : ユーザー名 (ID) とパスフレーズが必要です。クライアント証明書の代わりにユーザー名、パスワード方式を受け入れるようにサーバーを構成する必要があります。

追加の CA 証明書 : 認証の際に追加の PEM/DER CA 証明書が必要な場合は、[\[参照\]](#) をクリックして証明書ファイルを指定します。

<重要>

追加の CA 証明書を指定した場合、BrightSign はサーバーから送信された CA 証明書の代わりにここで指定した証明書を使用します。BrightSign は WPA Enterprise を使用して、安全性が低い可能性のあるネットワークに接続します。

ネットワークのダウンロードトラフィックのレート制限 : ダウンロード時のレートを制限することができます。[コンテンツダウンロード時以外](#)（外部コンテンツのダウンロード）、[コンテンツダウンロード時](#)、[初回ダウンロード時](#)について個別に設定が可能です。[コンテンツダウンロード時の設定](#)は【[ユニットの設定](#)】タブで[コンテンツのダウンロードを制限](#)にチェックを入れた場合のみ設定が可能になります。（チェックを入れない場合はグレーアウトして選択できません。）

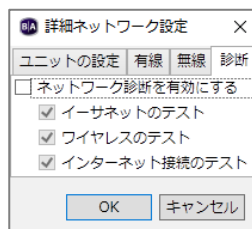
ダウンロードレートを制限しない : ダウンロードに制限を設定しません。

デフォルトの制限値 : 2000Kbps のダウンロード制限をします。

制限値を指定する (1-2000) : 1-2000 の数値を入力して制限を設定します。（単位 : Kbps）

【診断】

「ユニットの設定」を実行する際にネットワークの接続テストを行うことができます。テスト結果はディスプレイに表示されます。「BrightSign」のロゴが表示された後、診断を実行します。



ネットワーク診断を有効にする：チェックを入れるとセットアップ中にネットワーク接続のテストを行います。

イーサネットのテスト：有線 LAN 接続のテストを行います。

ワイヤレスのテスト：無線 LAN（WiFi）接続のテストを行います。**(2) ネットワークのプロパティの無線を有効化**にチェックを入れていない場合は選択することができません。

インターネット接続のテスト：インターネットの接続テストを行います。

接続テストの結果、接続に問題がない場合、ディスプレイに **Test passed – proceeding...** と表示され、セットアップを続けます。接続に失敗した場合は、**Restarting Test in 30 seconds** と表示され、30 秒のカウントダウンの後に再度、テストを実行します。LAN ケーブルの接続や、ルーターの設定を確認してください。

タイムゾーン：スケジュール再生を行う際は正しいタイムゾーンを選択します。日本標準時の場合は **JST : Japanese Standard Time** を選択します。また BrightSign の時刻合わせを行う必要があります。ネットワークに接続できる場合は、**タイムサーバー** に設定されたアドレスにアクセスして時刻を合わせます。タイムサーバーに接続せずに時刻を合わせる方法は **10-8 時刻の設定** をご参照ください。

タイムサーバー：時刻合わせのためにアクセスするタイムサーバーのアドレスを入力します。初期値として BrightSign 社のアドレスが入力されています。特にアクセス先のタイムサーバーを指定する必要がない場合は、初期値のままで問題ありません。

(3) ファームウェア

ユニットの設定の際にファームウェア（BrightSign OS）の更新を行うことができます。更新をしない場合は、次の項目に進みます。

[ファームウェア更新の指定]：セットアップの際に BrightSign OS の更新を行う場合はクリックします。
ファームウェア更新ウインドウが開きます。

BrightSign のモデルに合わせてアップデートするバージョンを選択します。各モデル名の下に表示されるバージョンにチェックを入れて選択します。または**特定のファイルを選択**にチェックを入れ、**[参照]**をクリックしてアップデートファイルを指定し、**[OK]**をクリックします。全てのモデルで**更新しない**を選択するか**[キャンセル]**をクリックするとアップデートをキャンセルします。

製品版リリース：バージョン X.X.XX

BrightAuthor 4.7.2.8 がリリースされた時点の正式な最新バージョンです。

ベータ版リリース：バージョン X.X.XX

ベータ版です。製品版リリースに新しい機能が追加、または特定条件下で発生する不具合が解消されている場合がありますが、未確認の不具合を含む場合があります。ベータ版で不具合が生じた場合は、他のバージョンで上書きしてください。

最小互換リリース：バージョン X.X.XX

BrightAuthor 4.7.2.8 に対応する最も古いバージョンです。

特定のファイルを選択

アップデートファイルを使用して特定のバージョンにアップデートします。[参照] をクリックしてアップデートファイル（拡張子.bsfw）を選択し、[開く] をクリックします。

（アップデートファイルのダウンロードについては **1-4 BrightSogn OS のアップデート** を参照）

※BrightSign OS を最小互換リリースより古いバージョンでアップデートした場合、BrightAuthor で書き出したファイルを再生できなくなります。最小互換リリース以降のバージョンに上書きアップデートしてください。

(4) スプラッシュ画面

スプラッシュ画面（起動画面）に表示される「BrightSign」のロゴを他の画像に置き換えることができます。置き換えを行わない場合は、次の項目に進みます。

標準スプラッシュ画面：標準の起動画面を使用します。「BrightSign」ロゴが表示されます。

カスタムスプラッシュ画面：指定した画像ファイルをスプラッシュ画面に使用することができます。

[参照] をクリックしてファイルを指定し、[開く] をクリックします。

※カスタムスプラッシュ画面で使用する画像ファイルは、**解像度 332 x 72、.png ファイル、背景を黒**にすると最も綺麗に表示できます。スプラッシュ画面で指定した画像はスケーリングされませんので、解像度の大きな画像ファイルを使用した場合、スプラッシュ画面に表示される情報（BrightSign OS のバージョンなど）が画面外に押し出され、正しく表示されない場合があります。

(5) ユニットの設定

ダイアグノスティック Web サーバー、ローカル Web サーバーの有効/無効化の設定を行い、BrightSign の更新方法を選択します。

ダイアグノスティック Web サーバーを有効にする：チェックを入れて有効にすると、Web ブラウザーを利用して BrightSign にアクセスし、BrightSign の情報の確認、時間の設定、ログの確認、再起動、ネットワーク診断などの操作が実行できます。

ダイアグノスティックサーバー認証 (オプション) : Web ブラウザーで BrightSign にアクセスした際にユーザー名、パスワードの入力を求めることができます。ユーザー名は admin で固定 (変更不可) です。パスワードのみ任意で設定することができます。

ローカル Web サーバーを有効にする : シンプルファイルネットワーキングを利用する場合は有効にする必要があります。有効にすることで Web ブラウザーを利用したユーザー変数の変更が可能です。

ローカル Web サーバー認証 (オプション) : Web ブラウザーで BrightSign にアクセスした際に、ユーザー名、パスワードの入力を求めます。設定する場合は、ユーザー名、パスワードを入力します。

更新通知を有効にする : チェックを入れるとユーザー変数が変更された際に、ユーザー変数の Web ページを自動的に更新します。

シンプルファイルネットワーキングでネットワーク接続 : チェックを入れます。シンプルファイルネットワーキングを使用する場合にチェックが必要です。

Web フォルダの URL : BrightSign がアクセスする Web フォルダー (Web サーバー) のアドレスを入力します。Web フォルダーのアドレスはプレゼンテーションをアップロードするアドレスと同じである必要があります。

コンテンツ確認頻度 : Web フォルダーにアクセスしてプレゼンテーション、スケジュールの更新を確認する頻度を選択します。確認頻度はプレゼンテーションで変更することもできます。

シンプルファイルネットワーク認証 (オプション) : ユーザー名、パスワードを入力してダイジェスト認証を有効にします。

ベーシック認証を有効にする : チェックを入れるとベーシック認証が有効となり、BrightSign はセキュリティで保護されていないパケットで Web サーバーに資格情報を渡します。Web サーバーの仕様上の都合でベーシック認証が必要な場合のみ有効にしてください。

(6) ビーコン (XT/4K/2K、XDx33、HDx23、LS423 のみ) ※

ビーコンの設定を行います。設定したビーコン信号を永続的に出力します。**WiFi/Beacon モジュールを増設したシリーズ 3/シリーズ 4 の BrightSign のみ有効です。**ビーコンを追加する (+) をクリックしてビーコンデータウインドウを開きます。BrightSign ではプレゼンテーションに連動してビーコン信号を切り替えることもできます。(10-6 Bright Beacon 参照)

※シリーズ 4（XT4/XD4/HD4/LS4）もビーコンに対応します。

名前：ビーコンデータに名前を設定します。

タイプ：ビーコンの通信方式を [iBeacon]、[Eddystone URL]、[Eddystone UID] から選択します。

[iBeacon]

UUID：16bit、32bit、または 128bit UUID を入力します。16bit UUID はハイフンを含まない 4 桁の 16 進数、32bit UUID はハイフンを含まない 8 桁の 16 進数を入力し、128bit UUID はハイフンを含めた正確な値を入力します。[作成] をクリックすると 128bit 形式の UUID を自動生成します。

メジャー：メジャー値を入力します。(0～65535)

マイナー：マイナー値を入力します。(0～65535)

Tx パワー：TxPower の値を入力します。

[Eddystone URL]

URL：URL を入力します。

Tx パワー：TxPower の値を入力します。

[Eddystone UID]

ネームスペース：Namespace を 10byte（20 桁の 16 進数）で入力します。[作成] をクリックすると自動生成します。

インスタンス：Instance を 6byte（12 桁の 16 進数）で入力します。

Tx パワー：TxPower の値を入力します。

(7) ログの作成

チェックを入れた項目のログファイルを作成します。ログは USB メモリーに抽出することができます。USB ポートのないモデルでは抽出できません。一部のログ情報はダイアグノスティック Web サーバーで確認することができます。シンプルファイルネットワーキングの場合は、PHP を使用してログ情報をアップロードすることもできます。

再生ログを有効にする：再生の開始時刻と終了時刻、ゾーン名、メディアタイプ、ファイル名を記録します。

イベントログを有効にする：タイムスタンプ、ステート名、ゾーン名、イベントタイプ、イベントデータを記録します。

ステートログを有効にする：現在、及び直前のステート名、タイムスタンプ、メディアタイプを記録します。

ダイアグノスティックログを有効にする：タイムスタンプ、ファームウェア（BrightSign OS）とスクリプトのバージョン、プレゼンテーションを記録します。

変数ロギングを使用する：プレゼンテーション内の全てのユーザー変数について、現在の値と初期設定値を記録します。

ログのアップロード

PHP を使用してログのアップロードを行う場合は、起動時、または特定の時刻に毎日にチェックを入れます。

起動時：BrightSign に電源が入るたびにログをアップロードします。

特定の時刻に毎日：指定した時刻に毎日アップロードします。アップロード時刻にアップロードを実行する時刻を設定します。

ログハンドラの相対的な URL：ログのアップロード先を指定します。

(8) リモートスナップショット

リモートスナップショットは、BrightSign が表示する映像のスナップショット（スクリーンショット）を保存し、遠隔で確認することができる機能です。シンプルファイルネットワーキングの場合は、ダイアグノスティック Web サーバーでスナップショットを確認することができます。

リモートスナップショットの有効化： チェックを入れるとリモートスナップショット機能を有効にします。

リモートスナップショットを [] 分ごとに取得する。： スナップショットを保存する頻度を分単位で設定します。半角数字で入力します。例えば [15] と入力した場合、15 分ごとにスナップショットを保存します。

最大 [] 枚 (1~100) の画像をローカルストレージに保存する。： スナップショットを保存する最大数を 1~100 の半角数字で設定します。設定した最大数まで保存すると、最も古いスナップショットを削除し、新しいスナップショットを保存します。

JPEG 品質レベル [] (0~100)： 保存するスナップショットの画質を設定します。0~100 の半角数字で設定します。数値を大きくすると高画質で保存できますが、Micro SD カードの容量を消費します。数値を小さくすると容量の消費を抑えることができますが、あまり数値を小さくするとスナップショットの視認が難しくなります。

スナップショットをポートレートモードで表示： スナップショットを縦表示で保存する場合はチェックを入れます。

(9) RF チャンネルスキャン： 日本国内、及び現行モデルでは使用しません。

(10) 画面の色： シンプルファイルネットワーキングでは使用しません。

③各種の設定を入力後、[設定ファイルの作成] をクリックして設定ファイルの保存先を選択し、[OK] をクリックします。設定ファイルをデスクトップなどに一時的に保存する際は、保存用にフォルダーを作成することをお勧めします。設定ファイルは複数のファイル、フォルダーで構成されます。

④③保存した設定ファイルを Micro SD カードにコピーし、BrightSign に接続します。BrightSign にはディスプレイを接続しておきます。BrightSign に AC アダプターを接続して電源を入れます。

⑤BrightSign がセットアップを実行します。セットアップ完了後、BrightSign は **(5) ユニットの設定** で指定した Web フォルダのアドレスにアクセスし、新しいプレゼンテーション、スケジュールがあればダウンロードして再生を開始します。

4 プレゼンテーション作成の基本 に進みます。

4 プレゼンテーション作成の基本

BrightAuthor の基本的な使い方を説明するため、本項では動画・静止画のループ再生、テキスト表示までの基本的なプレゼンテーションに特化して説明します。タッチパネル・人感センサーなどを利用した再生方法や、複数の BrightSign を利用した同期再生などの設定については、**8 インタラクティブ・プレゼンテーション** で、HTML5 の表示や HDMI 入力の設定については、**10 その他の設定、便利な機能** で説明します。

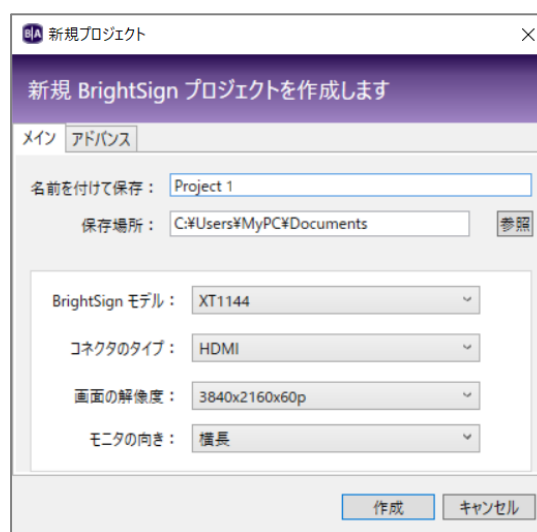
4-1 新規プロジェクトの作成

ファイル > 新規プレゼンテーション の順にクリックすると、新規プロジェクトウィンドウが開きます。各項目の入力、選択を行い、[作成] をクリックして設定を進めます。【メイン】タブの設定を行い、必要に応じて【アドバンス】タブを開いて設定を行います。

4-1-1 メインタブの設定

名前を付けて保存：プレゼンテーションに名前を付けます。初期値として Project（通し番号）が名前として自動入力されますが、任意の名前に書き換えることができます。

保存場所：作成したプレゼンテーションの保存場所を指定します。[参照] をクリックして保存先を選択します。初期設定ではマイドキュメントが選択されています。



※プレゼンテーションは (プレゼンテーション名).bpf のファイル名で保存されます。ファイル > プレゼンテーションを開く で bpf ファイルを開くことで、保存済みのプレゼンテーションを編集できます。

BrightSign モデル：BrightSign のモデルを選択します。後から変更することはできません。

コネクタのタイプ：出力コネクタのタイプを選択しますが、現行モデルは HDMI のみです。

画面の解像度：出力時の解像度を選択します。BrightSign に接続するディスプレイの仕様に合わせて設定します。後から変更することもできます。

モニタの向き：プレゼンテーションの向きを選択します。

[**横長**]：初期設定です。ディスプレイを横向きに設置する場合は「横長」を選択します。

[**ポートレート：左下**]：コンテンツを反時計回りに 90°回転します。ディスプレイを縦に設置した際にディスプレイの下部が左側になる場合は「左下」を選択します。

[**ポートレート：右下**]：コンテンツを時計回りに 90°回転します。ディスプレイを縦に設置した際にディスプレイの下部が右側になる場合は「右下」を選択します。）



4-1-2 アドバンスタブの設定

高度な設定項目です。機種により表示される項目が異なります。

解像度を固定する：(全モデル共通)

チェックを入れると設定した解像度で強制的に出力します。チェックを外すと設定した解像度で出力を試みますが、接続したディスプレイがその解像度をサポートしない場合は、解像度の設定を下げて出力します。

4K グラフィックを有効にする：(XT4 シリーズ)

チェックを入れると 4K 静止画をフル解像度で処理します。4K 静止画の処理は負荷が高いため、表示に問題が生じた場合はチェックを外します。



YCbCr 10 ビット出力を有効にする：(XT4/XD4/HD4 シリーズ)

チェックを入れると 10bit カラービデオ信号を出力します。

Dolby Vision を有効にする：(XT4/XD4 シリーズ) Dolby Vision で表示する場合はチェックを入れます。

ビデオゾーン構成：(XT4/XD4/HD4 シリーズ/HO523)

モザイク にチェックを入れるとモザイクモードを使用できます。モザイクモードは低解像度の動画を複数同時に表示する機能です。同時に表示できる動画の数は、モデル、及び動画の解像度により異なります。上位モデルになるほど、また動画の解像度が小さいほど、多くの動画を同時に表示できます。

モニタのオーバースキャン：(全モデル共通)

BrightSign が出力した映像がディスプレイにオーバースキャンして表示される場合に、表示位置を調整して小さく表示することができます。通常は「なし」で問題ありません。ディスプレイの設定でジャストスキャンにすることで解消できる場合もあります。

なし－全画面表示：表示領域の端まで表示します。

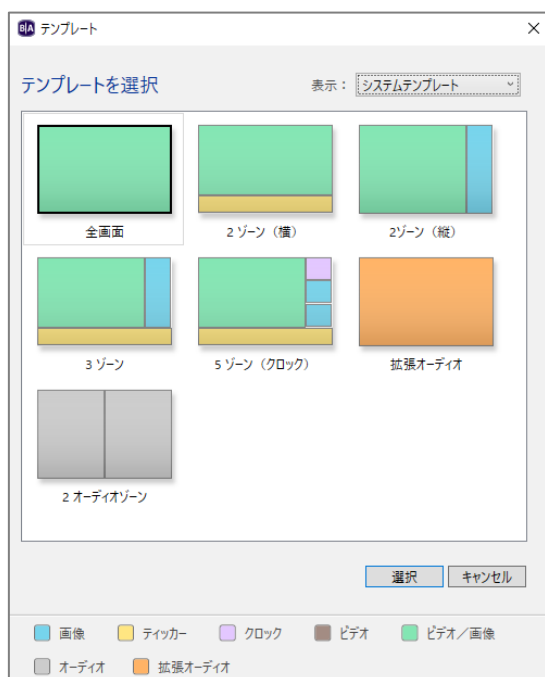
アクションセーフ領域：ほとんどのディスプレイと互換性のある領域に表示します。

タイトルセーフ領域：アクションセーフ設定より更に小さく表示します。

[作成] をクリックして先に進みます。テンプレートウィンドウが開きます。

4-2 テンプレートの選択

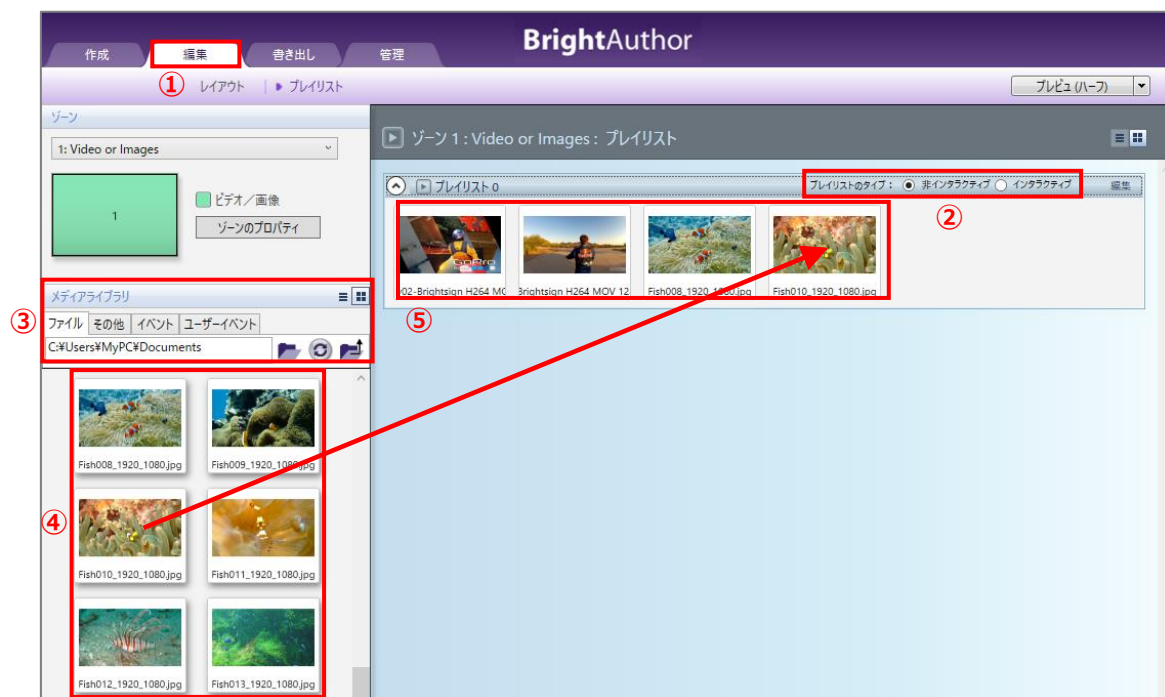
テンプレートウィンドウでテンプレート（レイアウト）を選択します。予め用意されたテンプレート、または、ユーザーが作成したオリジナルのテンプレートを使用できます。[システムテンプレート] をクリックし、[ユーザー作成テンプレート] に変更するとユーザーが作成したテンプレートを選択できます。[選択] をクリックして次に進みます。ここでは**全画面**のレイアウトを選択して進めるものとします。



4-3 基本的なプレゼンテーションの作成

テンプレートを選択すると【編集】タブが開きます。ほぼ全てのプレゼンテーションは【編集】タブで作成します。BrightWall プレゼンテーションを作成する場合のみ【作成】タブを開きます。

4-3-1 基本的なプレゼンテーションの作成画面








4-2 テンプレートの選択 でテンプレート「全画面」を選択した場合のプレゼンテーション作成画面です。動画、静止画を順番にループ表示するプレゼンテーションを作成するものとします。動画、静止画の素材は、予め特定のフォルダーに集めておくとう便利です。

① 編集タブが選択されていることを確認します。

② プレイリストのタイプは非インタラクティブが選択されています。基本的なプレゼンテーションは、非インタラクティブで作成します。インタラクティブを選択するとスイッチや人感センサー、タッチパネルを使用したインタラクティブ・プレゼンテーションや、同期再生のプレゼンテーションを作成することができます。

③ メディアライブラリのファイルタブで動画、静止画が保存されたフォルダーを選択します。

<ファイルタブのアイコン>

	④に表示されるリストをテキストで一覧表示します。
	④に表示されるリストをアイコン（サムネイル）で表示します。
	フォルダーの参照ウィンドウが開きます。動画、静止画が保存されたフォルダーを選択し、[OK] をクリックします。④に動画、静止画ファイルの一覧が表示されます。
	フォルダーをリロードして、④のリストを更新します。
	現在のフォルダーのひとつ上の階層を開きます。

④ ファイルタブで指定したフォルダー内のファイルが表示されます。表示、再生させたい静止画、動画をドラッグ&ドロップでプレイリスト（⑤の囲み）に登録します。

⑤プレイリストに登録された静止画、動画ファイルのサムネイルが表示されます。

4-3-2 プレイリストの設定



①プレイリストに登録された静止画、動画は左から順番に表示、再生します。自動的にループ再生しますので最後の静止画を表示（動画を再生）した後、はじめに戻ります。

②プレイリストに登録した静止画、動画はマウスのドラッグ操作で順番を入れ替えることができます。登録済みのファイルを削除する場合は、左クリックで選択後、キーボードの Delete キーを押します。また Ctrl + Z でひとつ前の操作に戻すことができます。

③登録済みの静止画のサムネイルをダブルクリックすると画像パラメータの編集ウィンドウが開き、以下の設定を行うことができます。



画面への表示時間：静止画の表示時間を設定します。プレイリストに登録した時点で自動的に 6（秒）に設定されます。単位：秒（整数）

トランジション：画像が表示される際にトランジション（効果）を設定することができます。

トランジションの効果時間（秒）：トランジションを実行する秒数を設定します。例えばトランジションを「フェード（新しい画像へ）」、効果時間を「2 秒」とした場合、2 秒かけて画像がフェードインします。効果時間は表示時間に含まれます。例えば表示時間を 5 秒に設定した場合、トランジションの実行を開始後、5 秒経過した時点で次の画像の表示（動画の再生）に移ります。

※**トランジションは動画には設定できません**。登録済みの動画のサムネイルをダブルクリックすると、パラメータの編集ウィンドウが開きますが、音量の設定のみが可能です。

※ビデオ／画像ゾーンで静止画と動画を混在させた場合、静止画 → 静止画の場合は、トランジションが有効です。動画 → 静止画の場合は、動画の再生終了後、背景色を表示してからトランジションを実行し、静止画を表示します。例えば、背景色を「黒」、静止画のトランジションを「フェード（新しい画像へ）」とした場合、動画の再生終了後、黒の背景色が表示され、背景色から画像がフェードインします。

④プレイリストに登録後の静止画、動画ファイルの表示方法を変更します。はテキスト（ファイル名）表示、はサムネイル表示に切り替わります。

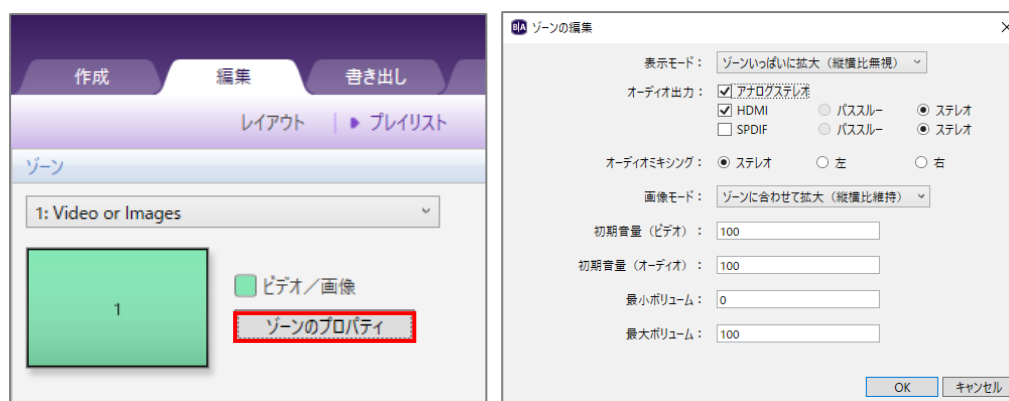
4-3-3 ゾーン編集

BrightSign ではディスプレイの表示領域を分割し、動画や静止画、テキストなどを同時に表示できます。分割した領域を「ゾーン」と呼びます。ゾーンには複数の種類があり、ゾーンの種類によって配置できるコンテンツが異なります。例えばテンプレートの全画面は画像／ビデオゾーンが全画面に 1 つ配置されたレイアウトです。全画面に動画、または静止画を表示することができます。ゾーンは、自由にサイズ、位置を変更し、追加や削除も可能です。

ゾーンの設定方法は **5-2 レイアウトの設定** を参照)

ゾーンの編集ではゾーンに対する設定を行います。ここでは、画像／ビデオのゾーンの編集について説明します。ゾーンの編集では、動画や静止画の表示方法、オーディオの出力設定などを行います。

「ゾーンのプロパティ」をクリックするとゾーンの編集ウィンドウが開きます。













表示モード：動画の表示方法の設定です。

ゾーンいっぱい拡大（縦横比無視）：縦横比を無視してゾーンいっぱいに表示します。ゾーンと動画の縦横比が異なる場合は、ゾーンいっぱいに表示されるように動画の縦横サイズを調整します。

レターボックスにしてセンタリング：縦横比を維持して最大化表示します。ゾーンと動画の縦横比が異なる場合は、上下、または左右に黒帯（背景色）が入ります。

画面に合わせて拡大してセンタリング：縦横比を維持したままゾーンいっぱいに表示します。ゾーンをはみ出したように表示されます。

ゾーンと動画の縦横比が異なる場合の表示

動画素材	1920 × 1080	1024 × 768
  1024×768 1920×1080	 1920×1080 のゾーンに 1024×768 の動画を表示	 1024×768 のゾーンに 1920×1080 の動画を表示
ゾーンいっぱい拡大 (縦横比無視)		
レターボックスにして センタリング		
画面に合わせて 拡大してセンタリング		

オーディオ出力：オーディオの出力設定を行います。使用する出力方法にチェックを入れます。複数にチェックを入れて同時出力することもできます。

アナログステレオ：アナログステレオ（3.5mm ミニピンジャック）から音声出力します。

HDMI：HDMI エンベデッドオーディオを出力します。

SPDIF：SPDIF（光デジタルオーディオ）より出力します。

オーディオミキシング：オーディオの出力方法をステレオ、左、右から選択します。

画像モード：画像（静止画）の表示方法の設定です。








画像のセンタリング：ドット・バイ・ドットでゾーンの中央に表示します。ゾーンより画像が大きい場合は、ゾーンをはみ出したように表示されます。





ゾーンに合わせて拡大（縦横比維持）：縦横比を維持してゾーンいっぱいに表示します。ゾーンと画像の縦横比が異なる場合は、上下、または左右に黒帯（背景色）が入ります。

ゾーンいっぱいに拡大（一部切り取り、縦横比維持）：縦横比を維持してゾーンを埋めるように最大化表示します。ゾーンをはみ出したように表示されます。

ゾーンいっぱいに拡大（縦横比無視）：縦横比を無視してゾーンに最大化表示します。ゾーンと画像の縦横比が異なる場合は、ゾーンいっぱいに表示されるように画像の縦横サイズを調整します。

ゾーンと画像の縦横比が異なる場合の表示

動画素材  1024×768 1920×1080	 1920×1080 のゾーンに 1024×768 の動画を表示	 1024×768 のゾーンに 1920×1080 の動画を表示
画像のセンタリング		
ゾーンに合わせて拡大 （縦横比維持）		

ゾーンいっぱい拡大 (一部切り取り、縦横比維持)		
ゾーンいっぱい拡大 (縦横比無視)		

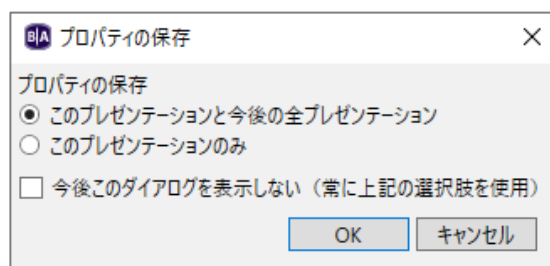
初期音量 (ビデオ) : 動画ファイルの音量の初期値を 0～100 で設定します。

初期音量 (オーディオ) : 音声ファイルの音量の初期値を 0～100 で設定します。

最小ボリューム : 音量 (ボリューム) の最小値を設定します。最小値 : 0

最大ボリューム : 音量 (ボリューム) の最大値を設定します。最大値 : 100

全ての設定が終了したら [OK] をクリックしてゾーンの編集ウィンドウを閉じます。プロパティの保存ウィンドウが開きます。



プロパティの保存ウィンドウではゾーンの編集の設定内容の適用範囲を指定します。

このプレゼンテーションと今後の全プレゼンテーション : 作成中を含む、今後の全てのプレゼンテーションに設定を反映させます。

このプレゼンテーションのみ : 作成中のプレゼンテーションのみに設定を反映します。

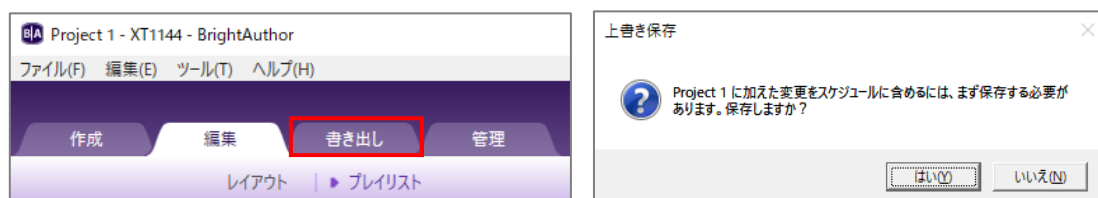
今後このダイアログを表示しない (常に上記の選択肢を使用) : チェックを入れて保存するとプロパティの保存ウィンドウを表示しなくなります。(表示されなくなったプロパティの保存ウィンドウは、編集 > 環境設定 > UI タブの □プロパティの保存ダイアログを表示しますか? にチェックを入れ、[OK] をクリックして保存することで表示されるようになります。)

4-3-4 プレゼンテーションの保存

プレゼンテーションの作成を終えたらプレゼンテーションを保存します。作成したプレゼンテーションをスケジュールに割り当てるには、プレゼンテーションを保存する必要があります。（常に同じ内容のプレゼンテーションを表示する場合もスケジュールへの割当が必要です。）

プレゼンテーションは、ファイル > 保存(S) xxxx で保存、または、保存(S) xxxx 名前を付けて保存で名前を付けて保存します。（xxxx はプレゼンテーション名）

プレゼンテーションを保存せずに書き出しタブを選択すると、上書き保存ウィンドウが開きます。[はい]をクリックするとプレゼンテーションを上書き保存します。[いいえ]をクリックすると保存しません。一度も保存していないプレゼンテーションはスケジュールに割り当てることができません。



プレゼンテーションを保存したら、プレゼンテーションをスケジュールに割り当て、書き出しを行います。書き出しタブをクリックして次に進みます。

5 ゾーンとレイアウト

BrightSign はディスプレイの表示領域を分割し、動画や静止画、テキストなどを同時に表示することができます。分割した領域を「ゾーン」と呼びます。ゾーンには複数の種類があり、ゾーンの種類によって配置できる素材が異なります。複数のゾーンを作成し、自由に配置（レイアウト）することができます。

5-1 ゾーンの種類

はじめにゾーンの種類と配置できる素材（表示内容）について説明します。ゾーンの設定は [編集] タブのプレイリスト設定画面の [ゾーンのプロパティ] をクリックして表示される ゾーンの編集で行います。

5-3 ゾーンの編集 参照

ゾーンの種類	ゾーンの機能
ビデオ／画像	動画、静止画、HTML5 を表示します。オーディオファイルも再生可能です。
ビデオ	動画を表示します。

画像	静止画と HTML5 を表示します。画像ゾーンは複数配置できます。
オーディオ	オーディオファイルを再生します。オーディオゾーンは複数配置できます。
拡張オーディオ	オーディオファイル間のクロスフェードが可能です。(サンプリングレートを揃える必要があります。) 拡張オーディオゾーンは 1 つだけ配置することができます。
ティッカー	テキストや RSS、Twitter (テキスト情報のみ) を表示します。ティッカーゾーンは複数配置できます。
クロック	時計、日付を表示します。クロックゾーンは複数配置できます。
背景画像 ※	背景画像を配置するゾーンです。他の全てのゾーンは背景画像ゾーンの上に配置されます。背景画像ゾーンは 1 つだけ配置することができます。

※背景画像・ゾーンはビデオ／画像（またはビデオ）ゾーンと同等の扱いとなります。

★ビデオゾーンの制限

ビデオ／画像ゾーン、ビデオゾーン、背景画像ゾーンは配置できる数に制限があります。

XT4/XD4 シリーズ : 2 つのビデオ／画像ゾーン、2 つのビデオゾーン、1 つのビデオ／画像ゾーンと 1 つのビデオゾーン、ビデオ／画像ゾーンと背景画像ゾーン、またはビデオゾーンと背景画像ゾーンを配置することができます。

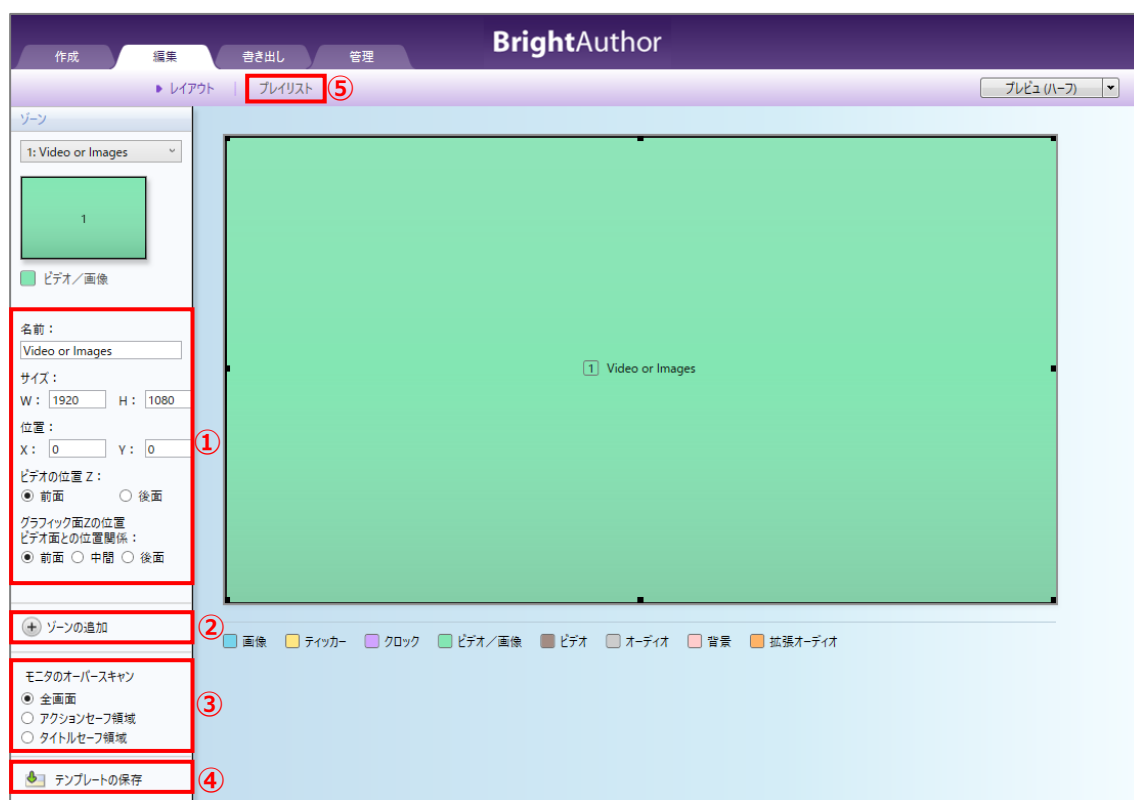
HD4/LS4 シリーズ/HO523 : 1 つのビデオ／画像ゾーン、1 つのビデオゾーン、または背景画像ゾーンを配置することができます。

5-2 レイアウトの設定

ゾーンはサイズや表示位置を自由に決めて配置し、追加（削除）することができます。ビデオゾーンのように配置することができる数に制限があるゾーンもありますが、制限の中でゾーンを自由に追加して、オリジナルのテンプレート（ユーザーテンプレート）として保存することができます。保存したユーザーテンプレートはプロジェクトの作成時に呼び出して使用できます。（[4-2 テンプレートの選択](#) 参照）



レイアウトの設定は「編集」タブで行います。「編集」を開き、レイアウトをクリックします。プレイリストの設定画面がレイアウトの設定画面に切り替わります。



①選択中のゾーンの設定を行います。(選択されていないゾーンはグレー表示)

名前：ゾーンに名前を付けることができます。

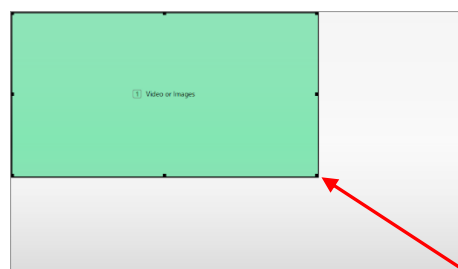
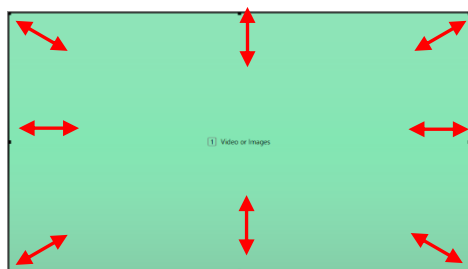
サイズ※：ゾーンのサイズを指定します。W（横）、H（縦）のサイズを入力します。

位置：ゾーンの位置をゾーンの開始位置（ゾーンの左上）の座標 X（軸）、Y（軸）で指定します。

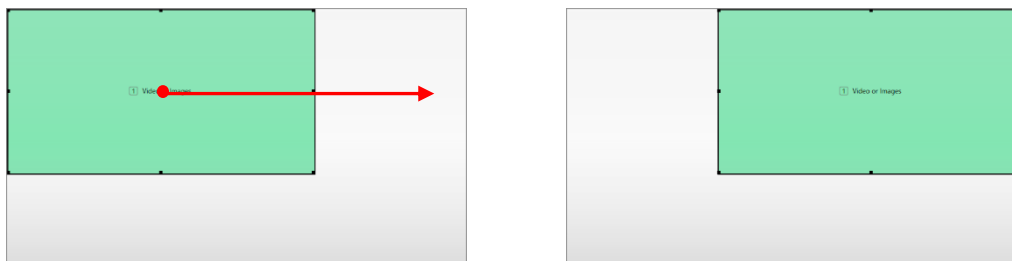
※画面の解像度でフル HD より大きい解像度を選択した場合、**サイズ**は 4 分の 1 の値で表示されます。

例えば 3840×2160 の解像度を選択した場合、W：1920、H：1080 と表示されます。3840×2160 の解像度を選択し、1920×1080 サイズのゾーンを作成する場合、W：960、H：540 と入力します。フル HD の動画を配置すれば正しく 1920×1080 のサイズで表示されます。

★ゾーンのサイズ、位置はマウスのドラッグ操作でも設定することができます。



四隅と四辺にある■をクリックし、ドラッグすることでゾーンのサイズを変更できます。例えば右下の■をクリックして左斜め上にドラッグするとゾーンを小さくすることができます。



■以外の部分をクリックし、ドラッグするとゾーンの位置を変更できます。上の例は、左上に配置したゾーンをクリックし、右方向にドラッグして右上に移動させたものです。

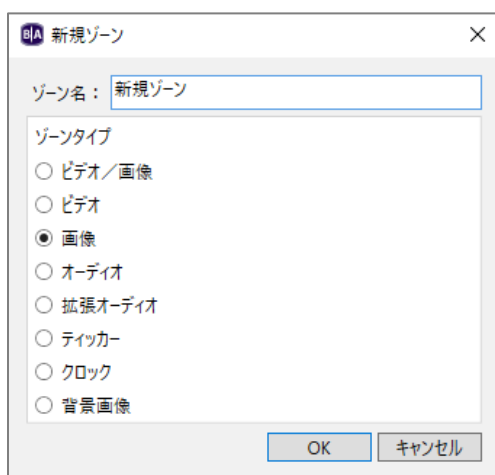
ビデオの位置 Z (XT4/XD4 シリーズのみ) : ビデオ／画像ゾーン（及びビデオゾーン）が2つある場合、表示位置の前後を設定します。前面にチェックを入れると手前に表示します。

グラフィック面 Z の位置 ビデオ面との位置関係 : グラフィック面の位置を設定します。グラフィック面とは、画像、ティッカー、時計ゾーン、または画像、HTML5 を表示しているビデオゾーンを指します。

前面 中面 後面 (XT4/XD4 シリーズ) : グラフィック面の表示位置を設定します。前面は2つのビデオ／画像ゾーン（またはビデオゾーン）よりも前に、中面は2つのゾーンの間に、後面は2つのゾーンの後ろに配置します。

前面 後面 (HD4/LS4 シリーズ/H0523) : グラフィック面の表示位置を設定します。前面はビデオ／画像ゾーンよりも前に、後面は後ろに配置します。

②ゾーンを追加する場合はゾーンの追加をクリックします。新規ゾーンウィンドウが開きます。



作成するゾーンにチェックを入れて [OK] をクリックするとゾーンが追加されます。追加されたゾーンをクリックして選択し、サイズ、表示位置を設定します。各ゾーンの詳細は、**5-3 ゾーンの設定** を参照

③ モニタのオーバースキャンではオーバースキャンの設定が可能です。

(オーバースキャンの設定については **4-1-2 アドバンスタブの設定**を参照)

④作成したゾーンのレイアウトをユーザーテンプレートとして保存することができます。レイアウトの設定後、テンプレートの保存をクリックします。テンプレートの保存ウィンドウが開きますので、名前を入力し [OK] をクリックして保存します。次回以降の新規プロジェクトの作成時にユーザーテンプレートを選択することができます。(4-2 テンプレートの選択 参照)

⑤レイアウトの設定が終了したらプレイリストをクリックして、プレゼンテーション作成画面に戻ります。

5-3 ゾーンの設定

ゾーンの種類によって配置できる素材、表示できる内容が異なります。またプレゼンテーション作成時のゾーンの編集の設定内容はゾーンの種類によって異なります。本項では各ゾーンの特徴と設定方法、またゾーンの編集の設定内容について説明します。

5-3-1 ビデオ／画像ゾーン

ビデオ、画像、HTML5 を表示できるゾーンです。縦横比の異なるビデオ、画像を混在させて表示することもできます。ビデオ、画像の登録方法、またゾーンの編集の設定内容については、**4-3 基本的なプレゼンテーションの作成**を参照してください。また HTML5 の設定方法については **10-2 HTML5 の表示設定** を参照してください。

5-3-2 ビデオゾーン

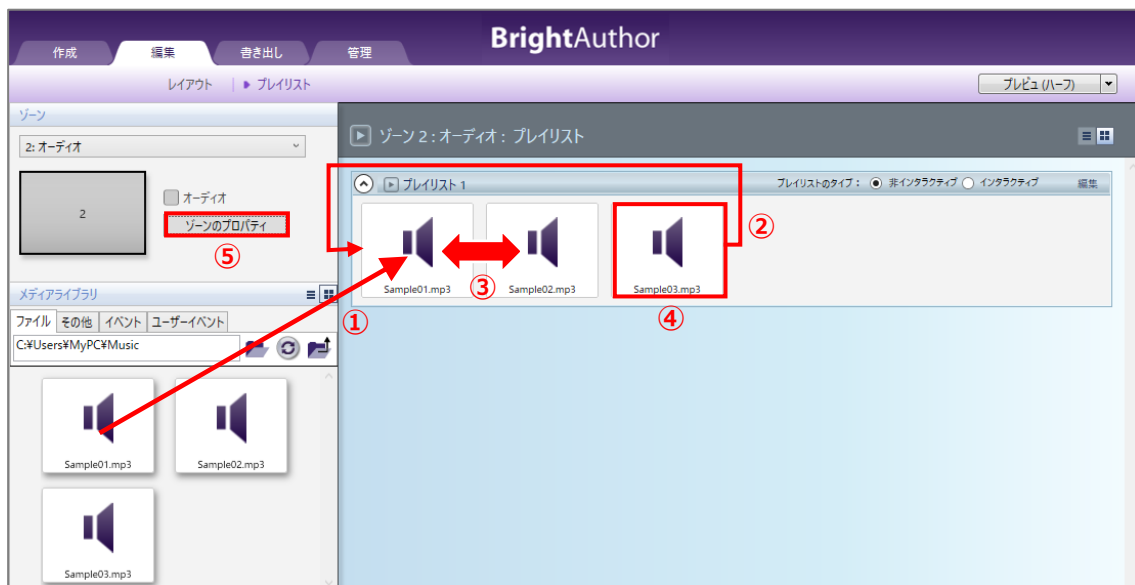
ビデオのみを表示するゾーンです。縦横比の異なるビデオを混在させて表示することもできます。ビデオゾーンはビデオ／画像ゾーンから画像に関する設定を無くしたゾーンです。ビデオの登録方法、ゾーンの編集による設定内容は、ビデオ／画像ゾーンの設定に準じます。**4-3 基本的なプレゼンテーションの作成**を参照いただき、画像は設定できないものとして読み進めてください。

5-3-3 画像ゾーン

画像、HTML5 を表示できるゾーンです。縦横比の異なる画像を混在させて表示することもできます。画像ゾーンはビデオ／画像ゾーンからビデオに関する設定を無くしたゾーンです。ビデオの登録方法、[ゾーンの編集](#)による設定内容はビデオ／画像ゾーンの設定に準じます。**4-3 基本的なプレゼンテーションの作成**を参照いただき、ビデオは設定できないものとして読み進めてください。また HTML5 の設定方法については **10-2 HTML5 の表示設定** を参照してください。

5-3-4 オーディオゾーン

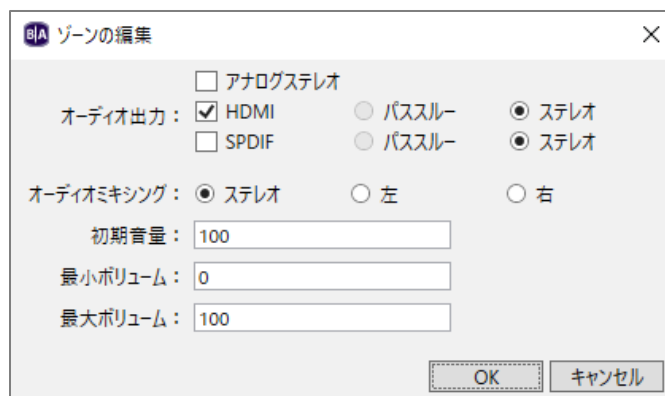
オーディオを再生できるゾーンです。画像ゾーンと組み合わせて、スライドショーの BGM として使用するなどの使い方ができます。



- ① メディアライブラリのファイルタブでオーディオファイルのあるフォルダーを指定し、ドラッグ＆ドロップでプレイリストに登録します。
- ② プレイリストに登録されたオーディオファイルは左から順番に再生します。自動的にループ再生しますので最後のファイルを再生した後、はじめに戻ります。
- ③ プレイリストに登録したオーディオファイルは、マウスのドラッグ操作で順番を入れ替えることができます。登録済みのファイルを削除する場合は、左クリックで削除するファイルを選択後、キーボードの Delete キーを押します。また Ctrl + Z でひとつ前の操作に戻すことができます。

④登録済みのオーディオファイルのアイコンをダブルクリックするとパラメータの編集ウィンドウが開き、音量を設定することができます。

⑤ゾーンのプロパティをクリックするとゾーンの編集ウィンドウが開きます。オーディオゾーンのゾーンの編集では次の設定が可能です。



オーディオ出力：オーディオの出力設定を行います。使用する出力方法にチェックを入れます。複数にチェックを入れて同時出力することもできます。

アナログステレオ：アナログステレオ（3.5mm ミニピンジャック）から出力します。

HDMI：HDMI エンベデッドオーディオを出力します。

SPDIF：SPDIF（光デジタルオーディオ）より出力します。

オーディオミキシング：オーディオの出力方法をステレオ、左、右から選択します。

初期音量：音量の初期値を 0～100 で設定します。

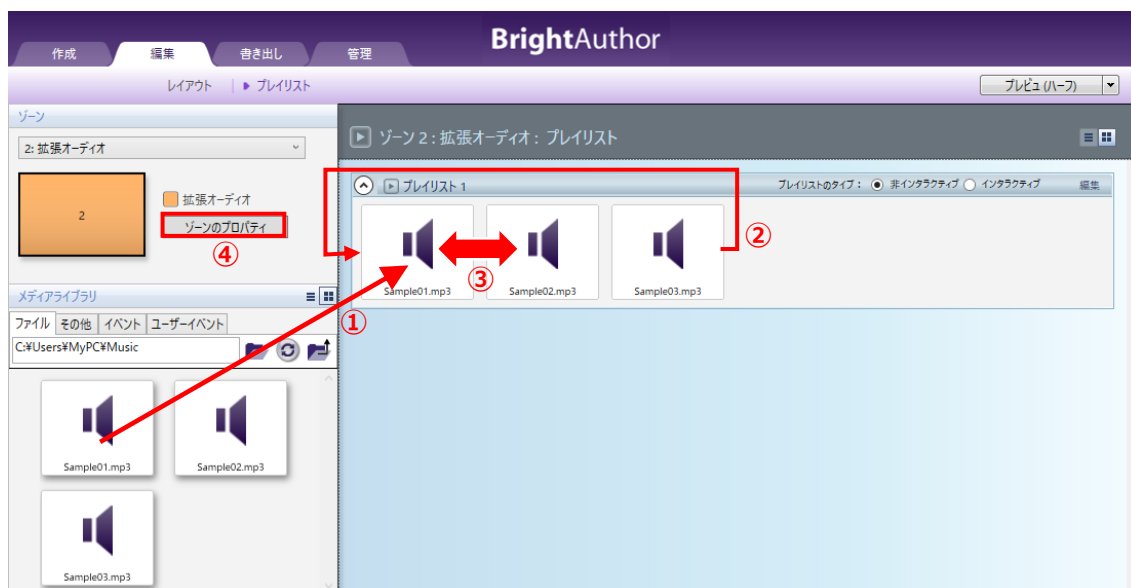
最小ボリューム：音量（ボリューム）の最小値を設定します。最小値：0

最大ボリューム：音量（ボリューム）の最大値を設定します。最大値：100

設定後は [OK] をクリックしてゾーンの編集ウィンドウを閉じます。

5-3-5 拡張オーディオゾーン

ビデオ、画像、HTML5 を表示できるゾーンです。縦横比の異なるビデオ、画像を混在させて表示することもできます。ビデオ、画像の登録方法、またゾーンの編集による設定内容については、**4-3 基本的なプレゼンテーションの作成**を、HTML5 の設定方法については **10-2 HTML5 の表示設定**を参照してください。

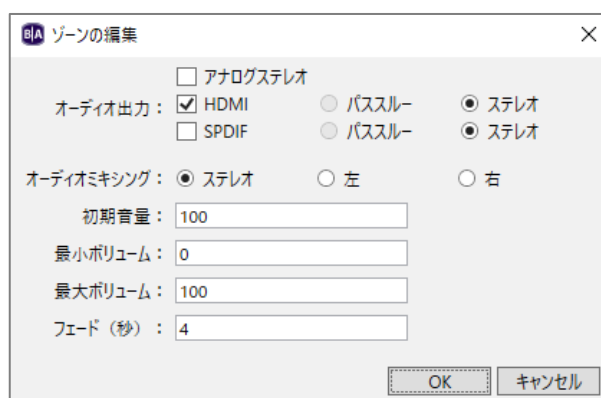


① メディアライブラリのファイルタブでオーディオファイルのあるフォルダーを指定し、ドラッグ＆ドロップでプレイリストに登録します。

② プレイリストに登録されたオーディオファイルは左から順番に再生します。自動的にループ再生しますので最後のファイルを再生した後、はじめに戻ります。

③ プレイリストに登録したオーディオファイルは、マウスのドラッグ操作で順番を入れ替えることができます。登録済みのファイルを削除する場合は、左クリックで削除するファイルを選択後、キーボードのDelete キーを押します。また Ctrl + Z でひとつ前の操作に戻すことができます。

④ ゾーンのプロパティをクリックするとゾーンの編集ウィンドウが開きます。拡張オーディオゾーンのゾーンの編集では次の設定が可能です。



オーディオ出力：オーディオの出力設定を行います。使用する出力方法にチェックを入れます。複数にチェックを入れて同時出力することもできます。

アナログステレオ：アナログステレオ（3.5mm ミニピンジャック）から出力します。

HDMI：HDMI エンベデッドオーディオを出力します。

SPDIF：SPDIF（光デジタルオーディオ）より出力します。

オーディオミキシング：オーディオの出力方法をステレオ、左、右から選択します。

初期音量：音量の初期値を 0～100 で設定します。

最小ボリューム：音量（ボリューム）の最小値を設定します。最小値：0

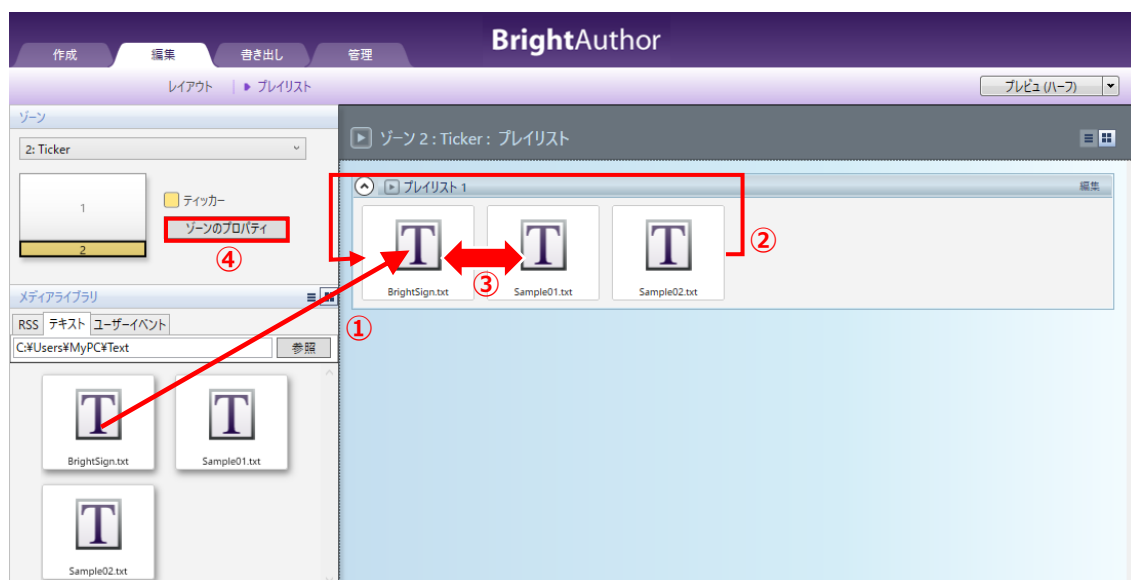
最大ボリューム：音量（ボリューム）の最大値を設定します。最大値：100

フェード（秒）：オーディオファイル間のクロスフェードの実行時間（秒）を設定します。ループ再生の最後のファイルとはじめのファイルの間でもクロスフェードを実行します。

設定後は [OK] をクリックしてゾーン編集ウィンドウを閉じます。

5-3-6 ティッカーゾーン

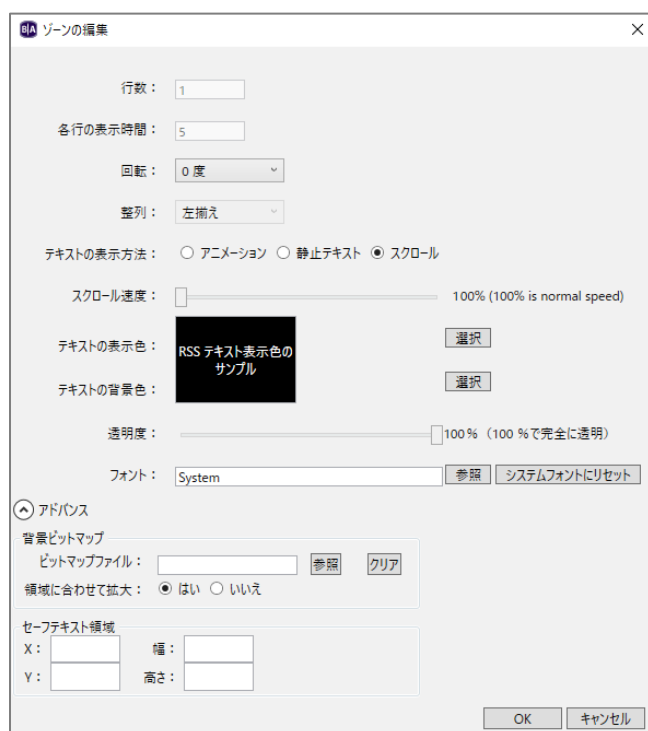
テキスト、RSS、Twitter（テキストのみ）、ユーザー変数を表示することができます。本項ではテキスト（テキストファイル）表示の方法を説明します。



テキストを表示するには予め Windows のメモ帳などでテキストファイルを作成しておく必要があります。

日本語を表示する場合、テキストファイルは UTF-8 形式で保存する必要があります。 保存形式が正しくない場合、テキストが正しく表示されません。

- ① メディアライブラリのテキストタブでテキストファイルのあるフォルダーを指定し、テキストファイルをドラッグ&ドロップでプレイリストに登録します。
- ② プレイリストに登録されたテキストファイルは左から順番に表示します。自動的にループしますので最後のファイルを表示した後、はじめに戻ります。
- ③ プレイリストに登録したテキストファイルは、マウスのドラッグ操作で順番を入れ替えることができます。登録済みのファイルを削除する場合は、左クリックで削除するファイルを選択後、キーボードのDelete キーを押します。また Ctrl + Z でひとつ前の操作に戻すことができます。
- ④ ゾーンのプロパティをクリックするとゾーンの編集ウィンドウが開きます。ティックカーゾーンのゾーンの編集では次の設定が可能です。



行数: ティッカーゾーン上でのテキストの表示行数を設定します。テキストの表示方法でアニメーション、静止テキストを設定した場合に設定が反映されます。スクロールを選択した場合は影響しません。

各行の表示時間: 各行がティッカーゾーンに表示される時間（秒）を設定します。テキストの表示方法でアニメーション、静止テキストを設定した場合に設定が反映されます。スクロールには影響しません。

回転: テキストの表示を 90 度、180 度、270 度回転させることができます。ディスプレイを縦に設置して表示する場合などに使用します。

整列：ディッカーゾーン上の表示位置を左揃え、中央揃え、右揃えから選択します。テキストの表示方法で静止テキストを選択した場合のみ設定が可能です。

テキストの表示方法：テキストの表示方法を選択します。

アニメーション：テキストを1文字ずつタイプするかのように表示します。

静止テキスト：行数で指定した行数のテキストが一度に表示され、各行の表示時間で指定した秒数表示をした後、次のテキストを表示します。

スクロール：テキストが右から現れ、左にスクロールします。テロップのような表示です。スクロールを選択すると行数、各行の表示時間の設定は反映されません。1行で表示されます。

スクロール速度：テキストの表示方法でスクロールを選択した場合のみ表示されます。スクロールの速度を100%、200%、300%、400%から選択することができます。

テキストの表示色：テキストの色を選択します。[選択]をクリックすると色の設定ウィンドウが開くので、色を選択後、[OK]をクリックして決定します。

テキストの背景色：テキストの背景の色を選択します。[選択]をクリックすると色の設定ウィンドウが開くので、色を選択後、[OK]をクリックして決定します。

透明度：テキストの背景の透明度をスライダーで調整します。100%にすると完全に透明、0%にすると透過なしになります。

フォント：テキスト表示に使用するフォントを指定することができます。フォントを指定する場合は[参照]をクリックしてTrue Typeのフォントファイルを指定します。[システムフォントにリセット]をクリックすると、指定したフォントをクリアしてシステムフォントに戻します。システムフォントではDejaVuフォントを採用しており日本語の表示にも対応しますが、より綺麗に日本語表示をするにはフォントの指定が必要です。

アドバンス：アドバンスをクリックすると以下のメニューが表示されます。

背景ビットマップ：テキストの背景に画像を貼り付けることができます。[参照]をクリックして画像ファイルを指定します。[クリア]をクリックすると指定した画像ファイルの登録を削除します。JPEG/PNGファイルも使用できます。

領域に合わせて拡大：「はい」にチェックを入れると背景ビットマップで指定した画像をティックャーゾーンに合わせて拡大して表示します。

セーフテキスト領域：ティックャーゾーン内のテキストを表示する位置を指定します。ティックャーゾーン内の実際にテキストを表示する領域を指定します。X、Y で開始位置を、幅、高さで表示サイズを指定します。X、Y、幅、高さはピクセル単位で入力します。入力しない場合は、ティックャーゾーンいっぱいにテキストを表示します。

設定終了後、[OK] をクリックしてゾーンの編集ウィンドウを閉じます。

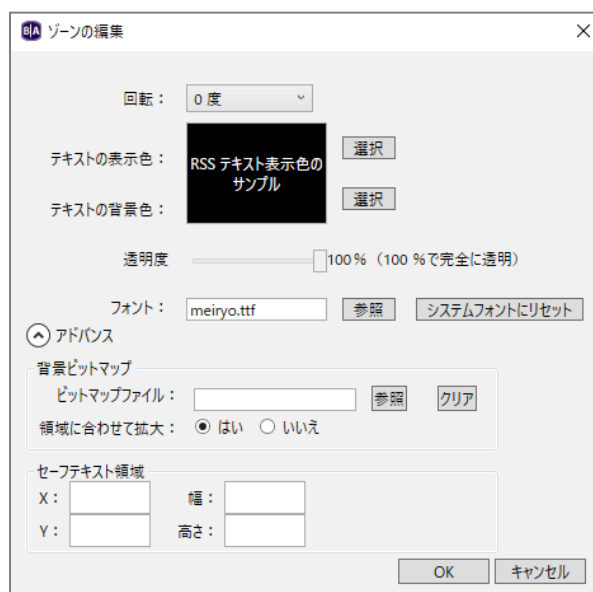
5-3-7 クロックゾーン

日付、時刻を表示できるゾーンです。ひとつのクロックゾーンには日付、または時刻のいずれかを表示することができます。日付と時刻を表示する場合はクロックゾーンを 2 つ作成します。



① メディアライブラリのクロックから時計アイコン、または日付アイコンをプレイリストにドラッグ & ドロップで登録します。

② ゾーンのプロパティをクリックするとゾーンの編集ウィンドウが開きます。クロックゾーンのゾーンの編集では次の設定が可能です。



回転：日付、時刻の表示を 90 度、180 度、270 度回転させることができます。ディスプレイを縦に設置して表示する場合などに使用します。

テキストの表示色：日付、時刻を表示する文字の色を選択します。[選択] をクリックすると色の設定ウィンドウが開くので、色を選択後、[OK] をクリックして決定します。

テキストの背景色：日付、時刻の背景の色を選択します。[選択] をクリックすると色の設定ウィンドウが開くので、色を選択後、[OK] をクリックして決定します。

透明度：日付、時刻を表示する文字の背景の透明度をスライダーで調整します。100%にすると完全に透明に、0%にすると透過なしになります。

フォント：日付、時刻の表示に使用するフォントを指定できます。[参照] をクリックして True Type のフォントファイルを指定します。[システムフォントにリセット] をクリックするとシステムフォントに戻します。システムフォントは DejaVu フォントを採用しており日本語の表示にも対応します。

アドバンス：アドバンスをクリックすると以下のメニューが表示されます。

背景ビットマップ：日付、時刻を表示する文字の背景に画像を貼り付けることができます。[参照] をクリックして画像 ファイルを指定します。[クリア] をクリックすると指定した画像ファイルの登録を削除します。JPEG/PNG ファイルも使用できます。

領域に合わせて拡大：「はい」にチェックを入れると背景ビットマップで指定した画像をクロックゾーンに合わせて拡大して表示します。

セーフテキスト領域：クロックゾーン内のテキストを表示する位置を指定します。クロックゾーン内の実際に日付、時刻を表示する領域を指定します。X、Y で開始位置を、幅、高さで表示サイズを指定します。X、Y、幅、高さはピクセル単位で入力します。入力しない場合は、クロックゾーンいっぱいに日付、時刻を表示します。

設定終了後、**[OK]** をクリックして**ゾーンの編集**ウィンドウを閉じます。

★日付、時刻の日本語表示について

日付、時刻は表示言語を選択できますが、日本語は選択肢にありません。日本語表示を行うには、下記の手順で既存の言語の表記を書き換えます。

編集タブのメニュー **編集 > 環境設定** と開き、クロックタブを開きます。言語で任意の言語（例えば使用しない言語など）を選択し、**[カスタマイズ]** をクリックすると**クロックのローカライズ**ウィンドウが開くので、表記を書き換えます。例えば以下のように書き換えます。

【日付】

クロックのローカライズ

日付 時刻

形式
プレビュー: 2019年3月4日 (月)
編集: %Y年%b%e日%a

%a: 曜日 (ショート)
%A: 曜日 (ロング)
%b: 月 (ショート)
%B: 月 (ロング)
%d: 日付 (01~31)
%e: 日付を数字で表示し、先頭にゼロは表示しない
%m: 月 (01~12)
%n: 月を数字で表示し、先頭にゼロは表示しない
%y: 年 (2桁表記)
%Y: 年 (4桁表記)

月 (ショート) 1月 2月 3月 4月 5月 6月
7月 8月 9月 10月 11月 12月

月 (ロング) 1月 2月 3月 4月 5月 6月
7月 8月 9月 10月 11月 12月

曜日 (ショート) (日) (月) (火) (水) (木) (金) (土)

曜日 (ロング) 日曜日 月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日

OK キャンセル

月（ショート）、月（ロング）、曜日（ショート）、曜日（ロング）を表示したいよう書き換えます。使用しない項目は書き換える必要はありません。月、曜日、年数（西暦）をどのように表示するのは、編集で設定します。編集に入力した値に応じてプレビュー日にプレビューが表示されます。

「201x 年 xx 月 xx 日（曜日）」のように表示する場合は、例のように月（ショート）、曜日（ショート）を書き換え、編集に「%Y 年 %b %e 日 %a」と入力します。

「%Y 年 %b %e 日 %a」は「年（4桁表示）・年・月（ショート）・日付を数字で表示し、先頭にゼロを表示しない・日・曜日（ショート）」を表示することを表します。「201x 年」を表示せずに「xx 月 xx 日（曜日）」のように表示する場合は、編集に「%b %e 日 %a」と入力します。

設定後、[OK] をクリックしてクロックのローカライズウィンドウを閉じます。

【時刻】

時刻表示では午前形式、午後形式（午前、午後の表示）を書き換えることができます。編集に値を入力して表示方法を指定します。午前、午後の表示は時刻の右上に小さく表示されます。設定後、[OK] をクリックしてクロックのローカライズウィンドウを閉じます。

クロックのローカライズで任意の言語を日本語表記に書き換え、日本語表示を行う場合は、**言語の選択**を行い、ゾーンの編集で日本語フォントを指定する必要があります。**言語の選択**を行わない場合、初期値の English で表示されます。またフォントを指定しない場合は文字化けを起こします。

5-3-8 背景画像ゾーン

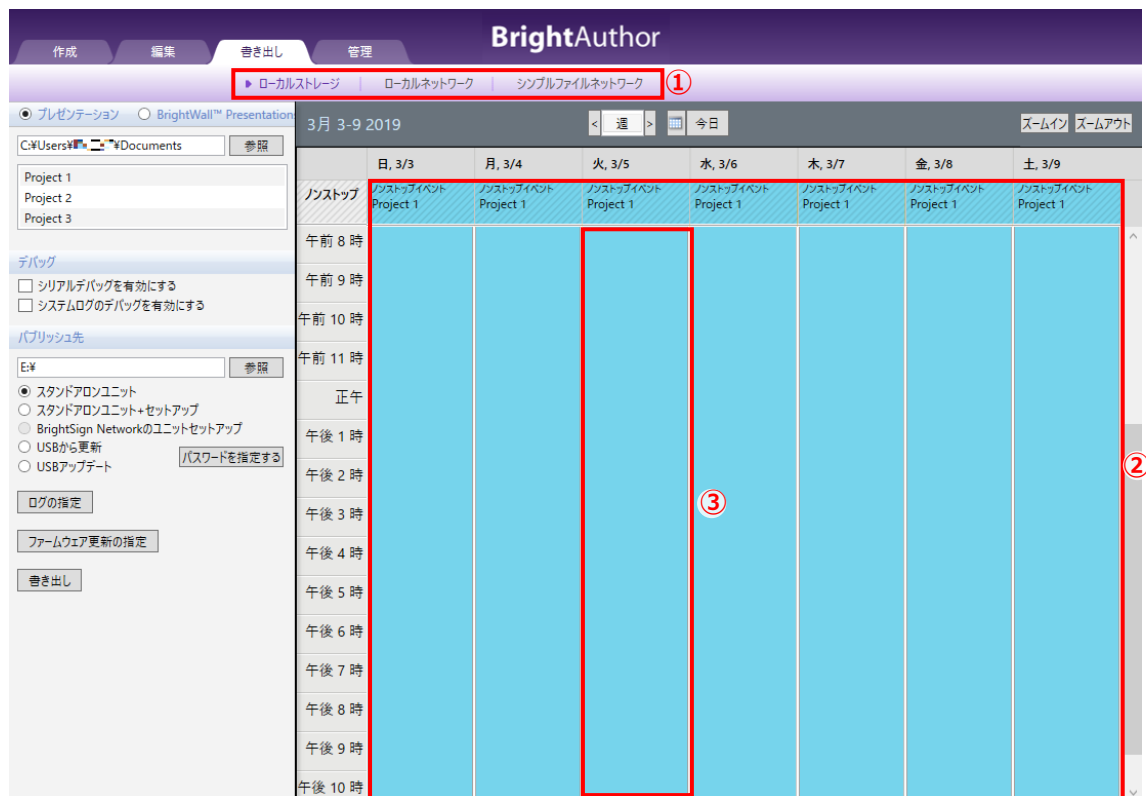
背景画像ゾーンにはプレゼンテーションの背景に画像、またはメディアフィードを配置できます。他の全てのゾーンは背景画像ゾーンの上に表示されます。背景画像ゾーンはビデオゾーンと同等の扱いになります。ビデオゾーンを 1 つ作成可能なモデルの場合、背景画像ゾーンを設定するとビデオゾーンを追加することはできません。背景色だけ必要な場合は背景画像ゾーンを使用する必要はありません。背景色は ファイル > プレゼンテーションのプロパティ > メイン タブから変更することができます。

背景画像ゾーンにはゾーンの編集による設定はありません。[ゾーンのプロパティ] をクリックしてもゾーンの編集ウィンドウは開きません。

6 スケジュールの作成

スケジュール再生を行う場合は、複数のプレゼンテーションを作成してスケジュールに割り当てます。編集 タブでプレゼンテーションを作成後、書き出し タブを開きます。初期状態では作成中のプレゼンテーションを常に表示する設定になっています。

6-1 スケジュールの設定画面



- ①更新方法を選択します。クリックして選択すると▶マークが表示され、選択されていることを表します。
- ②スケジュールを割り当てるスケジュール表です。例ではプレゼンテーション「Project 1」を常に表示する設定になっています
- ③スケジュールを割り当てる際は「常に表示」の設定を解除します。任意の「日程」をダブルクリックすると、プレゼンテーションのスケジュールウィンドウが開きます。

6-2 スケジュールの設定

プレゼンテーションのスケジュールウィンドウでプレゼンテーション再生の開始時間、終了時間、繰り返し設定、スケジュールを割り当てる期間などを設定します。

プレゼンテーション：複数のプレゼンテーションを作成済みの場合は、割り当てるプレゼンテーションを選択します。

常にアクティブ：チェックを外すことで「常に表示」の設定が解除されます。スケジュールの割り当てを行う場合は、はじめにチェックを外します。

イベント時間：指定したプレゼンテーションの開始時間と終了時間を[v]をクリックして設定します。選択する時間の候補が30分単位で表示されますが、時間を選択した後、「分」の部分をクリックして、Delete キーや Back Space キーで削除すると、分単位で書き換えることができます。

イベントを繰り返す：チェックを入れるとスケジュールの繰り返し設定が可能です。日、または週にチェックを入れます。

日：毎日、平日、週末から繰り返しのパターンを選択します。平日は月～金曜日に、週末は土・日曜日にスケジュールを繰り返します。

週：チェックを入れると表示が変わります。曜日ごとにスケジュールを割り当てることができます。割り当てる曜日にチェックを入れます。

© 2006 The Authors
Journal compilation © 2006 Blackwell Publishing Ltd

Journal of Management Education 36(7) 809–827

APPENDIX 1

[illegible]

午前 8 時			
午前 9 時	Project 1 09:00 AM - 12:00 PM	Project 1 09:00 AM - 12:00 PM	Project 1 09:00 AM - 12:00 PM
午前 10 時			
午前 11 時			
正午	Project 2 12:00 PM - 01:00 PM		
午後 1 時			
午後 2 時			

午前 8 時			
午前 9 時	Project 1 09:00 AM - 12:00 PM	Project 1 09:00 AM - 12:00 PM	Project 1 09:00 AM - 12:00 PM
午前 10 時			
午前 11 時			
正午			
午後 1 時		Project 2 01:00 PM - 02:00 PM	
午後 2 時			

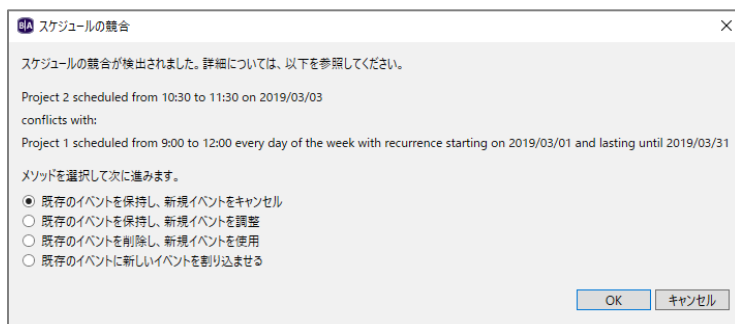
マウスのドラッグ操作で他の時間帯へスケジュールを移動することができます。

午前 8 時			
午前 9 時	Project 1 09:00 AM - 12:00 PM	Project 1 09:00 AM - 12:00 PM	Project 1 09:00 AM - 12:00 PM
午前 10 時			
午前 11 時			
正午	Project 2 12:00 PM - 01:00 PM		
午後 1 時			
午後 2 時			

午前 8 時			
午前 9 時	Project 1 09:00 AM - 12:00 PM	Project 1 09:00 AM - 12:00 PM	Project 1 09:00 AM - 12:00 PM
午前 10 時			
午前 11 時			
正午	Project 2 12:00 PM - 02:00 PM		
午後 1 時			
午後 2 時			

スケジュールの終了時間を 30 分単位で変更することもできます。

- ④プレゼンテーションをドラッグ&ドロップでスケジュールに登録した際に、設定済みのスケジュールが既にある場合はスケジュールの競合ウィンドウが開きます。競合したスケジュールをどのように処理するかを選び [OK] をクリックします。



既存のイベントを保持し、新規イベントをキャンセル：登録済みのスケジュールを残し、新規で追加するスケジュールの登録をキャンセルします。

既存のイベントを保持し、新規イベントを調整：登録済みのスケジュールを残し、新規で追加するスケジュールを調整するためにプレゼンテーションのスケジュールウィンドウが開きます。

既存のイベントを削除し、新規イベントを使用：登録済みのスケジュールを削除し、新規で追加したスケジュールに差し替えます。

既存のイベントに新しいイベントを割り込ませる：スケジュールの割り込みを行います。割り込みした時間帯のみ、新規で追加したスケジュールを実行します。

午前 8 時			
午前 9 時	Project 1 09:00 AM		Project 1 09:00 AM - 12:00 PM
午前 10 時		Project 2 10:00 AM	
午前 11 時			
正午			

スケジュールの割り込みを行った場合の表示です。

10～11 時の時間帯のみ割り込んだスケジュールを実行します。
(9～10 時、11～12 時は元のスケジュール通りに再生します。)

スケジュールの作成が完了したら、BrightSign の更新方法に合わせて書き出しを行います。

7 書き出し

作成したプレゼンテーション、スケジュールを BrightSign が再生できる形式に出力することを「書き出し」と呼びます。書き出しは書き出しタブで BrightSign の更新方法に合わせて実行します。

7-1 スタンドアローンの書き出し

プレゼンテーション、スケジュールを作成したら、書き出しを行います。書き出しで出力されたファイル、フォルダーを全て MicroSD カードの直下にコピーして BrightSign に接続します。

The screenshot shows the BrightAuthor application window. The 'Write' (書き出し) tab is selected. In the sidebar, the following options are highlighted with red circles and boxes:

- ① Local Storage (ローカルストレージ)
- ② Debug (デバッグ) - Serial debug enabled, System log debug enabled
- ③ Refresh (リフレッシュ)
- ④ Standalone Unit (スタンドアロンユニット) - Standalone unit + setup, BrightSign Network unit setup, USB update, USB update (password specified)
- ⑤ Log specification (ログの指定)
- ⑥ Firmware update specification (ファームウェア更新の指定)
- ⑦ Write (書き出し)

The main calendar view shows a schedule for March 3-9, 2019. Projects are assigned to specific time slots: Project 1 (09:00 AM - 12:00 PM) and Project 2 (12:00 PM - 07:00 PM).

①スタンドアロンで更新を行う場合は、ローカルストレージをクリックして選択します。▶マークが表示され、選択されていることを確認します。

②デバッグはオプション設定です。デバッグ機能を利用する場合にのみチェックを入れます。

シリアルデバッグを有効にする：チェックを入れるとプレゼンテーションに関するデバッグ情報をシリアル（RS-232）ポートに出力します。

システムログのデバッグを有効にする：チェックを入れるとプレゼンテーションに関するデバッグ情報をダイアグノスティック Web サーバーのログに出力します。

③書き出ししたファイルの保存先を指定します。コンピューターに Micro SD カードスロットがある場合や、Micro SD カード・リーダーライターを接続している場合は、保存先として指定します。デスクトップなどに一時的に書き出しを行う場合は、保存先にフォルダーを作成しておくことをお勧めします。書き出しを実行すると複数のフォルダー、ファイルが出力されます。

④書き出しのオプションを選択します。通常はスタンドアロンユニットにチェックを入れて進めます。
スタンドアロンユニット：プレゼンテーション、スケジュールを BrightSign が再生できる形式で出力（書き出し）します。

スタンドアロンユニット+セットアップ：書き出しと同時に「ユニットの設定」ファイルを出力します。
ユニットの設定が必要な場合にチェックを入れます。書き出しを実行するとユニットの設定ウィンドウが開きます。ユニットの設定は **3-1 スタンドアロン** を参照

BrightSign Network のユニットセットアップ：BrightSign Network が有効になっている場合のみ選択できます。BrightSign Network の設定に関しては、クイックスタートガイドをご参照ください。

USB から更新：MicroSD カードで稼働中（スタンドアロン）の BrightSign を USB ストレージで更新することができます。USB ポートのある BrightSign のみ対応します。詳細は **10-7 USB 更新** 参照

USB アップデート：USB メモリーを利用して BrightSign OS（ファームウェア）を更新します。USB ポートのある BrightSign のみ対応します。チェックを入れた場合は⑥の設定が必要です。

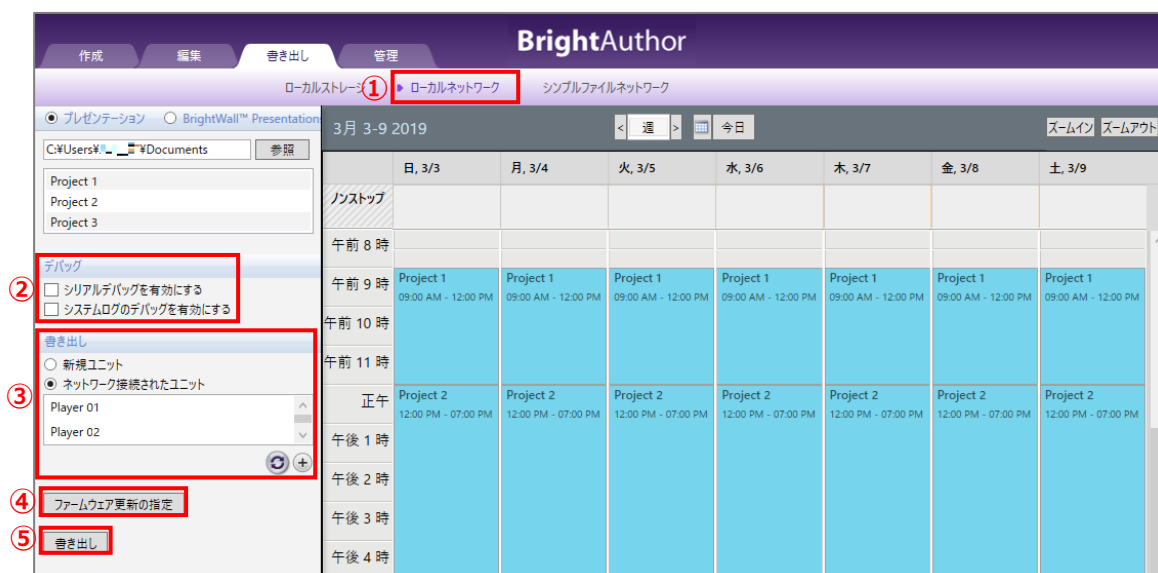
⑤設定が必要な場合のみクリックします。クリックするとログの作成ウィンドウが開きます。ログの作成については、**3-1 (7) ログの作成** を参照

⑥ **USB アップデート**にチェックを入れた場合は、クリックして BrightSign OS（ファームウェア）のバージョンを指定します。バージョンの指定については、**3-1 (3) ファームウェア** を参照

⑦ クリックすると書き出しを実行します。Micro SD カードに書き出したファイル、フォルダーを全てコピーして、BrightSign に接続して BrightSign の Reset ボタンを押す（または電源を入れ直す）と新しいプレゼンテーションを読み込んで実行します。

7-2 ローカルファイルネットワーキングの書き出し

ローカルファイルネットワーキングのユニットの設定が実行済みの BrightSign に、LAN 経由で直接、書き出しを実行します。BrightSign とコンピューターには同一セグメントの IP アドレスが設定されている必要があります。



① ローカルファイルネットワーキングで更新を行う場合は、ローカルネットワークをクリックして選択します。▶マークが 表示され、選択されていることを確認します。

② デバッグはオプション設定です。デバッグ機能を利用する場合にのみチェックを入れます。

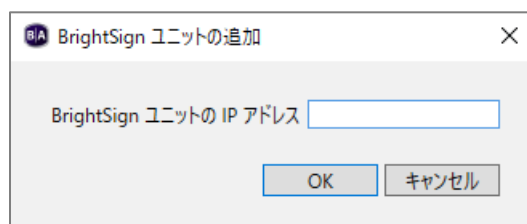
シリアルデバッグを有効にする：チェックを入れるとプレゼンテーションに関するデバッグ情報をシリアル（RS-232）ポートに出力します。

システムログのデバッグを有効にする：チェックを入れるとプレゼンテーションに関するデバッグ情報をダイアグノスティック Web サーバーのログに出力します。

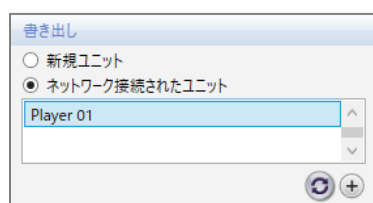
③書き出しを実行する BrightSign を選択します。

新規ユニット：新しくローカルファイルネットワークで使用する BrightSign を追加する場合は、チェックを入れて⑤書き出しをクリックします。ユニットの設定ウィンドウが開きますので、設定ファイルを作成します。セットアップの手順は **3-2 ローカルファイルネットワーク** を参照

ネットワーク接続されたユニット：ネットワークに接続済みの BrightSign を検出します。チェックを入れ、(+) をクリックするとユニットの追加ウィンドウが開きます。



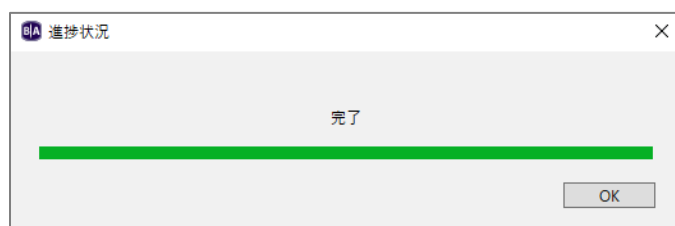
検出する BrightSign の IP アドレスをドットも含めて正確に入力し、[OK] をクリックします。



検出した BrightSign の名前が表示されます。複数の BrightSign をネットワークに接続している場合は、更新するプレーヤーの名前をクリックして選択します。Ctrl キーを押しながらクリックすると、複数のプレーヤーを同時に選択できます。(複数同時に選択し、**書き出し**を実行する場合、コンテンツ、スケジュールの転送は 1 台ずつ実行されます。)

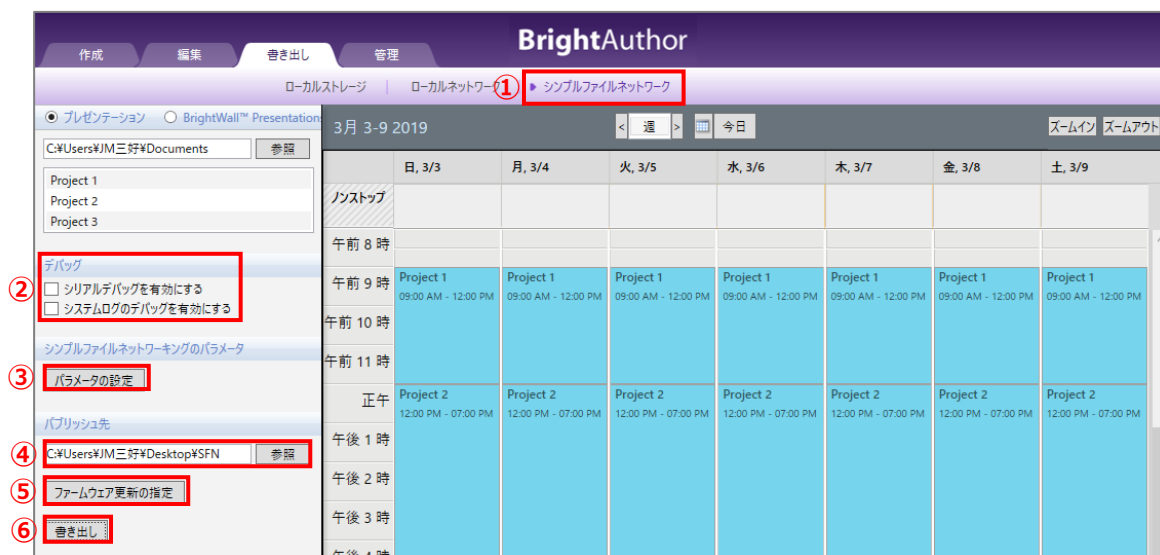
④コンテンツ、スケジュールの転送に合わせて、BrightSign OS（ファームウェア）の更新を行うことができます。更新を実行する場合は、④をクリックし、更新するバージョンを指定します。バージョンの指定については、**3-2 (3) ファームウェア** を参照

⑤書き出しをクリックすると進捗状況ウィンドウが表示され、コンテンツ、スケジュールの転送を実行します。転送が完了すると「完了」と表示されます。[OK] をクリックしてウィンドウを閉じます。



7-3 シンプルファイルネットワーキングの書き出し

シンプルファイルネットワーキング機能で更新ができるように書き出しを実行します。BrightAuthor には Web サーバーにデータをアップロードする機能はありませんので、書き出したファイルを一度ローカルに保存し、FTP クライアントで Web サーバーにアップロードする必要があります。FTP クライアントソフトは別途ご用意ください。



① シンプルファイルネットワークをクリックして選択します。▶マークが表示され、選択されていることを確認します。

② デバッグはオプション設定です。デバッグ機能を利用する場合にのみチェックを入れます。

シリアルデバッグを有効にする：チェックを入れるとプレゼンテーションに関するデバッグ情報をシリアル（RS-232）ポートに出力します。

システムログのデバッグを有効にする：チェックを入れるとプレゼンテーションに関するデバッグ情報をダイアグノスティック Web サーバーのログに出力します。

③ ユニットの設定で行った設定を変更する場合は、③をクリックしてシンプルファイルネットワーキングのパラメータウィンドウで設定を行います。Web サーバーへのアクセス間隔を短くするなどの設定が可能です。アクセス間隔はユニットの設定よりも短い時間（30 秒、1 分）の設定が可能です。

アクセス間隔をより短く設定できることを除き設定項目は**ユニットの設定**と同様です。設定内容の詳細については、**3-3 シンプルファイルネットワーキング** 参照

④ [参照] をクリックして書き出しするファイルの保存先を指定します。BrightAuthor には、Web サーバーにデータをアップロードする機能がありませんので、通常、一時的なファイルの保存先となります。書き出しを実行すると複数のファイル、フォルダーが出力されますので、保存先にはフォルダーを作成しておくことをお勧めします。

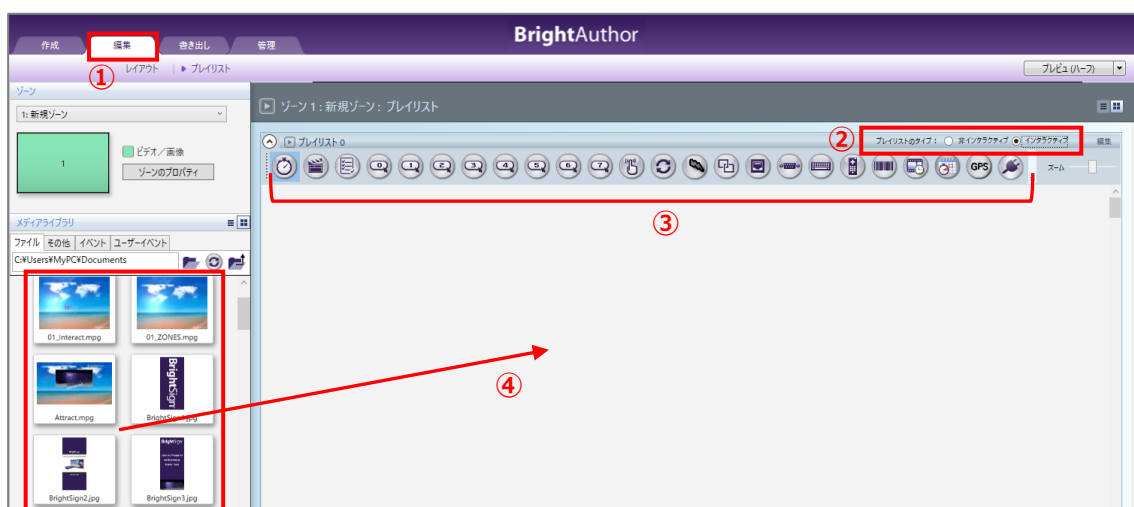
⑤コンテンツ、スケジュールの転送に合わせて、BrightSign OS（ファームウェア）の更新を行うことができます。更新を実行する場合は、④をクリックし、更新するバージョンを指定します。バージョンの指定については、**3-3 (3) ファームウェア** 参照

⑥書き出しをクリックすると、プレゼンテーション、スケジュールを BrightSign が再生できる形式で出力（書き出し）します。書き出されたファイル、フォルダーの全てを Web サーバーの同じ階層にアップロードします。Web サーバーへのアップロードには別途、FTP クライアントが必要です。

8 インタラクティブ・プレゼンテーション

BrightSign はタッチパネルのタッチ操作や、GPIO ポートに接続したスイッチ、人感センサーをトリガー（きっかけ）として表示内容を切り替えることができます。また、複数の BrightSign の再生を連動させて同期再生も可能です。プレイリストのタイプを「インタラクティブ」に変更して設定を進めます。

8-1 インタラクティブ・プレゼンテーションの基本的な操作



①編集タブを選択します。

②プレイリストのタイプでインタラクティブにチェックを入れます。

③インタラクティブにチェックを入れると、③のイベントアイコンが表示されます。

④動画、静止画をドラッグ&ドロップで登録します。はじめに登録したファイルのサムネイルにホームアイコンが付きます。BrightSign は起動後、はじめにホームアイコンの付いたファイルを表示します。

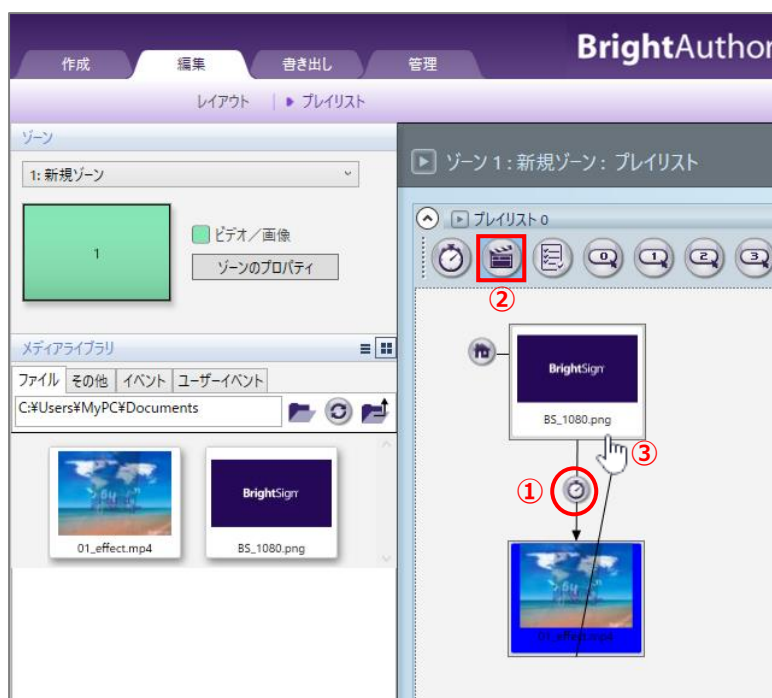
メディアライブラリから動画、静止画をドラッグ&ドロップで登録し、登録した動画、静止画をイベントアイコンで結びつけ、各ファイルの関係性を設定していきます。はじめに 2 つのイベントアイコンを使用して設定方法を説明します。

	タイムアウトイベント：指定した秒数経過すると次のステート（状態）に移ります。動画、静止画に使用することができます。
	メディアエンドイベント：動画の再生終了後、次に表示するステートを指定します。動画にのみ使用することができるアイコンです。

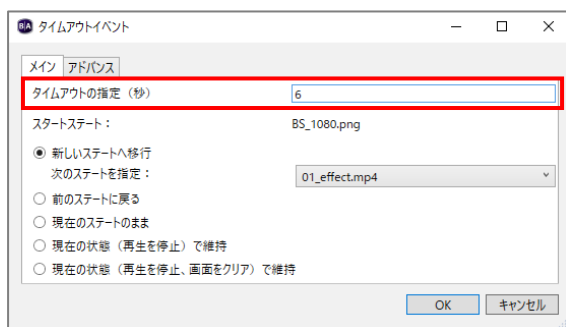
設定例では、起動後、「静止画」を表示し、6 秒後に「動画」を再生開始、「動画」の再生終了後、「静止画」の表示に戻り、以下ループ再生させるものとして説明します。



- ①メディアライブラリより「静止画」、「動画」をドラッグ&ドロップでプレイリストに登録します。はじめに表示する「静止画」を先に登録します。登録後に表示されるサムネイルを「ステート（状態）」と呼びます。インタラクティブ・プレイリストでは、登録した複数のステートをイベントアイコンで結びつけることで動作を設定します。
- ②はじめに登録した「静止画」のサムネイルにはホームアイコン（家のマーク）が付きます。BrightSignは起動後、ホームアイコンの付いたファイルから表示を行います。
- ③タイムアウトイベントアイコンをクリックして選択します。アイコンの背景の色が変わり、選択されていることを表します。
- ④登録した「静止画」と「動画」のサムネイルをタイムアウトイベントアイコンで、結び付けます。
「静止画」のサムネイルのファイル名のあたりをクリックしたまま保持すると、マウスカーソルが矢印から指マークに変わります。指マークのカーソルを「動画」のサムネイルの上までドラッグ&ドロップすると、「静止画」と「動画」のサムネイルをタイムアウトイベントで結びつけることができます。



















- ①「静止画」と「動画」がタイムアウトイベントで結ばれていることを表します。「静止画」と「動画」を結ぶタイムアウトイベントアイコンをダブルクリックするとタイムアウトイベントウィンドウが開き、タイムアウトの指定（秒）で「静止画」の表示時間を設定します。











- ②メディアエンドイベントアイコンをクリックして選択します。
- ③メディアエンドイベントアイコンで「動画」→「静止画」と結び付けます。「動画」のサムネイルのファイル名のあたりをクリックしたままにするとカーソルが指のマークに変わります。指のマークのカーソルを「静止画」のサムネイルの上までドラッグ&ドロップします。

以上のように、インタラクティブ・プレゼンテーションでは、プレイリストに登録した動画、静止画などをイベントアイコンで結ぶことで設定を進めます。様々なイベントアイコンを組み合わせることで、複雑な動作をさせることも可能です。

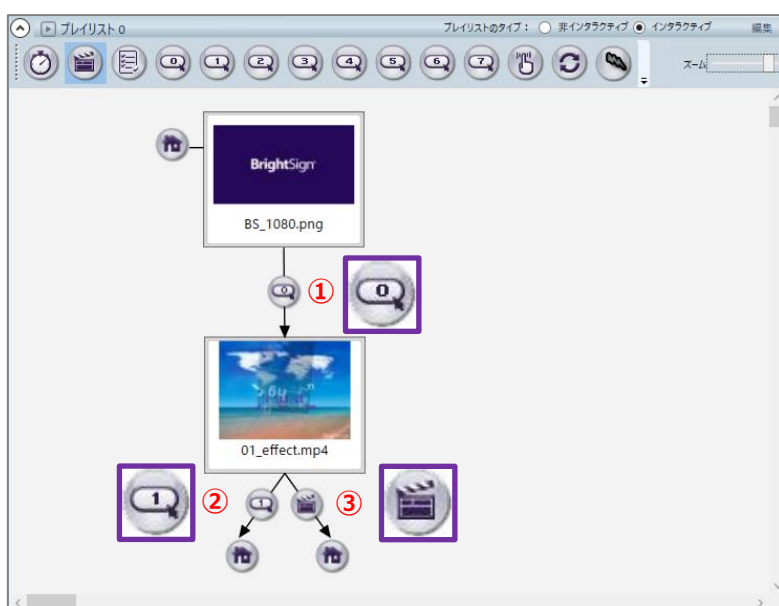
8-2 イベントアイコン

	タイムアウトイベント ：指定した秒数経過すると次のステート（状態）に移ります。動画、静止画に使用することができます。動画に使用した場合、動画の「尺」に関わらず、指定した秒数で次のステートに移動します。
	メディアエンドイベント ：動画の再生終了後、次に表示するステートを指定します。動画にのみ使用することができます。
	メディアリストエンドイベント ：メディアリストを表示した後に表示するステートを指定するイベントです。
       	<p>GPIO イベント：初期状態では 0～7 のボタンのアイコンで表示されます。GPIO の入力を受けて次のステートに移動します。</p> <p>GPIO ポートは入出力で合わせて 8 ポートまで使用することができます。初期設定では全て「入力」となっていますが、<u>ファイル > プレゼンテーションのプロパティ > I/O</u> タブにて、0～7 のポートを個別に「出力」に変更することができます。</p>
	タッチイベント ：USB 接続のタッチパネルディスプレイ、マウスを使用したプレゼンテーションを作成します。タッチ（クリック）領域を指定して、タッチ（クリック）すると、次のステートに移動します。
	同期イベント ：同期再生の設定に使用します。
	ゾーンメッセージイベント ：ゾーンを連動させることができます。全てのステートに設定することができます。
	リンクゾーンイベント ：ビデオ、画像ゾーンを連動させることができます。次に表示する画像、ビデオファイルを事前に読み込むため、ゾーンメッセージよりも短い時間で連動できます。
	UDP 入力イベント ：ネットワーク接続した機器からの UDP コマンドを受け、次のステートに移動します。コマンドは自由に設定することができます。

	シリアル入力イベント ：外部接続したシリアル機器からのコマンドを受け、次のステートに移動します。シリアルコマンドは自由に設定することができます。
	キーボード入力イベント ：キーボードの入力を受け、次のステートに移動します。一部の特殊キーも使用することができます。
	リモート入力イベント ：IR を利用したイベントですが、国内では対応する機器を販売しておりません。
	USB 入力イベント ：USB バーコードスキャナー、RF/ID リーダーなどを利用したイベントを設定することができます。バーコードや RF/ID を読み取って、次のステートに移動します。
	ビデオタイムコードイベント ：ビデオの再生中にコマンドを実行します。コマンドはミリ秒単位で設定することができます。
	日付/時間イベント ：特定の日時、または決まった時間に繰り返しイベントを実行します。
	GPS イベント ：USB 接続の GPS ユニットを接続して使用します。経度、緯度、範囲を設定し、ターゲットとなるエリアに入った際に、またエリアから出た際にイベントを実行します。
	プラグインメッセージイベント ：プラグインを使用して特殊な動作、表示が可能です。海外のフォーラムなどからプラグインを入手できますが、プラグインの利用はサポート外です。 ※プラグインは弊社が有償でご用意できる場合があります。本書、または弊社 FAQ に掲載がない機能をお求めの場合は、弊社サポートまでお問い合わせください。

8-3 GPIO イベント（接点制御）

GPIO ポート（接点）への入力をトリガーとした再生が可能です。オプションのスイッチボックス、人感センサー、リモコンユニットの他、様々な機器から BrightSign の再生を制御できます。



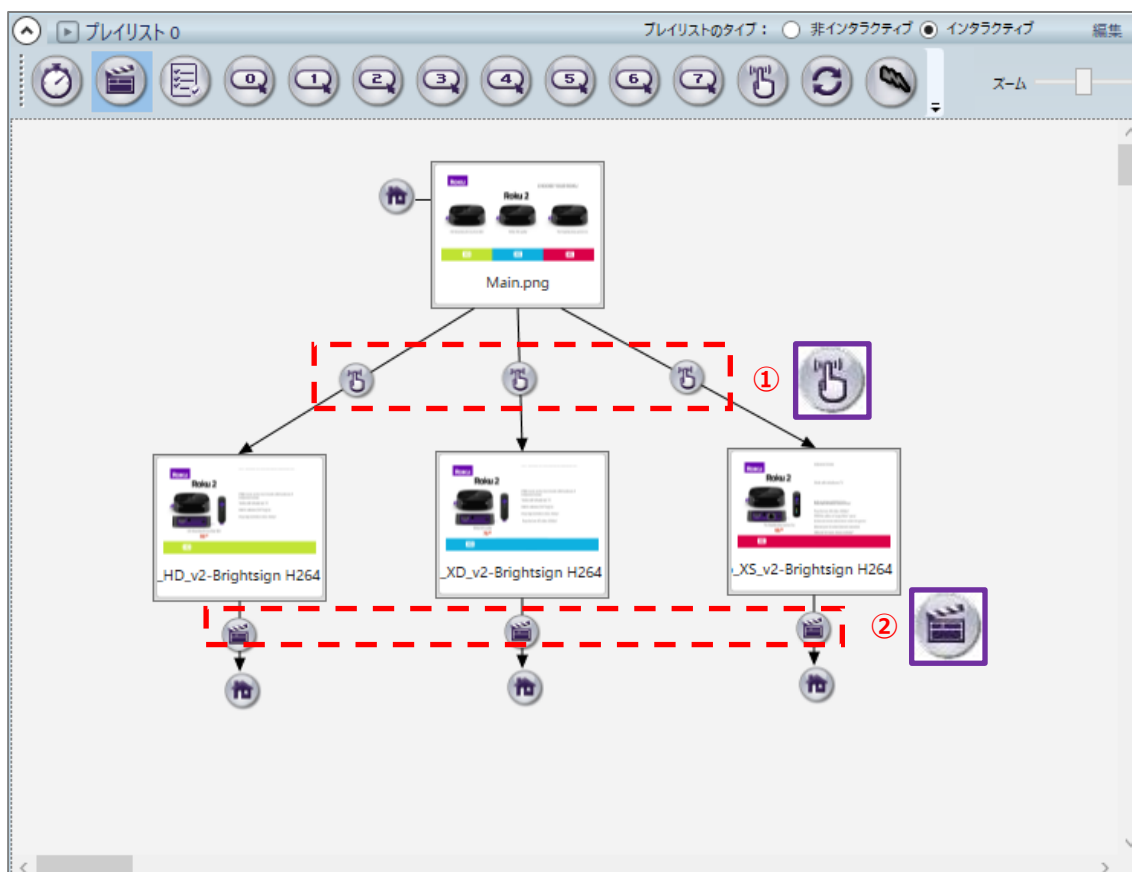
GPIO イベントを利用した設定例です。

- ①GPIO 0 の入力を受けて、静止画の表示を止め、動画の再生を開始します。
- ②動画再生中に GPIO 1 の入力を受けると、静止画の表示に戻ります。
- ③動画再生後、GPIO 1 の入力を受けることなく最後まで再生した場合、静止画の表示に戻ります。

※②③の命令は矛盾しないため共存させることができます。

8-4 タッチイベント

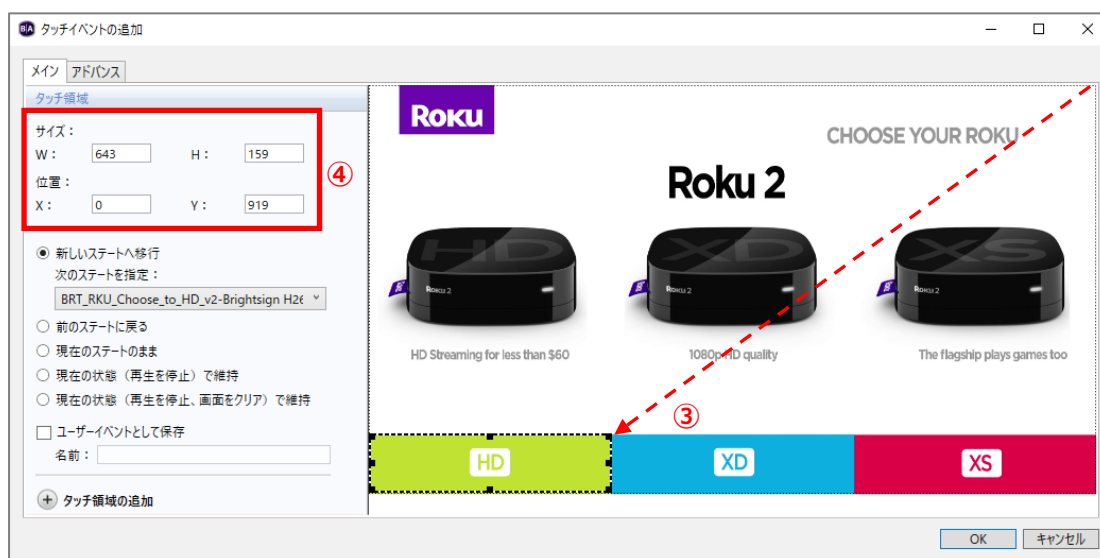
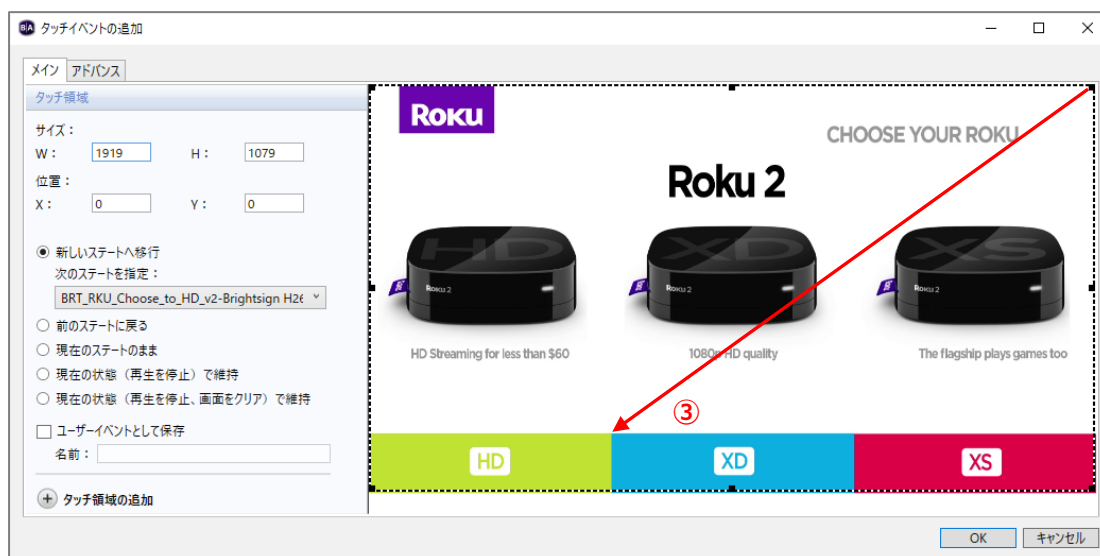
BrightSign では動画や静止画の素材を利用して、簡単にタッチパネル向けのプレゼンテーションを作成することができます。タッチ領域を指定し、指定した領域がタッチされると次のステートに移動します。



タッチイベントを利用した設定例です。

- ①指定したエリアをタッチすると動画の再生を開始します。
- ②動画の再生を終了すると静止画の表示に戻ります。

タッチイベントで 2 つのステートを結ぶと、タッチイベントの追加ウィンドウが開きます。タッチイベントの追加ではタッチ領域を指定します。



③黒い破線でタッチ領域を指定します。タッチ領域はマウスのドラッグ操作で簡単に指定できます。

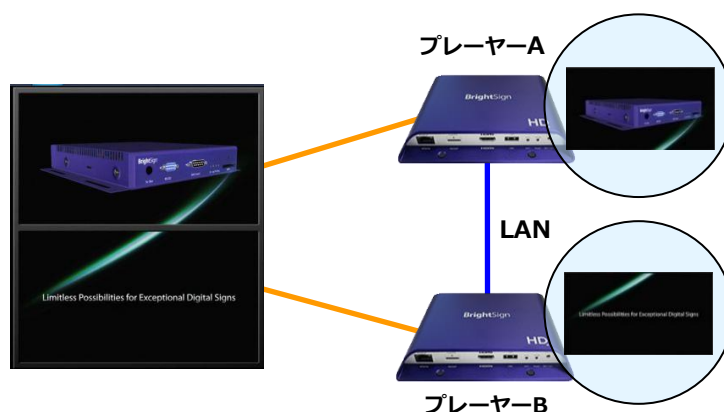
④タッチ領域は縦横のサイズ（W,H）と開始位置の座標（X,Y）の入力でも指定できます。

8-5 同期再生

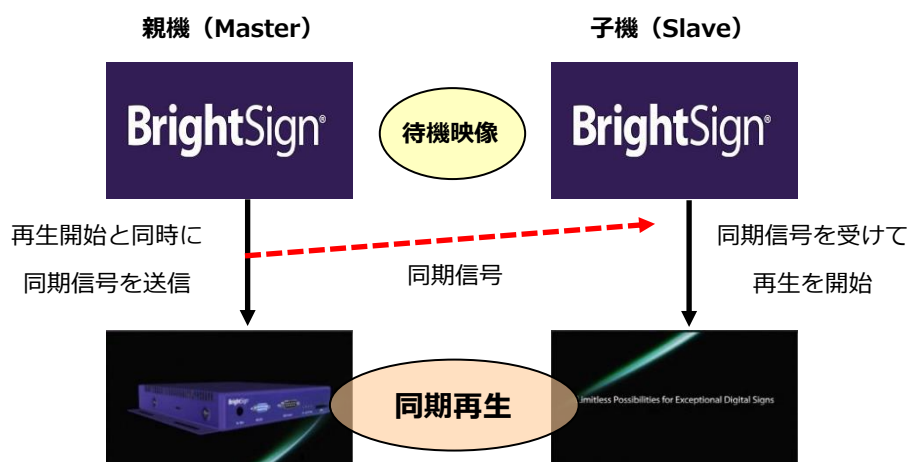
複数の BrightSign の再生を同期化し、複数のディスプレイの映像がつながったひとつの映像であるかのように表示することができます。同期再生を行うためには BrightSign を LAN ケーブルで接続する必要があります。3 台以上で同期再生する場合は、ネットワーク Hub を介して接続します。2 台で同期の場合は LAN ケーブル（ストレート）で 2 台の BrightSign を直接接続した場合も同期再生が可能です。

※同期再生を行うには、各 BrightSign に異なる IP アドレスを設定する必要があります。また **WiFi 接続での同期はサポート外です。同期再生には LAN ケーブルの接続が必須です。**

8-5-1 同期再生の仕組み



同期再生で複数のディスプレイの映像をつなげたひとつの映像のように見せるためには、分割された映像素材を用意する必要があります。上の例では、上下 2 画面をまたいだように表示するために、上半分の映像と下半分の映像を作成し、プレーヤーA は上半分の映像を、プレーヤーB には下半分の映像を持たせて同期再生を行います。



同期再生では 1 台のプレーヤーを「親機 (Master)」に、他のプレーヤーを「子機 (Slave)」にして再生を行います。親機は再生開始と同時に LAN 経由で同期信号を送り、子機は同期信号を受けて再生を開始します。同期再生は再生開始のタイミングを合わせる同時再生とも言えますが、同期のずれは最大 1.5 フレーム以内となります。

※同期のずれを 1.5 フレーム以内に抑えるためには、メーカー推奨のフォーマット（解像度、ビットレート等）の素材を使用する必要があります。

8-5-2 同期再生の設定手順

(1) IP アドレスの設定

同期再生を行うには BrightSign に異なる IP アドレスを設定する必要があります。BrightSign に IP アドレスが設定されていないと同期再生ができません。また IP アドレスが自動取得になっていると同期再生が正しく動作しない場合があります。IP アドレスはマニュアルで固定 IP を設定してください。IP アドレスの設定は、**3 BrightSign のセットアップ (ユニットの設定) 参照**

(2) ポート番号の確認

ポート番号の設定を確認します。ファイル > プレゼンテーションのプロパティ > インタラクティブ タブを開きます。

The screenshot shows the 'Interactive' tab of the 'Presentation Properties' dialog. The 'UDP' section is highlighted with a red rectangle. It contains the following settings:

- UDP 宛先アドレス** (UDP Destination Address):
 - ☒ 特定の IP アドレス (Specific IP Address): 255.255.255.255
 - ☐ ローカルサブネット上のすべてのデバイス (All devices on the local subnet)
 - ☐ すべてのデバイスがイーサネット経由で接続されている (All devices connected via Ethernet)
 - ☐ すべてのデバイスが無線で接続されている (All devices connected wirelessly)
- UDP 宛先ポート** (UDP Destination Port): 5000
- UDP 受信ポート** (UDP Reception Port): 5000

初期設定では宛先（送信先）ポート、受信ポートにポート番号「5000」が設定されています。設定値を変更する必要はありませんが、親機の UDP 宛先ポートと子機の UDP 受信ポートの設定を同じにする必要があります。親機、子機のポート番号の設定が誤っていると同期再生ができません。

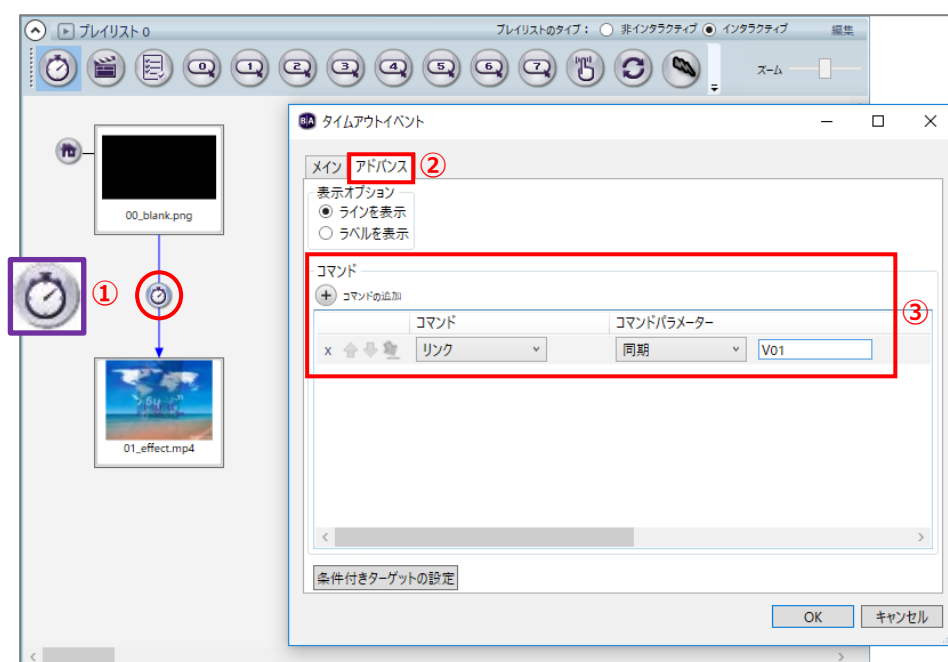
UDP 宛先アドレス：同期コマンドの送信先を指定できます。通常は設定を変更する必要はありません。

特定の IP アドレス：送信先の IP アドレスを指定します。初期値の「255.255.255.255」はローカルサブネット上の全ての機器に送信します。

ローカルサブネット上のすべてのデバイス：全ての機器に送信します。

(3) 親機のプレゼンテーションの作成

設定例として、親機は起動後、「静止画」を表示し、6 秒後に「動画」の再生を開始、再生終了後、「動画」をはじめからループ再生するものとします。「動画」の再生を開始するタイミングで同期の信号を送るように設定します。

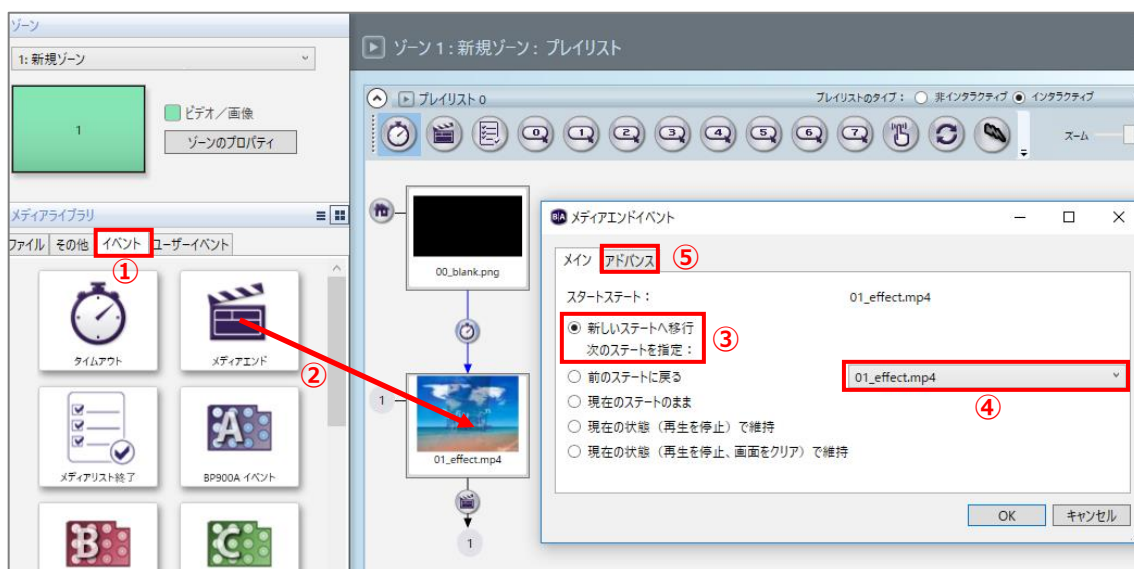


① 静止画、動画の順にプレイリストに登録し、静止画と動画をタイムアウトイベントで結びます。静止画と動画を結ぶタイムアウトイベントアイコンをダブルクリックします。

② タイムアウトイベントウィンドウが開きますので、アドバンスタブを開きます。

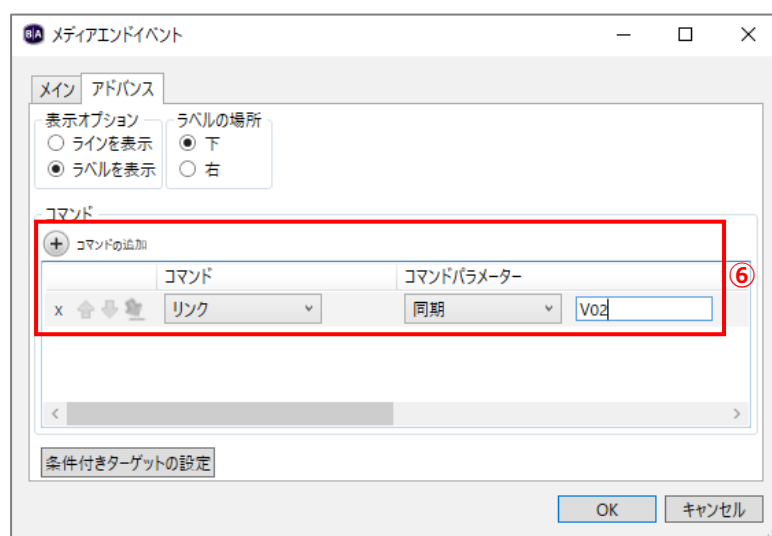
③ (+) コマンドの追加をクリックし、コマンドは[リンク]を、コマンドパラメーターは[同期]を選びます。入力ボックスには同期信号（同期コマンド）とする文字列を入力します。同期コマンドは任意に設定が可能です。ここでは「V01」と入力するものとします。[OK] をクリックして閉じます。

親機は動画の再生を開始すると同時にネットワークに「V01」を送信します。



動画をループ再生するように設定します。

- ① メディアライブラリのイベントタブを開きます。
- ② メディアエンドアイコンを動画のサムネイルの上にドラッグ&ドロップします。
- ③ メディアエンドイベントウィンドウが開きます。メインタブのスタートステートで新しいステートへ移行 次のステートを指定にチェックを入れます。
- ④ 動画をループ再生するように、動画のファイル名を選択します。
- ⑤ アドバンスタブを開いて、同期コマンドを設定します。

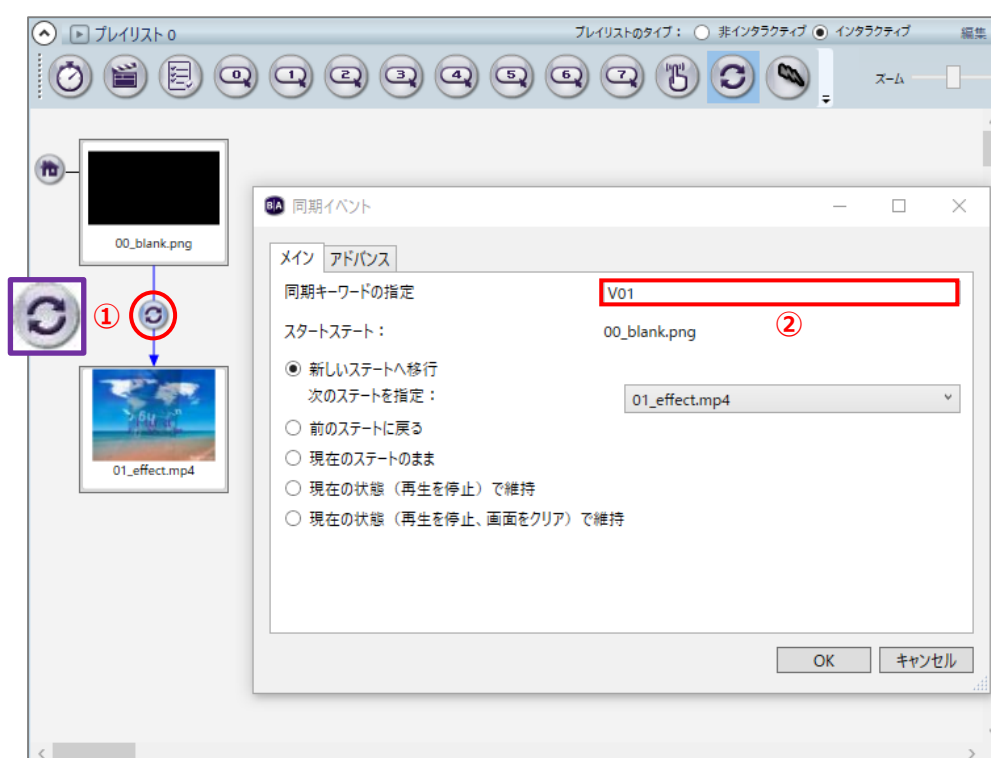


- ⑥ (+) コマンドの追加をクリックし、コマンドは[リンク]を、コマンドパラメーターは[同期]を選び、入力ボックスに同期信号(同期コマンド)とする文字列を入力します。同期コマンドは任意に設定が可能です。ここでは「V02」と入力するものとします。[OK]をクリックして閉じます。

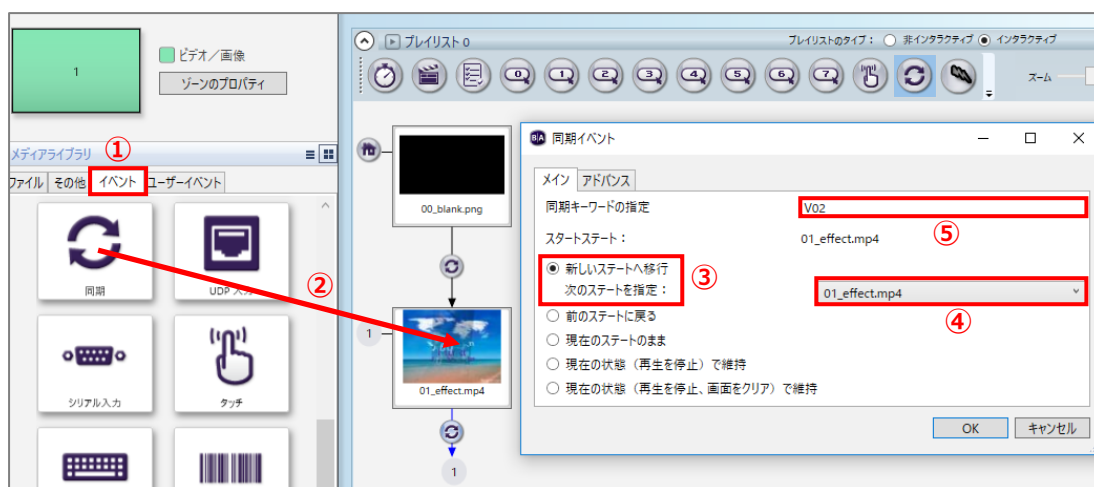
親機のプレゼンテーションが完成しました。子機のプレゼンテーションの作成に進みます。

(4) 子機のプレゼンテーションの作成

子機は起動後、静止画を表示し、親機からの同期コマンドを受けて動画の再生を開始し、また親機からの同期コマンドを受けて動画をはじめてから再生するものとして設定します。



- ①静止画、動画の順にプレイリストに登録し、静止画と動画を同期イベントアイコンで結びます。
- ②同期イベントウィンドウが開きますので、同期キーワードの指定に親機の設定に合わせて「V01」と入力します。



親機からの同期コマンドを受けて、動画をループ再生するように設定します。

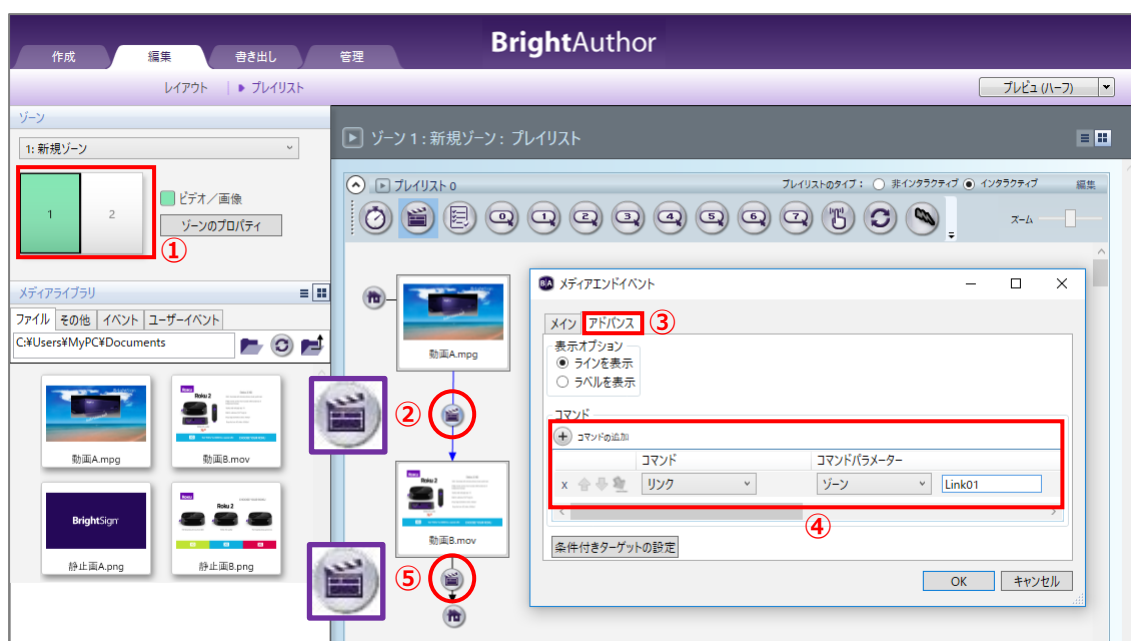
- ① メディアライブラリのイベントタブを開きます。
- ② 同期アイコンを動画のサムネイルの上にドラッグ&ドロップします。
- ③ 同期イベントウィンドウが開きます。メインタブのスタートステートで新しいステートへ移行 次のステートを指定にチェックを入れます。
- ④ 動画をループ再生するように、動画のファイル名を選択します。
- ⑤ 同期キーワードの指定に親機の設定に合わせて「V02」と入力します。

BrightSign の更新方法に合わせ、書き出しタブで親機、子機のプレゼンテーションの書き出しを行います。

8-6 ゾーンメッセージ・リンクゾーン

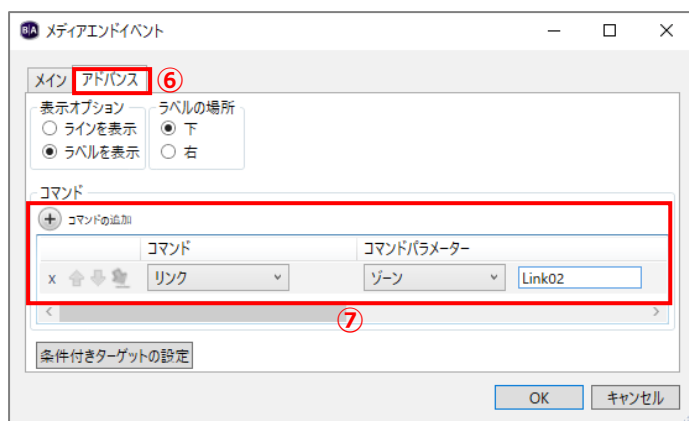
ゾーンメッセージとリンクゾーンはゾーンを連動させる機能です。ゾーンメッセージは全てのステートに設定可能で、例えば、静止画と音声ファイルを連動させる場合はゾーンメッセージを使用します。リンクゾーンは動画と静止画にのみ設定できるゾーンを連動させる機能ですが、事前に動画、静止画ファイルを読み込むため、低遅延での連動が可能です。

以下の設定例は、リンクゾーンを使用して動画と静止画を連動させる場合の設定です。「動画 A」再生中は「静止画 A」を、「動画 B」再生中は「静止画 B」を表示するものとします。



レイアウトでビデオ／画像ゾーンと画像ゾーンを作成しておきます。ビデオ／画像ゾーンに配置した動画の表示を切り替える際にリンクキーワードを出力し、画像ゾーンに配置した静止画はリンクキーワードを受けて表示を切り替えるように設定します。

- ①ビデオ／画像ゾーンを選択します。
- ②「動画 A」と「動画 B」をプレリストに登録し、「動画 A」→「動画 B」をメディアエンドイベントで結びます。「動画 A」と「動画 B」を結ぶメディアエンドイベントアイコンをダブルクリックするとメディアエンドイベントウィンドウが開きます。
- ③アドバンスタブを選択します。
- ④ (+) コマンドの追加をクリックし、コマンドでは [リンク]、コマンドパラメーターは [ゾーン] を選び、入力ボックスにリンクキーワードを入力します。リンクキーワードは任意の文字列を使用できますが、ここでは「Link01」と入力するものとします。
- ⑤「動画 B」→「動画 A」をメディアエンドイベントアイコンで結びます。「動画 B」とホームアイコンを結ぶメディアエンドイベントアイコンをダブルクリックしてメディアエンドイベントウィンドウを開きます。



⑥ アドバンスタブを開きます。

⑦ (+) コマンドの追加をクリックし、コマンドでは「リンク」、コマンドパラメーターは「ゾーン」を選び、入力ボックスにリンクキーワードを入力します。ここでは「Link02」と入力するものとします。

ここまでの設定で、ビデオ／画像ゾーンでは、起動後、はじめに「動画 A」を再生し、「動画 A」の再生を終了して「動画 B」の再生を開始する際にリンクキーワード「Link01」を出力、「動画 B」の再生を終了して「動画 A」の再生を開始する際にリンクキーワード「Link02」を出力します。

続いて画像ゾーンの設定を行います。画像ゾーンはリンクキーワードを受けて静止画の表示を切り替えるように設定します。



① 画像ゾーンをクリックして選択します。

②「静止画 A」と「静止画 B」をプレイリストに登録し、「静止画 A」→「静止画 B」をリンクゾーンイベントで結びます。

③リンクゾーンイベントウィンドウが開きますので、リンクキーワードの指定の入力ボックスには、ビデオ／画像ゾーンの設定に合わせてリンクキーワード「Link01」を入力します。

④「静止画 B」→「静止画 A」をリンクゾーンイベントで結びます。リンクゾーンイベントウィンドウが開きますので、リンクキーワードの指定の入力ボックスにリンクキーワード「Link02」を入力します。

これで画像ゾーンでは、起動後、「静止画 A」を表示し、ビデオ／画像ゾーンからのリンクキーワード「Link01」を受けて「静止画 B」の表示へ切り替わり、「Link02」を受けて静止画 A の表示に戻ります。

8-7 UDP コマンド制御

UDP コマンドをトリガーとして、ネットワーク経由で表示の切り替え、再生中の動画の一時停止などが可能です。使用するコマンドはユーザーが任意に設定することができます。

設定例では、起動後、「静止画 A」を表示、UDP コマンド「start」を受けて「動画 A」の再生を開始、動画の再生が終了、または UDP コマンド「end」を受けて「静止画 A」の表示に戻るものとします。



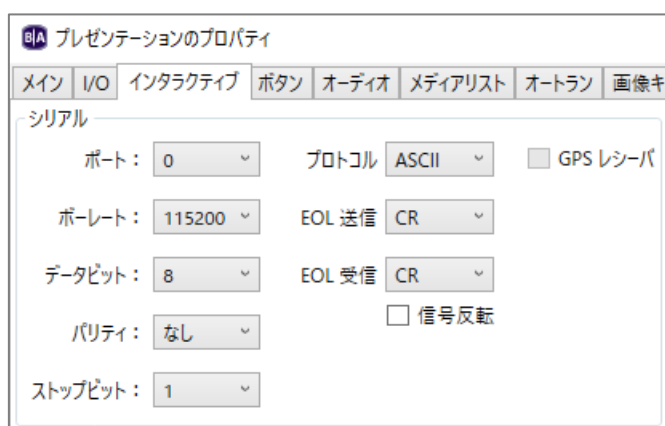
①「静止画 A」と「動画 A」をプレイリストに登録し、「静止画 A」→「動画 A」を UDP 入力イベント で結びます。

- ② UDP 入力イベントウィンドウが開きますので、UDP 入力の指定の入力ボックスに、設定する UDP コマンド（文字列）を入力します。ここでは「start」と入力するものとします。
- ③ 「動画 A」→「静止画 A」を UDP 入力イベントで結びます。UDP 入力イベントウィンドウが開きます。UDP 入力の指定の入力ボックスに設定する UDP コマンド（ここでは「end」）を入力します。
- ④ 「動画 A」→「静止画 A」を メディアエンドイベントで結びます。

8-8 シリアル制御

BrightSign には一般的なシリアル制御に対応する機器のようなコマンド表はありません。シリアルコマンドはインタラクティブイベントのひとつで、表示の切り替え、再生中の動画の一時停止などに使用するトリガーとなります。使用するコマンドはユーザーが自由に設定することができますので、シリアル制御対応の DVD プレーヤーなどの置き換えとして、BrightSign を使用することができます。

プレゼンテーションを作成する前にシリアルポートの設定を行います。ファイル > プレゼンテーションのプロパティ > インタラクティブタブの順に開きます。



ポートの設定は、シリアル制御を訪う場合は通常「ポート 0」を使用します。HO523 の場合は「ポート 1」を使用します。GPS ユニットのような USB シリアルデバイスの場合は「ポート 2」を使用します。ボーレート、データビット、パリティ、ストップビットは接続する機器に合わせて設定します。

設定例では、起動後、「静止画 A」を表示、シリアルコマンド「start」を受けて「動画 A」の再生を開始、動画の再生が終了、またはシリアルコマンド「end」を受けて「静止画 A」の表示に戻るものとします。



- ①「静止画 A」と「動画 A」をプレイリストに登録し、「静止画 A」→「動画 A」をシリアル入力イベントで結びます。
- ②シリアル入力イベントウィンドウが開きますので、シリアル入力の入力ボックスに設定するシリアルコマンドを入力します。ここでは「start」と入力するものとします。
- ③「動画 A」→「静止画 A」をシリアル入力イベントで結びます。シリアル入力イベントウィンドウが開きますのでシリアル入力の入力ボックスに設定するシリアルコマンド（ここでは「end」）を入力します。
- ④「動画 A」→「静止画 A」をメディアエンドイベントで結びます。

8-9 キーボード入力イベント

BrightSign に USB キーボードを接続し、キー入力をトリガーとして表示の切り替えや再生中の動画の一時停止などが可能です。キーは一部の特殊キーも使用することができます。

設定例では、起動後、「静止画 A」を表示、「S」キーを押すと「動画 A」の再生を開始、動画の再生が終了、または「E」キーを押すと「静止画 A」の表示に戻るものとします。



- ①「静止画 A」と「動画 A」をプレイリストに登録し、「静止画 A」→「動画 A」をキーボード入力イベントで結びます。
- ②キーボード入力イベントウィンドウが開きますので、キーボード入力の指定の入力ボックスに設定するキーを入力します。ここでは「s」と入力するものとします。
- ③「動画 A」→「静止画 A」をキーボード入力イベントで結びます。キーボード入力イベントウィンドウが開きますのでキーボード入力の指定の入力ボックスに設定するキー（ここでは「e」）を入力します。
- ④「動画 A」→「静止画 A」をメディアエンドイベントで結びます。

<特殊キーの入力方法>

Space	<sp>	Page Up	<pu>	F1	<f1>	F9	<f9>
◀	<la>	PageDown	<pd>	F2	<f2>	F10	<f10>
▶	<ra>	Backspace	<bs>	F3	<f3>	F11	<f11>
▲	<ua>	Tab	<tb>	F4	<f4>	F12	<f12>
▼	<da>	Insert	<in>	F5	<f5>	PrintScreen	<f13>
Return	<rn>	Delete	<de>	F6	<f6>	ScrollLock	<f14>
Enter	<en>	Home	<ho>	F7	<f7>	PauseBreak	<f15>
Escape	<es>	End	<ed>	F8	<f8>		

8-10 USB 入カイベント

USB バーコードリーダーや RFID リーダーの入力をトリガーとして表示の切り替えを行います。例えば、特定の JAN コードを読み取った場合に動画を再生させることができます。

設定例では、起動後、「静止画 A」を表示、USB バーコードリーダーで JAN コード「4900000000000」を読み取ると「動画 A」の再生を開始、動画の再生が終了後、「静止画 A」の表示に戻るものとします。



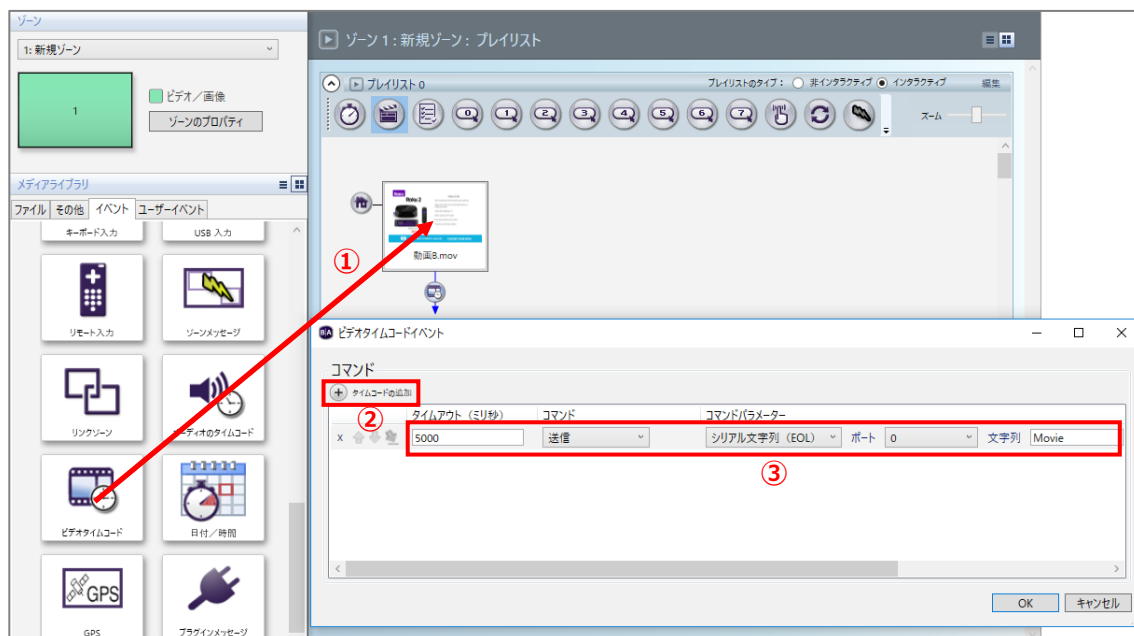
①「静止画 A」と「動画 A」をプレイリストに登録し、「静止画 A」→「動画 A」を USB 入カイベント で結びます。

②USB 入カイベントウィンドウが開きますので、USB 入力の指定の入力ボックスに設定するコードを入力します。ここでは「4900000000000」と入力するものとします。

③「動画 A」→「静止画 A」をメディアエンドイベントで結びます。

8-11 ビデオタイムコード

ビデオタイムコードは動画の再生を開始後、指定した時間（ミリ秒）が経過した時点でコマンドを実行する機能です。



① メディアライブラリのイベントタブにあるビデオタイムコードアイコンをプレイリストに登録済みの動画のサムネイルの上にドラッグ&ドロップします。

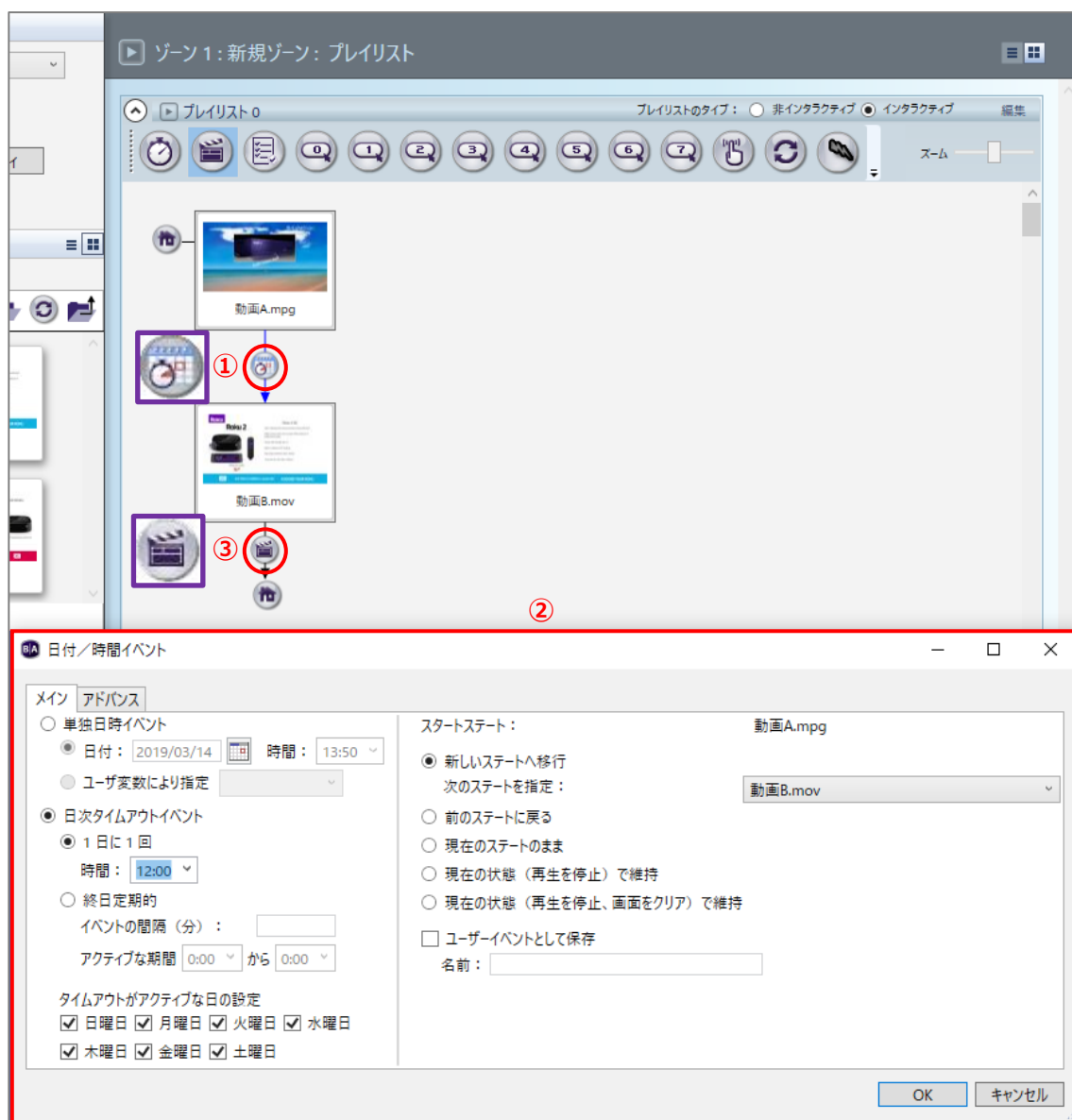
② ビデオタイムコードイベントウィンドウが開きます。(+) タイムコードの追加をクリックします。

③ タイムアウト（ミリ秒）にコマンドを実行する時間をミリ秒単位で入力し、コマンド、コマンドパラメーターを選択して設定値を入力します。上の例ではタイムアウト（ミリ秒）に「5000」と入力し、コマンドは「送信」、コマンドパラメーターは「シリアル文字列（EOL）」を選択して、設定値に「Movie」と入力しています。以上の設定で、動画の再生開始後「5000 ミリ秒（5 秒）後」にシリアルコマンド「Movie」を出力します。

8-12 日付/時間イベント

日付/時間イベントは指定した日時に実行するイベントです。毎日の決まった時間に指定した動画を再生するなどの設定が可能です。

設定例では、通常は「動画 A」を再生し、毎日 12 時に「動画 B」の再生を行い、「動画 B」の再生終了後、「動画 A」の再生に戻るものとします。



①「動画 A」と「動画 B」をプレイリストに登録し、日付/時間イベントで結びます。日付/時間イベントウィンドウが開きます。

②毎日 12 時に「動画 B」の再生を行うには、日時タイムアウトイベント、1 日に 1 回にチェックを入れ、時間で [12 : 00] を選択します。

③「動画 B」→「動画 A」をメディアエンドイベントアイコンで結びます。

設定例は一例です。日付/時間イベントでは、下記のような設定が可能です。

単独日時イベント：チェックを入れると指定した日時に一度だけイベントを実行します。日付、時間（分単位）を指定します。

日次タイムアウトイベント：チェックを入れると 1 日 1 回指定した時間に、または指定した間隔（分）でイベントを実行します。

1 日に 1 回：チェックを入れ、時間を指定します。

終日定期的：イベントの間隔（分）とアクティブな時間（開始時間、終了時間）を指定します。

タイムアウトがアクティブな日の設定：設定を有効にする曜日にチェックを入れます。

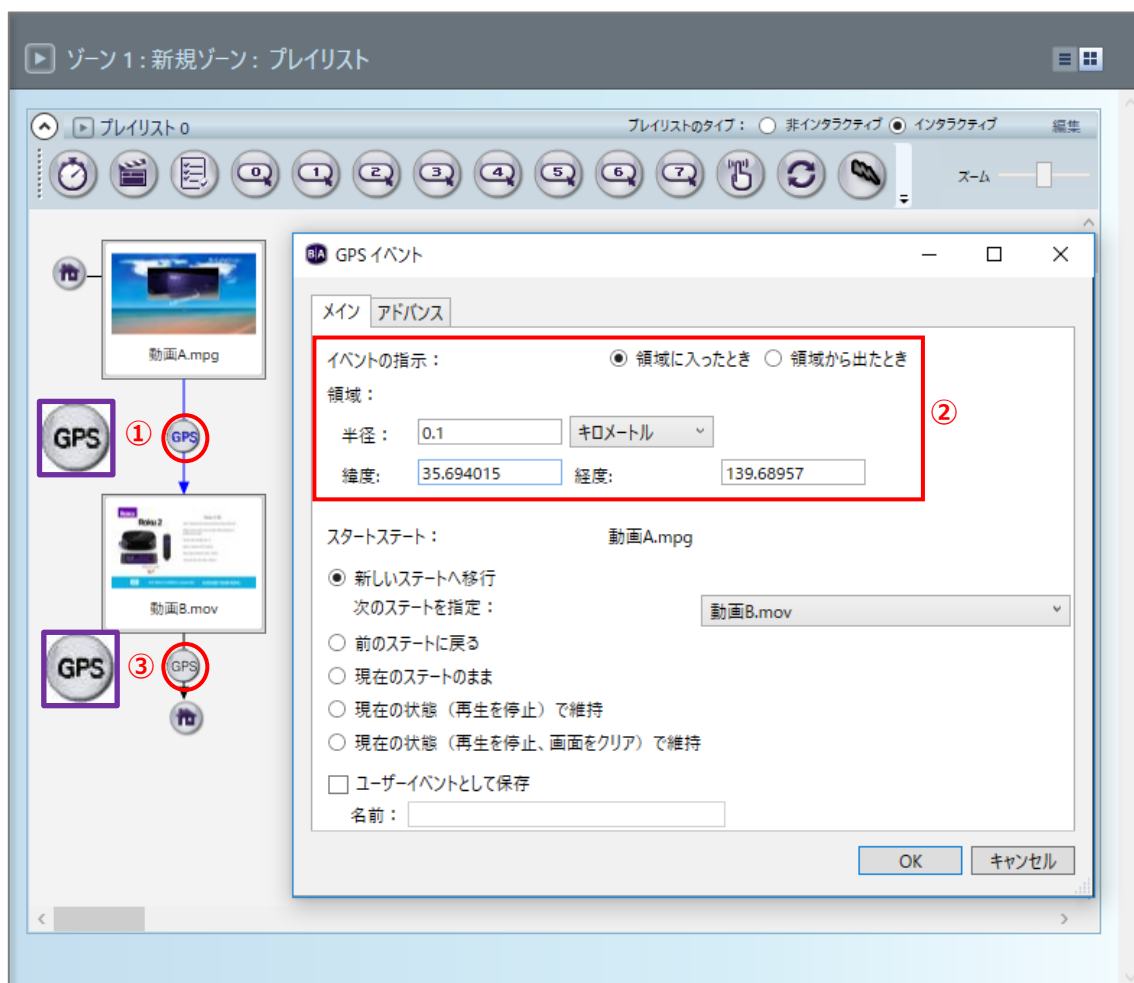
8-13 GPS イベント

GPS イベントは市販の USB 接続の GPS ユニットを利用して、その時の経度、緯度に応じたコンテンツを表示することができます。ターゲットとなる領域を経度、緯度と半径で指定し、ターゲット領域に入った際、またはターゲット領域から出た際にイベントを実行します。

GPS ユニットを接続して使用する場合は、はじめにポートの設定を行います。ファイル > プレゼンテーションのプロパティ > インタラクティブ タブの順に開き、① ポート を「2」に設定し、② GPS レシーバ にチェックを入れます。



設定例では、起動後、「動画 A」を再生、ターゲット領域に入ると「動画 B」を再生、ターゲット領域から出ると「動画 A」の再生に戻るものとします。



- ①「動画 A」と「動画 B」をプレイリストに登録し、GPS イベントで結びます。GPS イベントウィンドウが開きます。
- ②イベントの指示で領域に入ったときにチェックを入れ、領域の半径（単位を選択）、経度、緯度を指定します。指定した経度、緯度から半径 100m 以内をターゲット領域とする場合は、半径に「0.1」と入力し、単位を「キロメートル」とします。
- ③「動画 B」→「動画 A」を GPS イベントアイコンで結びます。GPS イベントウィンドウでは、イベントの指示の領域から出たときにチェックを入れ、領域を指定します。

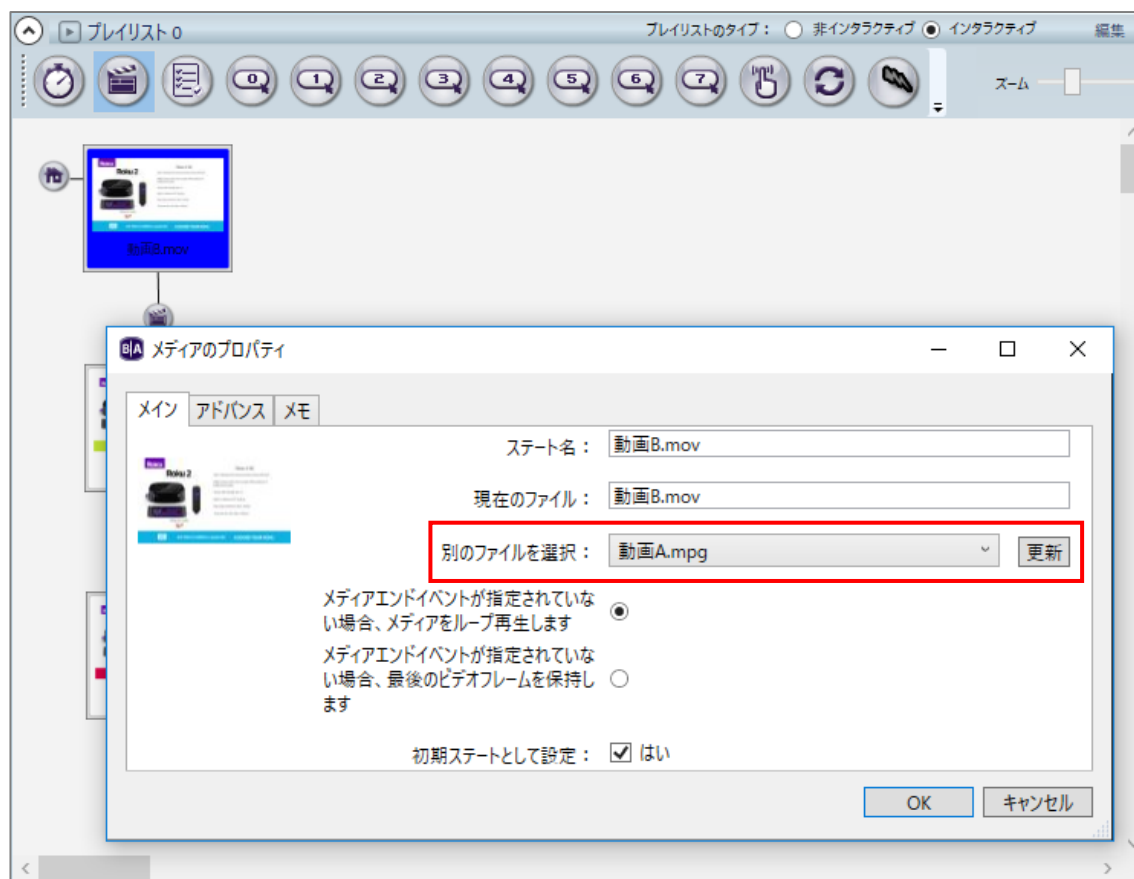
9 その他の設定、便利な機能

BrightSign ではこれまでに紹介した以外にも様々なコンテンツをサイネージとして利用できます。また便利に使う様々な機能があります。

9-1 コンテンツファイルの置き換え

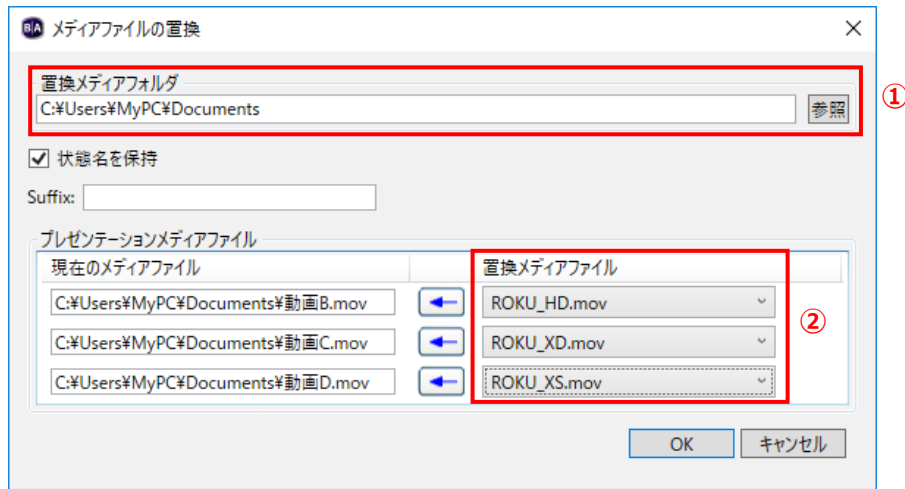
プレイリスト上で設定したイベントの設定を変更することなく、コンテンツファイルのみを置き換えることができます。但し、静止画は静止画に、動画は動画にのみ置き換えが可能です。

9-1-1 個別の置き換え



プレイリストに登録済みの静止画、動画のサムネイルをダブルクリックすると、メディアのプロパティウィンドウ開きます。別のファイルを選択より変更したいファイルを選択し、[更新] をクリックするとファイルを置き換えます。この操作では、置き換え前のファイルが保存されているフォルダーの中にあるファイルとのみ置き換えることが可能です。

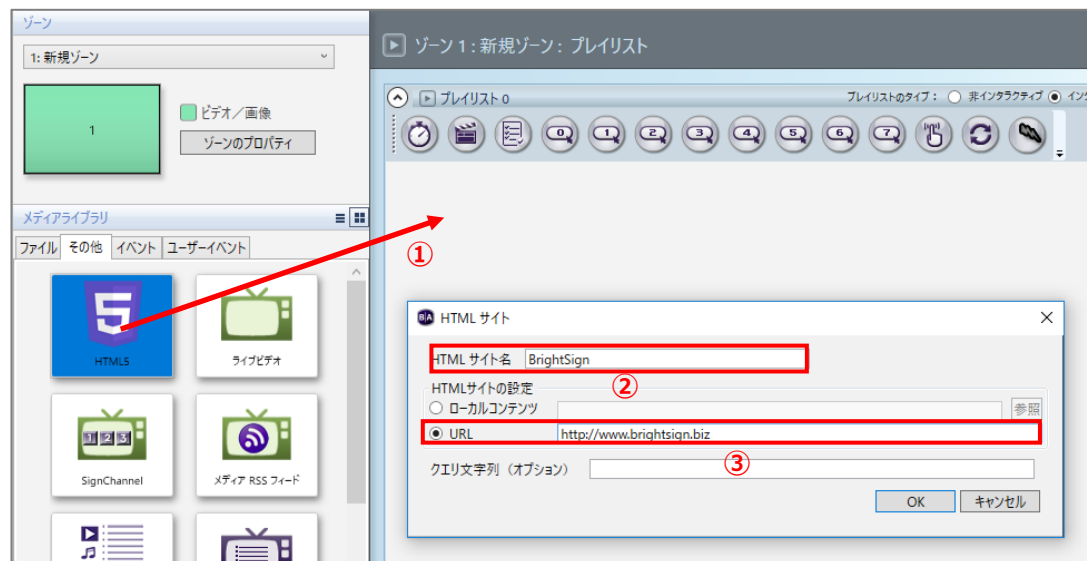
9-1-2 一括の置き換え



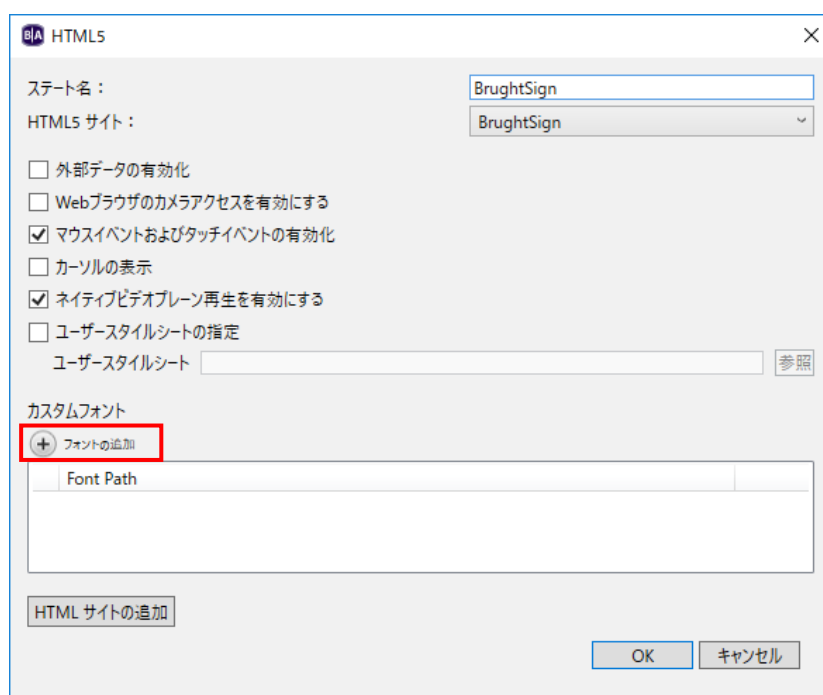
ファイル > メディアファイルの置換の順にクリックし、メディアファイルの置換ウィンドウでファイルを一括で置き換えることができます。①置換メディアフォルダの[参照]をクリックして、置き換えるファイルが保存されているフォルダーを指定します。この操作では、置き換え前のファイルが保存されているフォルダー以外にあるファイルと置き換えることができます。②置換メディアファイルでファイルを選択し、[OK] をクリックして置き換えを実行します。

9-2 HTML5 の表示設定

HTML5 表示機能を利用して Web サイトをコンテンツとして表示することができます。



- ① メディアライブラリのその他タブにある HTML5 アイコンをプレイリストに登録します。(HTML5 アイコンは非インタラクティブプレイリストでも登録できます。) HTML サイトの登録がない場合は、HTML サイトの追加を確認するウィンドウが開きますので、[はい] をクリックすると、HTML サイトウィンドウが開きます。
- ② HTML サイトウィンドウでは HTML サイトの登録を行います。HTML サイト名に登録名を入力します。必須入力項目のため、何らかの入力が必要です。
- ③ URL にチェックを入れ、表示させたい Web サイトの URL を入力し、[OK] をクリックします。HTML5ウィンドウが開きます。



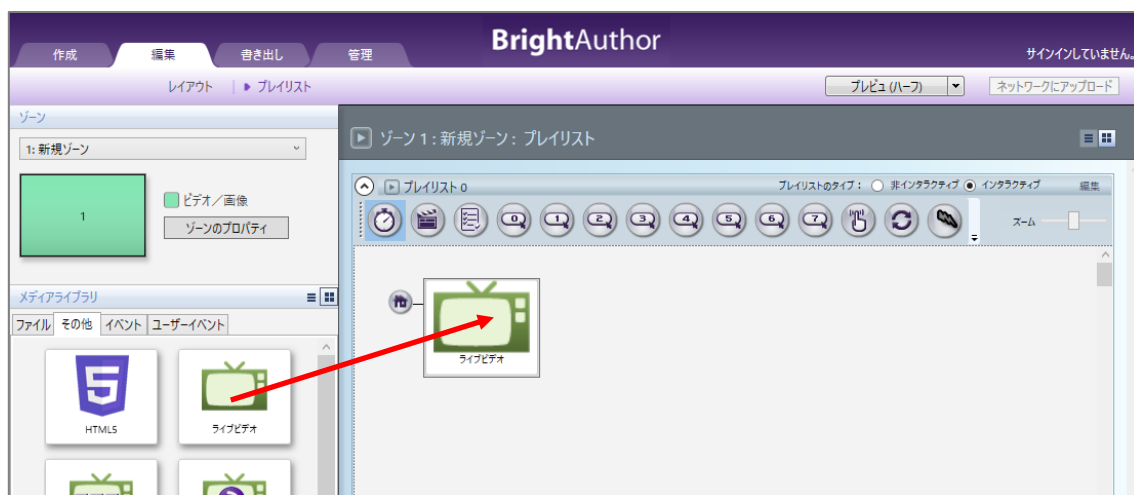
フォントを指定する場合は (+) フォントの追加をクリックして、True Type フォントファイルを指定します。

登録した HTML サイトの削除、及び、追加登録は、ファイル > プレゼンテーションのプロパティ > HTML サイトタブより行います。x をクリックすると削除します。追加登録をする場合は、(+) HTML サイトの追加をクリックして、HTML サイトウィンドウで登録を行います。

※BrightSign は汎用のブラウザとして設計されているものではありません。Web ページが意図したように表示できない場合もありますので、Web ページをコンテンツとして利用する場合は事前の検証が必要です。HTML5 の詳細については、メーカーサイトの「HTML Development」をご参照ください。
BrightSign Documentation (<http://docs.brightsign.biz/>)

9-3 HDMI 入力の設定

HTML 入力ポートを持つモデルは、Blu-ray プレーヤーや地デジチューナー、コンピューターなどの出力映像を取り込んで表示することができます。(HDCP1.4 まで対応)

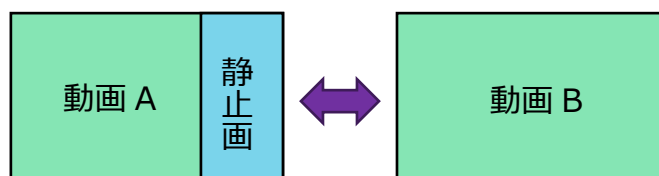


メディアライブラリのその他タブにあるライブビデオアイコンをプレイリストに登録します。(HTML5 アイコンは非インタラクティブプレイリストでも登録できます。)

※HDMI 入力した映像を表示する場合は、出力解像度、フレームレートの設定を入力信号に合わせることを推奨します。

9-4 プレゼンテーションの切り替え

複数のプレゼンテーションをイベントで切り替えることができます。例えば「2 ゾーンで動画と静止画を表示するプレゼンテーション」と「全画面で動画を表示するプレゼンテーション」を作り、動画の再生が終了するたびに切り替える（メディアエンドイベントで切り替える）ことができます。



プレゼンテーションの切り替えを行うには、複数のプレゼンテーションを作成し、BrightAuthor に登録する必要があります。2 つのプレゼンテーションを切り替える場合の設定の流れは以下になります。

- 1) プレゼンテーション A を作成する。(プレゼンテーション B へのリンクは含まない)
- 2) プレゼンテーション A へのリンクを含むプレゼンテーション B を作成する。

3) プレゼンテーション A を開き、プレゼンテーション B へのリンクを設定する。

設定の手順を説明します。

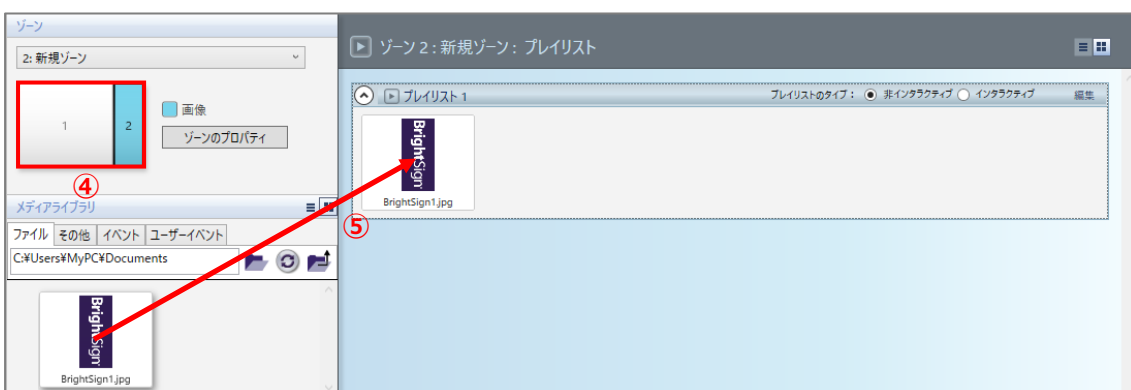
1) 2 ゾーンの「プレゼンテーション A」を作成します。プレゼンテーション B へのリンクを設定する前の段階まで作成して保存します。



①動画と静止画を表示する 2 ゾーンのレイアウトを作成します。動画を配置するゾーンをクリックして選択します。

②インタラクティブプレイリストを選択します。

③プレイリストに「動画 A」を登録します。

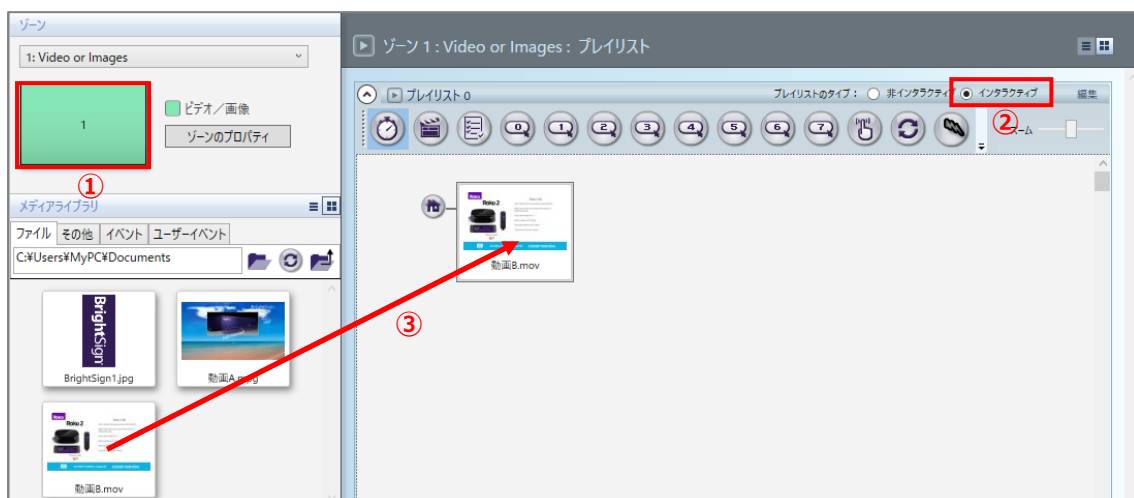


④静止画を配置するゾーンをクリックして選択します。

⑤プレイリストに「静止画」を登録します。

プレゼンテーション A を保存します。ファイル > 保存 (または ファイル > 名前を付けて保存) で保存します。

- 2) 全画面に動画を表示する「プレゼンテーション B」を作成します。プレゼンテーション A へのリンクを含むプレゼンテーションを作成します。

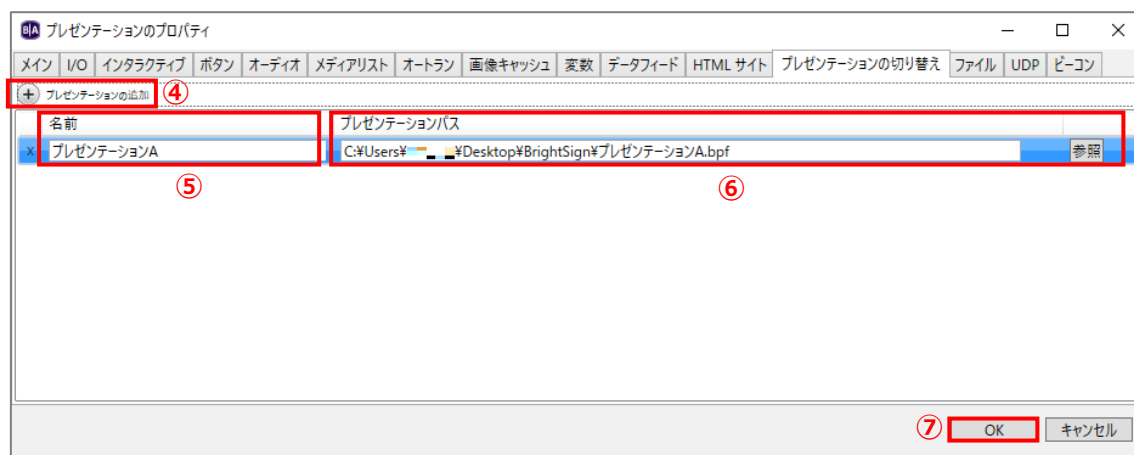


①全画面に動画を表示するゾーンを作成します。(テンプレートで全画面を選択します。)

②インタラクティブプレイリストを選択します。

③プレイリストに「動画 B」を登録します。

プレゼンテーション A を BrightAuthor に登録し、プレゼンテーション B にプレゼンテーション A へのリンクを設定します。ファイル > プレゼンテーションのプロパティ > プレゼンテーションの切り替え タブの順に開きます。

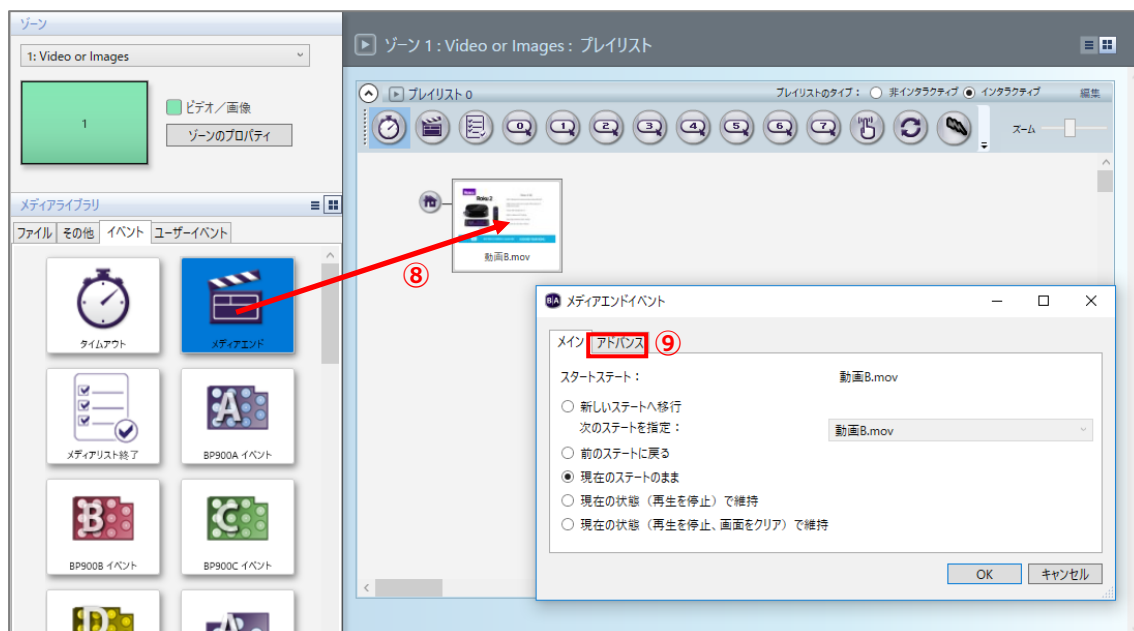


④ (+) プレゼンテーションの追加をクリックします。

⑤名前には登録するプレゼンテーション名を入力します。bpf ファイルのファイル名と同じである必要はありません。分かりやすい名前を付けます。ここでは「プレゼンテーション A」とします。

⑥ [参照] をクリックしてプレゼンテーション A の bpf ファイル（bpf ファイルの保存先のパス）を指定します。

⑦ [OK] をクリックして設定を保存します。



⑧ メディアライブラリのイベントタブにあるメディアエンドアイコンを、登録済みの「動画 B」のサムネイルの上にドラッグ&ドロップします。

⑨ メディアエンドイベントウィンドウが開きますので、アドバンスタブを開きます。

プレゼンテーション B にプレゼンテーション A へのリンクを設定します。



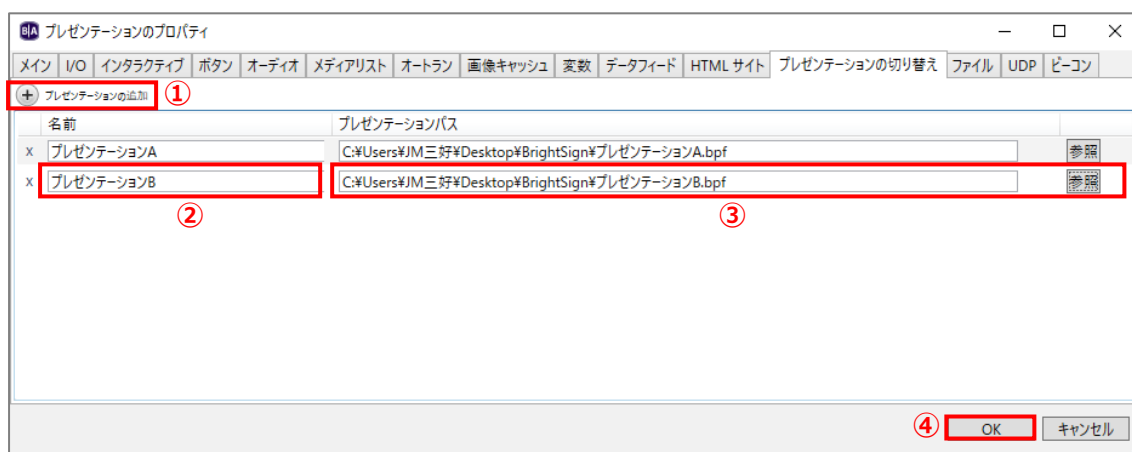
⑩ (+) コマンドの追加をクリックします。

⑪ コマンドは [その他]、コマンドパラメーターは [プレゼンテーションの切り替え] を選び、Specify presentation で [プレゼンテーション A] を選択します。

⑫ [OK] をクリックして閉じ、プレゼンテーション B を保存します。ファイル > 保存 (または、ファイル > 名前を付けて保存) で保存します。

3) プレゼンテーション A を開き、プレゼンテーション B へのリンクを設定します。

プレゼンテーション B を BrightAuthor に登録します。ファイル > プレゼンテーションのプロパティ > プレゼンテーションの切り替えタブの順に開きます。



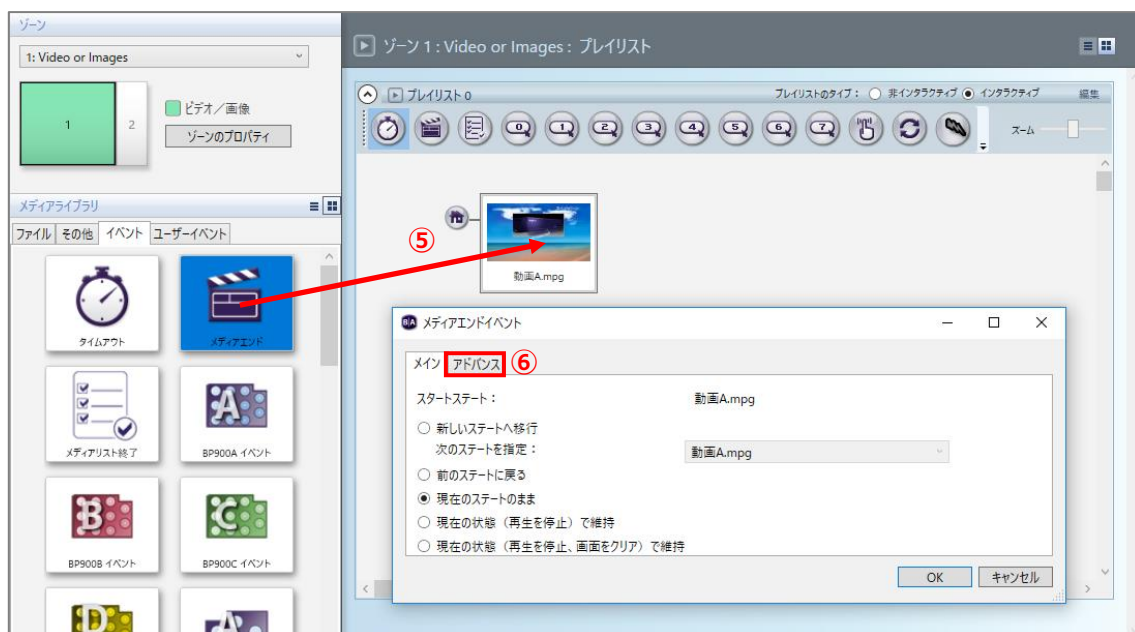
① (+) プレゼンテーションの追加をクリックします。

② 名前には登録するプレゼンテーション名を入力します。bpf ファイルのファイル名と同じである必要はありません。分かりやすい名前を付けます。ここでは「プレゼンテーション B」とします。

③ [参照] をクリックしてプレゼンテーション B の bpf ファイル (bpf ファイルの保存先のパス) を指定します。

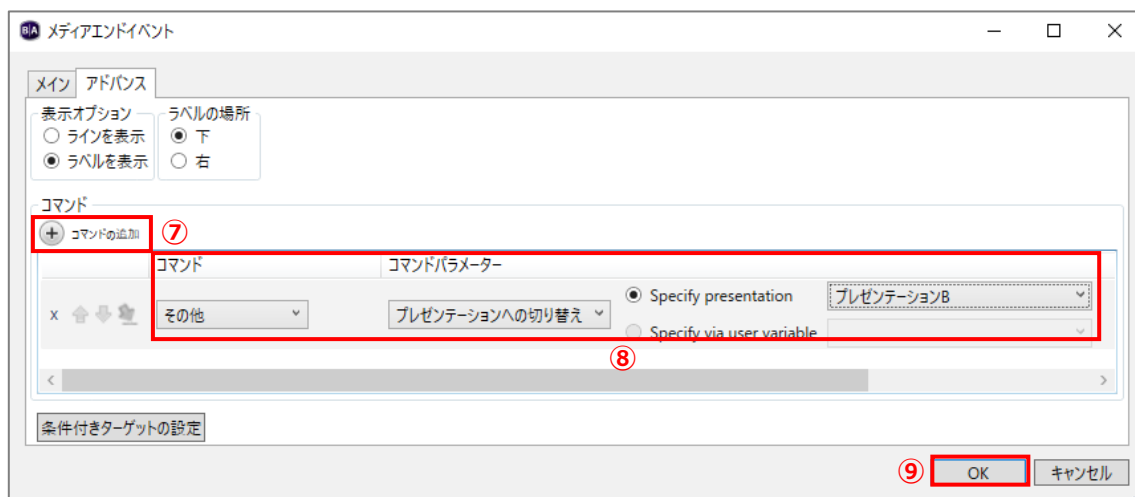
④ [OK] をクリックして設定を保存します。

プレゼンテーション A にプレゼンテーション B へのリンクを設定します。



⑤メディアライブラリのイベントタブにあるメディアエンドアイコンを、登録済みの「動画 A」のサムネイルの上にドラッグ&ドロップします。

⑥メディアエンドイベントウィンドウが開きますので、アドバンスタブを開きます。

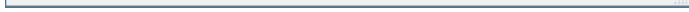


⑦ (+) コマンドの追加をクリックします。

⑧コマンドは [その他]、コマンドパラメーターは [プレゼンテーションの切り替え] を選び、Specify presentation で [プレゼンテーション B] を選択します。

⑨ [OK] をクリックして閉じます。

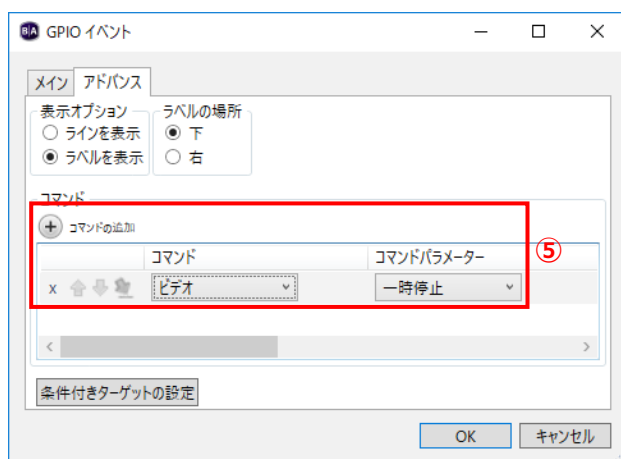
CONCLUSIONS

[illegible]

②現在のステータスのままにチェックを入れます。

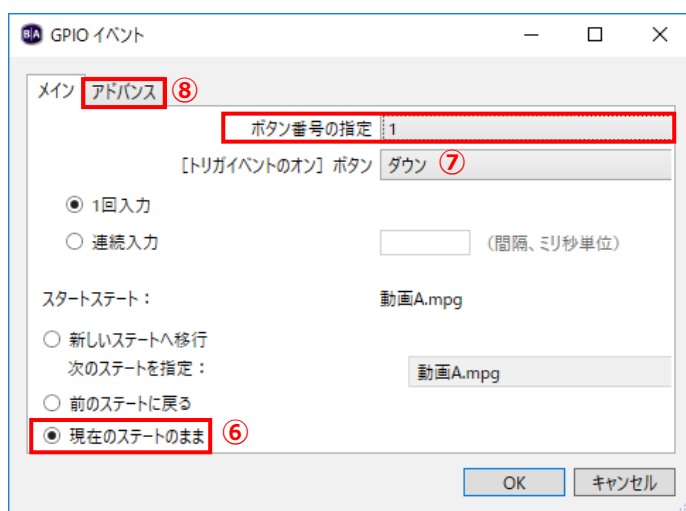
③ボタン番号の指定で一時停止に使用する GPIO ポートを選びます。ここでは「0」を選ぶものとします。

④アドバンスタブを開きます。



⑤ (+) コマンドの追加をクリックし、コマンドはビデオを、コマンドパラメーターは「一時停止」を選び「OK」をクリックして閉じます。

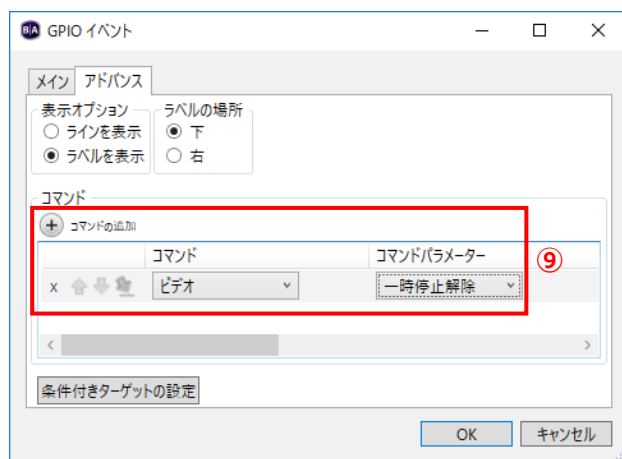
同様の操作で一時停止状態からの再生再開を設定します。再度「動画 A」のサムネイルの上にメディアライブラリのイベントタブにある GPIO イベントアイコンをドラッグ&ドロップします。



⑥現在のステータスのままにチェックを入れます。

⑦ ボタン番号の指定で一時停止に使用する GPIO ポートを選びます。ここでは「1」を選ぶものとします。

⑧ アドバンスタブを開きます。



⑨ (+) コマンドの追加をクリックし、コマンドはビデオを、コマンドパラメーターは「一時停止解除」を選び「OK」をクリックして閉じます。

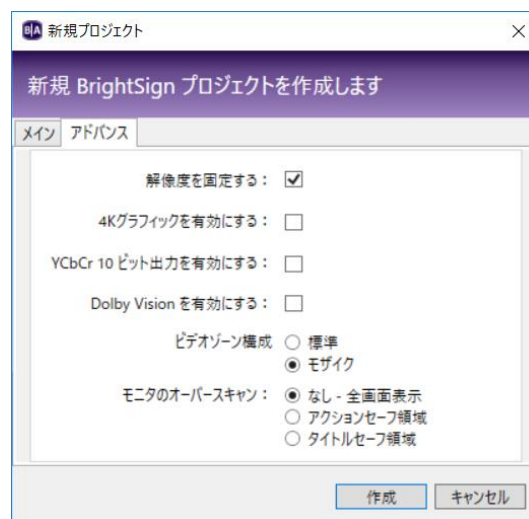
9-6 モザイクモード

モザイクモードでは複数の動画を同時に表示することができます。上位機種になる程、また動画の解像度を小さくする程、多くの動画を同時に表示することができます。

新規プロジェクトの作成（ファイル > 新規プレゼンテーション）の アドバンスタブで ビデオゾーン構成のモザイクにチェックを入れます。

（メインタブでモデル、出力解像度をディスプレイに合わせて設定しておきます。）

「作成」をクリックすると テンプレートウィンドウが開きます。モザイクモードのテンプレートも選択できますが、レイアウトで自由に設定できますので、ここでは「全画面」を選び、「選択」をクリックして進めるものとします。



モザイクモードのレイアウトを作成します。



①編集タブでレイアウトをクリックします。

②全画面ゾーンをクリックして選択し、Delete キーを押して削除します。

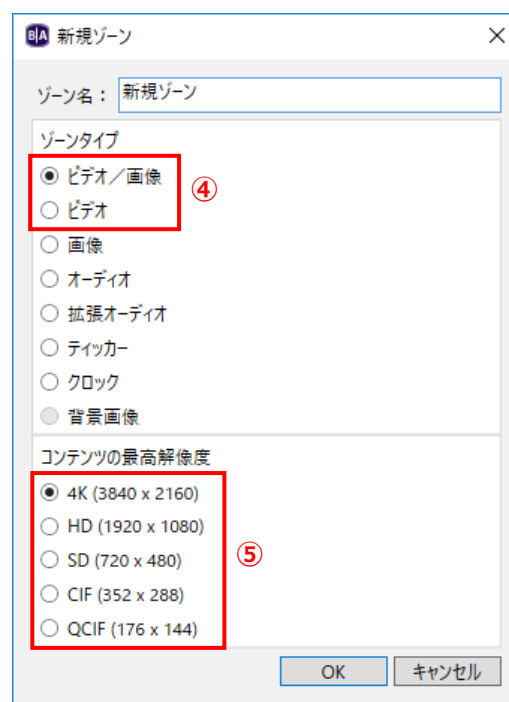
③ (+) ゾーンの追加をクリックします。

④新規ゾーンの作成ウィンドウが開きます。ゾーンタイプではビデオ/画像、またはビデオを選びます。

⑤コンテンツの最高解像度でモザイクゾーンの解像度を選択します。モザイクゾーンでは選択した解像度以下の動画を再生することができます。

③～⑤を繰り返し、複数のモザイクゾーンを作成することができます。

※コンテンツの最高解像度で小さい解像度を選択してモザイクゾーンを作成すると、より多くのモザイクゾーンを配置することができます。また上位モデルになる程、多くのモザイクゾーンを配置可能です。





新規プロジェクトのメインタブでモデルから [XT1144] を選択し、複数のモザイクゾーンを配置したレイアウトの例です。全画面サイズの画像ゾーンの上に、8 つの画像/ビデオゾーンを配置しています。

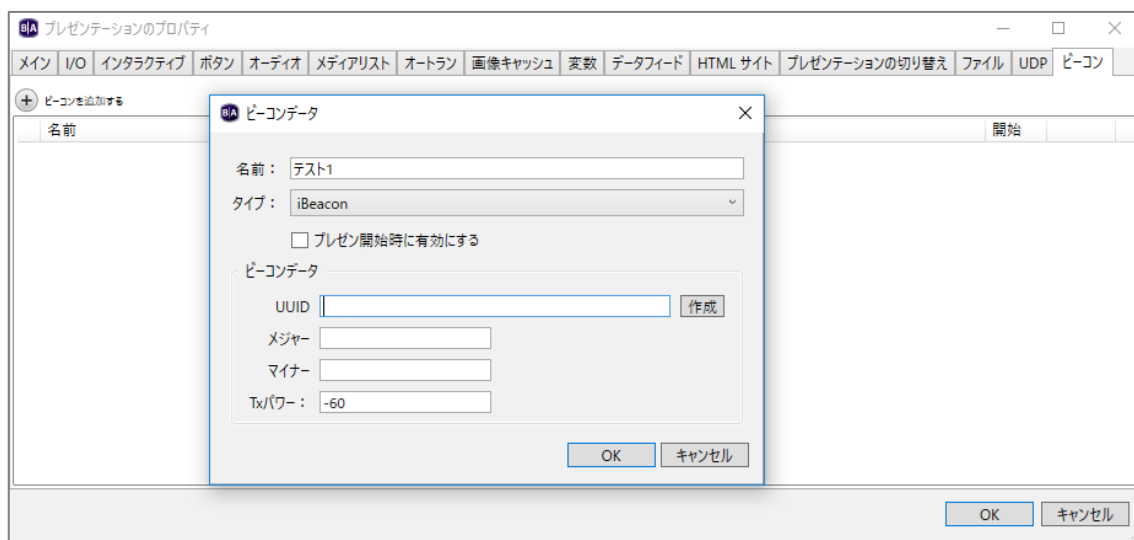
※モザイクゾーンには画像を縮小する機能はありません。コンテンツの最高解像度で選択した解像度より大きなコンテンツを登録することはできません。

9-7 Bright Beacon

オプションの WiFi/Beacon モジュールを使用して Beacon 信号を出力することができます。指定した Beacon 信号を常に出力する場合は「ユニットの設定」で設定を行います。「ユニットの設定」での Beacon の設定方法は、**3 BrightSign のセットアップ (ユニットの設定)** に BrightSign の更新方法に応じた説明があります。**3-1、3-2、または 3-3 の (6) ビーコン**をご参照ください。

ここでは Beacon 信号の出力設定をプレゼンテーションに組み込む方法について説明します。設定例として、起動後、「動画 A」の再生を行い、「動画 A」の再生終了後、「動画 B」を再生し、「動画 B」再生中のみ、指定した Beacon 信号を出力する場合の設定例を説明します。

はじめにビーコンデータの登録を行います。ファイル > プレゼンテーションのプロパティ > ビーコンタブを開きます。(+) ビーコンを追加するをクリックするとビーコンデータウィンドウが開きますので、パラメータを入力します。



名前 : ビーコンデータに名前を設定します。ここでは「テスト 1」と入力するものとします。

タイプ : ビーコンの通信方式を iBeacon、Eddystone URL、Eddystone UID から選択します。

[iBeacon]

UUID : 16bit、32bit、または 128bit UUID を入力します。16bit UUID はハイフンを含まない 4 桁の 16 進数、32bit UUID はハイフンを含まない 8 桁の 16 進数を入力し、128bit UUID はハイフンを含めた正確な値を入力します。[作成] をクリックすると 128bit 形式の UUID を自動生成します。

メジャー : メジャー値を入力します。(0～65535)

マイナー : マイナー値を入力します。(0～65535)

Tx パワー : TxPower の値を入力します。

[Eddystone URL]

URL : URL を入力します。

Tx パワー : TxPower の値を入力します。

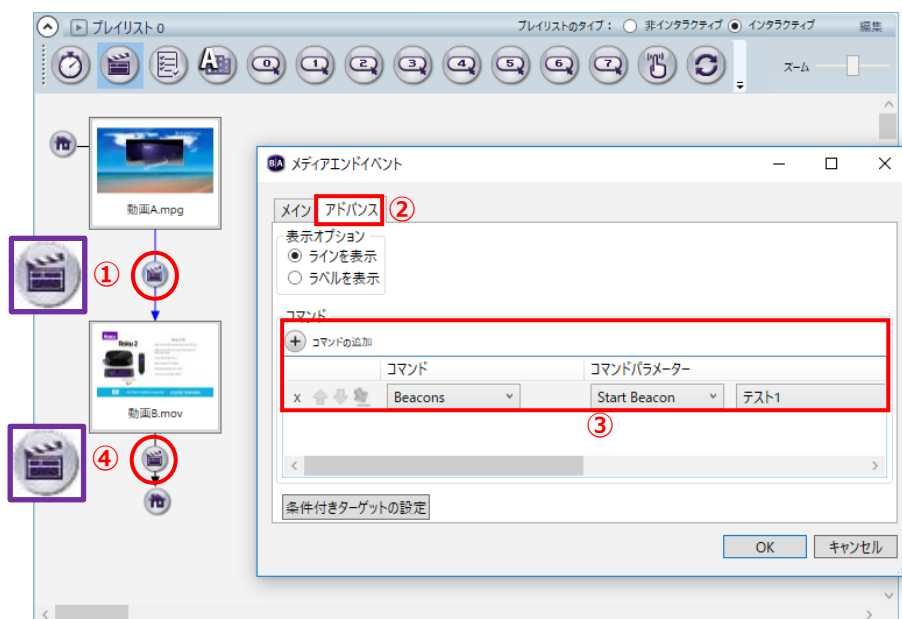
[Eddystone UID]

ネームスペース : Namespace を 10byte (20 桁の 16 進数) で入力します。[作成] をクリックすると自動生成します。

インスタンス : Instance を 6byte (12 桁の 16 進数) で入力します。

Tx パワー : TxPower の値を入力します。

プレゼンテーションを作成します。



①「動画 A」と「動画 B」をプレイリストに登録し、メディアエンドイベントで結びます。「動画 A」と「動画 B」を結ぶメディアエンドイベントアイコンをダブルクリックして、メディアエンドイベントウィンドウを開きます。

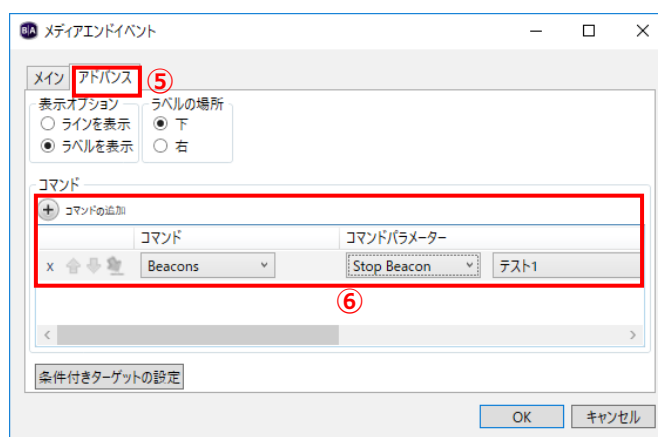
②アドバンスタブを開きます。

③ (+) コマンドの追加をクリックし、コマンドは [Beacons]、コマンドパラメーターは [**Start Beacon**] を選び、登録済みのビーコンデータを選択します。ここでは「テスト 1」を選択します。

④「動画 B」→「動画 A」をメディアエンドイベントで結び、「動画 B」と「動画 A」を結ぶメディアエンドイベントアイコンをダブルクリックして、メディアエンドイベントウィンドウを開きます。

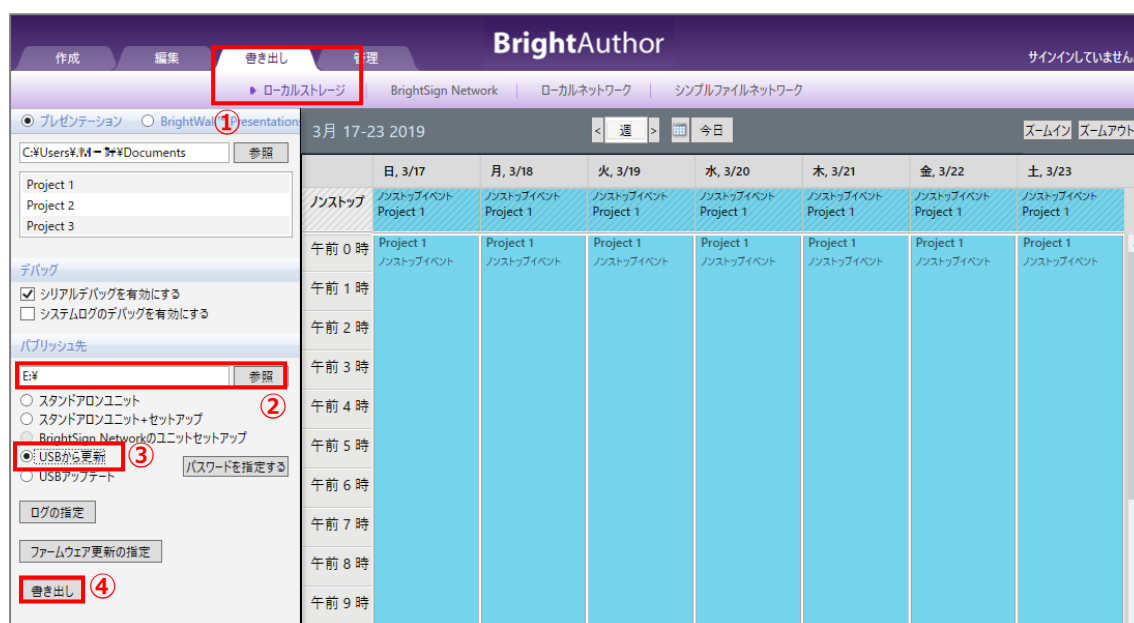
⑤アドバンスタブを開きます。

⑥ (+) コマンドの追加をクリックし、コマンドは [Beacons]、コマンドパラメーターは [**Stop Beacon**] を選び、登録済みのビーコンデータより「テスト 1」を選択します。



9-8 USB 更新

USB ストレージを使用してプレゼンテーションを更新することができます。USB 更新機能はプレゼンテーションを「更新」する機能です。スタンドアローンで稼働中の Micro SD カードのプレゼンテーションを USB ストレージで書き換えます。BrightSign にはプレゼンテーションが書き出された Micro SD カードが接続され、稼働中である必要があります。データのない空の Micro SD カードが接続されていても、USB 更新機能は動作しません。



①更新用にプレゼンテーションを作成し、書き出しタブでローカルストレージを選び、スケジュールを作成します。コンピューターに USB ストレージを接続しておきます。

② [参照] をクリックして USB ストレージを選択します。

③ USB から更新 にチェックを入れます。

④ [書き出し] をクリックして USB ストレージに 書き出し を実行します。

書き出しが終了後、USB ストレージをコンピューターから取り外し、稼働中の BrightSign の USB ポートに接続します。更新は直ぐに実行され、ディスプレイに「Content update complete. Remove the Drive and the system will reboot.」と表示されますので、USB ストレージを BrightSign から取り外します。BrightSign が再起動し、新しいプレゼンテーションを実行します。

9-9 時刻の設定

スケジュール再生を行うには、「タイムサーバーでの時刻合わせ」、「スクリプトによる設定」、「ダイアグノスティック Web サーバーによる設定」のいずれかの方法で時刻の設定が必要です。

※**LS424 を使用する場合は「タイムサーバーでの時刻合わせ」を実行する必要があります。**他の方法では時刻情報を保持することができません。

9-9-1 タイムサーバーでの時刻合わせ

タイムサーバー（NTP サーバー）にアクセスして時刻合わせを行う方法です。通常はインターネット接続が必要ですが、ローカルネットワークにタイムサーバーがある場合は LAN 接続で時刻合わせが可能です。設定は「ユニットの設定」でタイムゾーンとアクセス先のタイムサーバーを指定します。設定方法の詳細は、**3 BrightSign のセットアップ（ユニットの設定）3-1、3-2、または 3-3（2）ネットワークのプロパティ**をご参照ください。

9-9-2 スクリプトによる設定

スクリプト（簡易プログラム）を BrightSign に読み込ませて時刻を設定します。時刻情報は BrightSign の内蔵バッテリーで記憶します。

①BrightSign を初期化します。下記よりダウンロードしたファイルを解凍し、「autorun.brs」を空の Micro SD カードにコピーして BrightSign に接続し、電源を入れます。

<http://www.jmgs.jp/download/brightsign/FactoryDefaultSettings.zip>

②初期化が実行され、BrightSign が再起動します。BrightSign のロゴが表示されたら電源を落とし、Micro SD カードを取り外します。

③時刻調整のスクリプトを下記よりダウンロードして解凍します。

<http://www.jmgs.jp/download/brightsign/SetDateTimeNewVersionFinal.zip>

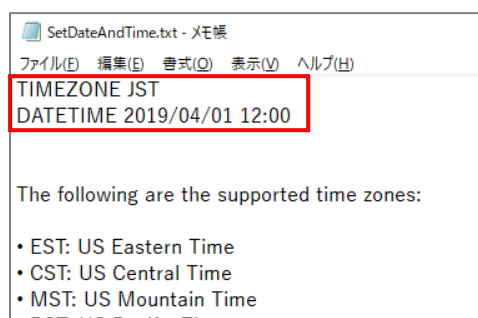
④解凍したフォルダーの中に下記のファイルがあります。

autorun.brs

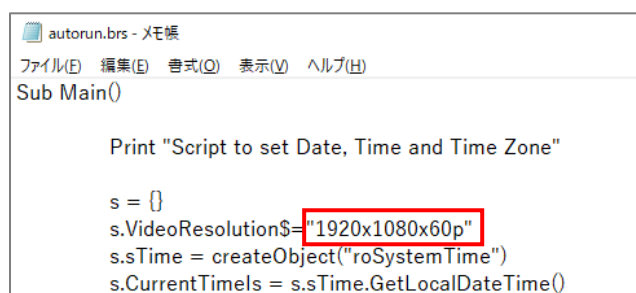
resources.txt

SetDateAndTime.txt

- ⑤「SetDateAndTime.txt」を Windows のメモ帳などで開き、「TIMEZONE」に **JST**、「DATETIME」に **設定する日時**を入力して保存します。



- ※接続するディスプレイが 1920x1080x60p の表示に対応しない場合は、「autorun.brs」を開いて 6 行目の解像度（1920x1080x60p）をディスプレイが対応し、BrightSign が出力可能な解像度書き換えて保存します。



- ⑥設定を書き換えたファイルを含めた全てのファイル（autorun.brs、resources.txt、SetDateAndTime.txt）を Micro SD カードにコピーして BrightSign に接続し、電源を入れます。

- ⑦BrightSign がスクリプトを読み込むとディスプレイに設定した日時が表示されます。内蔵バッテリーを充電するため、そのまま 4 時間以上放置します。4 時間以上経過後、Micro SD カードを抜きます。

9-9-3 ダイアグノスティック Web サーバーによる設定

LAN 接続したコンピューターのブラウザを使用して BrightSign にアクセスし、時刻の設定を行うことができます。この方法は、ダイアグノスティック Web サーバーが有効な場合に使用することができます。設定方法は、**10-10 ダイアグノスティック Web サーバー**を参照

9-10 ダイアグノスティック Web サーバー

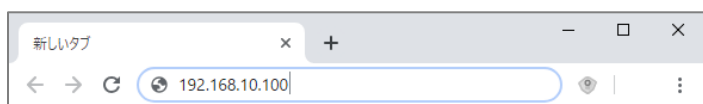
BrightSign は本体内部にダイアグノスティック Web サーバー（診断サーバー）を持ち、LAN 接続したコンピューターのブラウザでアクセスすることで、BrightSign のパラメーターの確認や、時刻合わせ、再起動などの操作が可能です。

9-10-1 ダイアグノスティック Web サーバーを使用する

ダイアグノスティック Web サーバーを使用する際は、「ユニットの設定」で IP アドレスをマニュアルで設定し、ダイアグノスティック Web サーバーを有効にする必要があります。(IP アドレスのマニュアル設定、ダイアグノスティック Web サーバーの有効化は、**3 BrightSign のセットアップ (ユニットの設定) 3-1、3-2、または 3-3 (2) ネットワークのプロパティ、(5) ユニットの設定** 参照)

①「ユニットの設定」でダイアグノスティック Web サーバー機能を有効にします。

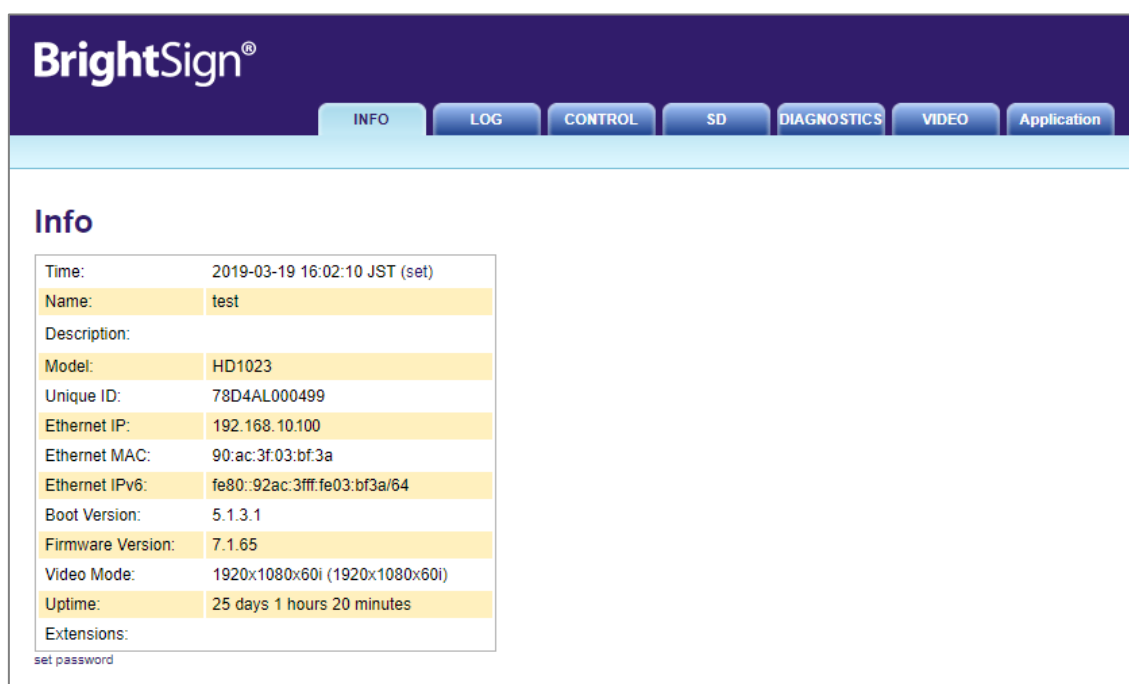
②BrightSign と LAN 接続したコンピューターのブラウザを起動し、アドレス入力欄に BrightSign の IP アドレスを入力し、Enter キーを押すなどしてページを開きます。



※「ユニットの設定」でパスワードを設定した場合はパスワードの入力を求められます。ユーザー名は「admin」、パスワードには設定したパスワードを入力して開きます。

9-10-2 ダイアグノスティック Web サーバーの操作

ダイアグノスティック Web サーバーでは、タブを開いて、BrightSign の情報やログの確認、再起動などの操作が可能です。



[INFO]

INFO タブでは「ユニットの設定」での設定情報や BrightSign の個体情報（シリアル番号など）の確認や、**時刻合わせ**を行うことができます。

<時刻合わせ>

Time の (set) をクリックすると時刻合わせが可能です。Automatically の [Use Client Time] をクリックするとコンピューターの時刻を BrightSign に反映します。マニュアルで設定する場合は Manually の Time、Date に入力し、[Set Time] をクリックします。

[LOG]

BrightSign の再生ログを表示します。

[CONTROL]

再起動などの操作が可能です。

[SD]

Micro SD カード内のファイルの確認や、ファイルの削除などが可能です。**BrightSign の再生に必要なファイルを削除してしまうと正しく表示ができなくなります。**

[DIAGNOSTICS]

ネットワークの接続テストや PNG の送信などを行います。

[VIDEO]

出力解像度の変更や、出力解像度を変えて表示テストを行うことができます。

[Application]

リモートスナップショット機能を有効にしている場合、リモートスナップショットを確認することができます。リモートスナップショットの有効化は **3 BrightSign のセットアップ（ユニットの設定）3-1、3-2、または 3-3 (8) リモートスナップショット**をご参照ください。

10 BrightSign を使いこなすために

弊社では BrightSign をよりご理解いただくために FAQ サイトをご用意しております。FAQ サイトでは、よくあるお問い合わせやトラブルシューティング、設定例などをご紹介します。BrightAuthor の設定方法が分からない場合や、思ったような動作にならない場合は、はじめに FAQ サイトをご覧くださいませでしょうか。多くの問題が FAQ サイトで解決できるはずです。それでもご不明な点がございましたら、お問い合わせフォームにご質問をいただけますでしょうか。サポート担当よりご連絡させていただきます。尚、サポートフォームをご利用いただけるのは BrightSign のユーザー様のみです。ご購入前のお客様にはご回答の内容が限られる場合がありますのでご容赦願います。

ジャパンマテリアル株式会社 グラフィックスソリューション部 サポートサイト

<https://jmgs-support.jp/>

ジャパンマテリアル株式会社

製品情報 ソリューション サポート 販売店情報 お問い合わせ 会社概要

GS部サポートサイト サポートTOP

Q FAQ検索 全てのメーカー キーワード...

検索

TOPICS・新着情報

- ・【BrightSign】映像が表示されない時の対処
- ・【BrightSign】エンラップが点灯する
- ・【BrightSign】BrightAuthorからBrightSignNetwork_JPに接続できない

アクセスの多い質問

- ・【BrightSign】IPアドレスの設定 (Local File Network)
- ・【BrightSign】MicroSD、SDカードの対応フォーマット
- ・【BrightSign】同期再生に最適なコーデックは？

メーカー別

BrightSign 内蔵
タッチパネルモニター
AVNU
BrightSign (Built-in)

世界シェア No.1 の
サイネージプレーヤー
BrightSign®

エルゴノミクス
マウス
contour

ケーブル
ソリューション
JMW
JAPAN MATERIAL WIRE

映像ストリーミング
サーバー
Streaming Assist
ストリーミングアシスト

グラフィックボード、グラフィックボックス
出力延長ユニット
matrox®
Graphics for Professionals

デジタルビデオI/Oデバイス
コンバーター、ライブストリーミングデバイス
matrox®
Digital Video Solutions

PRODIGITAL・BROADCAST
・CCTV
MuxLab

延長器・分配器
スイッチャー
SHINYBOW™

エッジレンディング
幾何学・ひずみ補正
VNS

FAQに該当する内容が無い場合は、下記フォームよりお問合せください。

フォームからお問い合わせ

キーワードから検索が可能です。

新着情報やアクセスの多い質問を表示します。

FAQ に該当する質問がない場合はフォームよりお問い合わせください。

11 BrightSign のハードウェア仕様

11-1 BrightSign XT244/XT1144

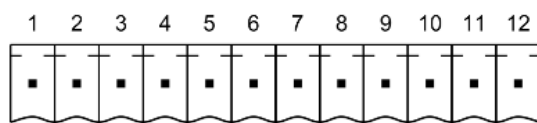
【製品仕様】

製品名	BrightSign XT244	BrightSign XT1144
型番	BS/XT244	BS/XT1144
JAN コード	4522686007853	4522686007839
製品概要	<p>ベーシックインタラクティブ対応モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4K60p デュアルデコードの再生エンジン ・ 同期再生、ネットワーク配信に対応 ・ PoE+に対応 ・ GPIO オプションの接続に対応 	<p>マルチインタラクティブ・HDMI 入力対応モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4K60p デュアルデコードの再生エンジン ・ 同期再生、ネットワーク配信に対応 ・ PoE+に対応 ・ HDMI 入力（HDCP1.4 準拠*）、GPIO、シリアル、USB デバイスとの接続に対応 <p>* HDCP2.2 対応予定</p>
フロント パネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ Micro SD カードスロット ・ HDMI 出力端子 ・ SVC ボタン ・ リセットボタン ・ イーサネット端子 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ Micro SD カードスロット ・ HDMI 出力端子 ・ HDMI 入力端子 ・ USB 端子（Type C） ・ SVC ボタン ・ リセットボタン ・ イーサネット端子
バック パネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーディオ端子 ・ IR 出力端子 ・ GPIO 端子（ピンアサイン別掲） ・ 電力入力端子 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーディオ端子 ・ USB 端子（Type A） ・ IR 出力端子 ・ シリアル端子 ・ GPIO 端子（ピンアサイン別掲） ・ 電力入力端子

アンダー パネル	内蔵 SSD スロット (m.2 SSD) ・ Mini PCIe key type: M ・ SSD memory cell type: SLC、MLC or TLC ・ SSD interface type: NVMe ・ SSD form factor: 2242 or 2280	内蔵 SSD スロット (m.2 SSD) ・ Mini PCIe key type: M ・ SSD memory cell type: SLC、MLC or TLC ・ SSD interface type: NVMe ・ SSD form factor: 2242 or 2280
対応ビデオ フォーマット	・ 最大解像度 : 3840x2160x60p、4096x2160x60p ・ 対応ビデオコーデック 4K Video : H.264、H.265、VP9 ・ 対応ビデオコンテナ 4K : .ts、.mov、.mp4、.mkv ・ 対応ビデオコーデック Full HD : H.265、H.264 (MPEG4 Part10)、MPEG-2、MPEG-1 ・ 対応ビデオコンテナ Full HD : .ts、.mpg、.vob、.mov、.mp4、.m2ts ・ 最大ビットレート : 70~80Mbps (CBR)	
対応画像 フォーマット	BMP、JPEG、PNG	
対応オーディオ フォーマット	MP2、MP3、AAC、FLAC、OGG、WAV (AC3 パススルー)	
IP Streaming デコード	SRT、HLS、UDP/RTP/RTSP、HTTP including SHOTcast	
その他 フォーマット	HTML5	
ネットワーク 配信	対応	
動作環境温度	0°C ~ 50°C	
電源	12V/3.0A	
サイズ	幅 179.9mm×奥行 204.2mm×高さ 21.9mm	
重量	570g	
パッケージ サイズ	幅 288.0mm×奥行 246.0mm×高さ 70.0mm	
パッケージ 重量	1,110g	
付属品	・ AC アダプター ・ AC 取り替えプラグ ・ Micro SD スロットカバー ・ Micro SD スロットカバー固定用ネジ ・ DVD-ROM (User's Guide 収録)	

【GPIO ピンアサイン】

PIN	Function	PIN	Function
1	GND	7	GND
2	3.3V	8	3.3V
3	BUTTON 0	9	BUTTON 4
4	BUTTON 1	10	BUTTON 5
5	BUTTON 2	11	BUTTON 6
6	BUTTON 3	12	BUTTON 7



【製品図面】



11-2 BrightSign XD234/XD1034

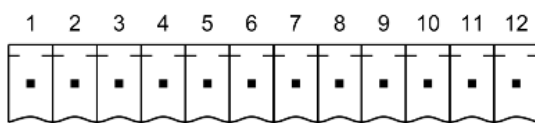
【製品仕様】

製品名	BrightSign XD234	BrightSign XD1034
型番	BS/XD234	BS/XD1034
JAN コード	4522686007891	4522686007877
製品概要	<p>ベーシックインタラクティブ対応モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4K・フル HD 同時デコードの再生エンジン ・ 同期再生、ネットワーク配信に対応 ・ GPIO オプションの接続に対応 	<p>マルチインタラクティブ対応モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4K・フル HD 同時デコードの再生エンジン ・ 同期再生、ネットワーク配信に対応 ・ GPIO、シリアル、USB デバイスの接続に対応
フロント パネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ Micro SD カードスロット ・ HDMI 出力端子 ・ SVC ボタン ・ リセットボタン ・ イーサネット端子 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ Micro SD カードスロット ・ HDMI 出力端子 ・ USB 端子 (Type C) ・ SVC ボタン ・ リセットボタン ・ イーサネット端子
バック パネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーディオ端子 ・ IR 出力端子 ・ GPIO 端子 (ピンアサイン別掲) ・ 電力入力端子 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーディオ端子 ・ USB 端子 (Type A) ・ IR 出力端子 ・ シリアル端子 ・ GPIO 端子 (ピンアサイン別掲) ・ 電力入力端子
アンダー パネル	<p>内蔵 SSD スロット (m.2 SSD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Mini PCIe key type: M ・ SSD memory cell type: SLC、MLC or TLC ・ SSD interface type: NVMe ・ SSD form factor: 2242 or 2280 	<p>内蔵 SSD スロット (m.2 SSD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Mini PCIe key type: M ・ SSD memory cell type: SLC、MLC or TLC ・ SSD interface type: NVMe ・ SSD form factor: 2242 or 2280

対応ビデオ フォーマット	<ul style="list-style-type: none"> ・最大解像度：3840x2160x60p、4096x2160x60p ・対応ビデオコーデック 4K Video：H.264、H.265、VP9 ・対応ビデオコンテナ 4K：.ts、.mov、.mp4、.mkv ・対応ビデオコーデック Full HD：H.265、H.264（MPEG4 Part10）、MPEG-2、MPEG-1 ・対応ビデオコンテナ Full HD：.ts、.mpg、.vob、.mov、.mp4、.m2ts ・最大ビットレート：70～80Mbps（CBR）
対応画像 フォーマット	BMP、JPEG、PNG
対応オーディオ フォーマット	MP2、MP3、AAC、FLAC、OGG、WAV（AC3 パススルー）
IP Streaming デコード	SRT、HLS、UDP/RTP/RTSP、HTTP including SHOTcast
その他 フォーマット	HTML5
ネットワーク 配信	対応
動作環境温度	0℃ ～ 50℃
電源	12V/3.0A
サイズ	幅 179.9mm×奥行 204.2mm×高さ 21.9mm
重量	570g
パッケージ サイズ	幅 288.0mm×奥行 246.0mm×高さ 70.0mm
パッケージ 重量	1,070g
付属品	<ul style="list-style-type: none"> ・ AC アダプター ・ AC 取り替えプラグ ・ Micro SD スロットカバー ・ Micro SD スロットカバー固定用ネジ ・ DVD-ROM（User's Guide 収録）

【GPIO ピンアサイン】

PIN	Function	PIN	Function
1	GND	7	GND
2	3.3V	8	3.3V
3	BUTTON 0	9	BUTTON 4
4	BUTTON 1	10	BUTTON 5
5	BUTTON 2	11	BUTTON 6
6	BUTTON 3	12	BUTTON 7



【製品図面】



11-3 BrightSign HD224/HD1024

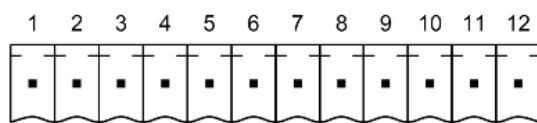
【製品仕様】

製品名	BrightSign HD224	BrightSign HD1024
型番	BS/HD224	BS/HD1024
JAN コード	4522686008171	4522686008157
製品概要	<p>ベーシックインタラクティブ対応モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H.265、H.264、4K・フルHD 動画の再生に対応 ・ 同期再生、ネットワーク配信に対応 ・ GPIO オプションの接続に対応 	<p>マルチインタラクティブ対応モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H.265、H.264、4K・フル HD 動画の再生に対応 ・ 同期再生、ネットワーク配信に対応 ・ GPIO オプション、シリアル、USB デバイスの接続に対応
フロント パネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ Micro SD カードスロット ・ HDMI 出力端子 ・ SVC ボタン ・ リセットボタン ・ イーサネット端子 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ Micro SD カードスロット ・ HDMI 出力端子 ・ SVC ボタン ・ リセットボタン ・ イーサネット端子 ・ USB 端子 (Type A)
バック パネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーディオ端子 ・ GPIO 端子 (ピンアサイン別掲) ・ 電力入力端子 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーディオ端子 ・ GPIO 端子 (ピンアサイン別掲) ・ 電力入力端子 ・ シリアル端子
アンダー パネル	<p>内蔵 SSD スロット (m.2 SSD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Mini PCIe key type: M ・ SSD memory cell type: SLC、MLC or TLC ・ SSD interface type: NVMe 	<p>内蔵 SSD スロット (m.2 SSD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Mini PCIe key type: M ・ SSD memory cell type: SLC、MLC or TLC ・ SSD interface type: NVMe

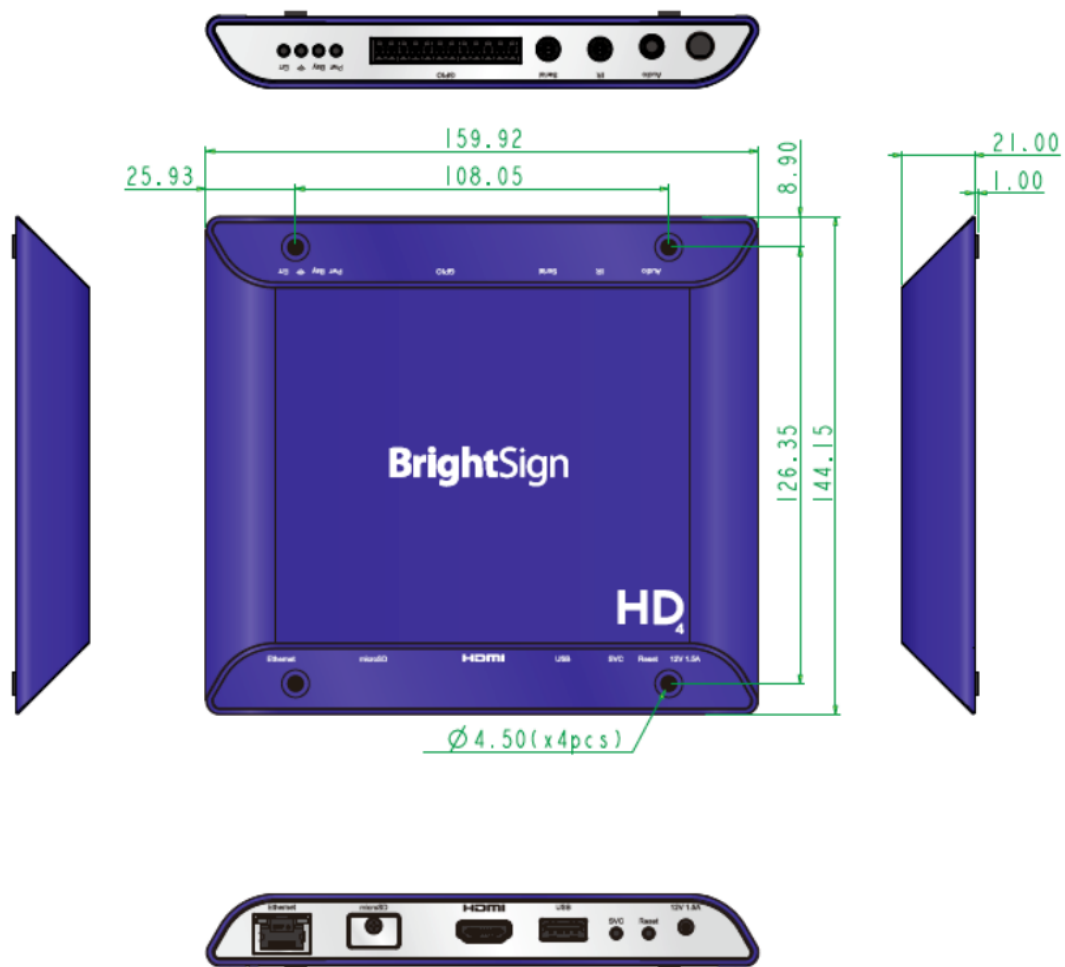
	<ul style="list-style-type: none"> ・ SSD form factor: 2242 or 2280 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SSD form factor: 2242 or 2280
対応ビデオ フォーマット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最大解像度 : 3840x2160x60p、4096x2160x60p ・ 対応ビデオコーデック 4K Video : H.264、H.265、VP9 ・ 対応ビデオコンテナ 4K : .ts、.mov、.mp4、.mkv ・ 対応ビデオコーデック Full HD : H.265、H.264 (MPEG4 Part10)、MPEG-2、MPEG-1 ・ 対応ビデオコンテナ Full HD : .ts、.mpg、.vob、.mov、.mp4、.m2ts ・ 最大ビットレート : 25Mbps (CBR) 	
対応画像 フォーマット	1080p までの BMP、JPEG、PNG	
対応オーディオ フォーマット	MP2、MP3、AAC、WAV (AC3 パススルー)	
IP Streaming デコード	SRT、HLS、UDP/RTP/RTSP、HTTP including SHOTcast	
その他 フォーマット	HTML5	
ネットワーク 配信	対応	
動作環境温度	0°C ~ 50°C	
電源	12V/1.5A	
サイズ	幅 159.9mm×奥行 144.2mm×高さ 22mm	
重量	340g	
パッケージ サイズ	幅 252.0mm×奥行 180.0mm×高さ 68.0mm	
パッケージ 重量	720g	
付属品	<ul style="list-style-type: none"> ・ AC アダプター ・ AC 取り替えプラグ ・ Micro SD スロットカバー ・ Micro SD スロットカバー固定用ネジ ・ DVD-ROM (User's Guide 収録) 	

【GPIO ピンアサイン】

PIN	Function	PIN	Function
1	GND	7	GND
2	3.3V	8	3.3V
3	BUTTON 0	9	BUTTON 4
4	BUTTON 1	10	BUTTON 5
5	BUTTON 2	11	BUTTON 6
6	BUTTON 3	12	BUTTON 7



【製品図面】



11-4 BrightSign LS424

【製品仕様】

製品名	BrightSign LS424
型番	BS/LS424
JAN コード	4522686008195
製品概要	<p>エントリーモデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H.265、H.264 フルHD 動画の再生に対応 ・ 同期再生、ネットワーク配信に対応 ・ USB デバイスの接続に対応
フロントパネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ Micro SD カードスロット ・ USB 端子 (Type C) ・ SVC ボタン ・ リセットボタン
バックパネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・ HDMI 出力端子 ・ 電力入力端子 ・ イーサネット端子
対応ビデオフォーマット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 x 1080 60p ・ 対応ビデオコーデック : H.265、H.264 (MPEG4 Part10)、MPEG-2、MPEG-1 ・ 対応ビデオコンテナ : .ts、.mpg、.vob、.mov、.mp4、.m2ts
対応画像フォーマット	1080p までの BMP、JPEG、PNG
対応オーディオフォーマット	MP2、MP3、AAC、WAV (AC3 パススルー)
IP Streaming デコード	SRT、HLS、UDP/RTP/RTSP、HTTP including SHOTcast
その他フォーマット	HTML5
ネットワーク配信	対応

動作環境温度	0℃ ～ 50℃
電源	5V/2.0A
サイズ	幅 96.8mm×奥行 144.3mm×高さ 23.7mm
重量	160g
パッケージサイズ	幅 201.0mm×奥行 184.0mm×高さ 75.0mm
パッケージ重量	520g
付属品	<ul style="list-style-type: none"> ・ AC アダプター ・ AC アダプター用 USB ケーブル ・ AC 取り替えプラグ ・ Micro SD スロットカバー ・ Micro SD スロットカバー固定用ネジ ・ DVD-ROM (User's Guide 収録)

【製品図面】



12-5 BrightSign HO523

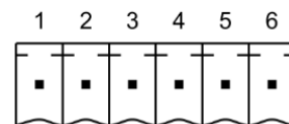
【製品仕様】

製品名	BrightSign HO523
型番	BS/HO523
JAN コード	4522686006573
製品概要	OPS 準拠、ディスプレイ組み込みモデル ※BrightSign HD3 シリーズ相当のパフォーマンス
フロントパネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・イーサネット端子 ・USB 端子 (Type A x2) ・GPIO 6 ピン端子 (ピンアサイン別掲) ・IR 出力端子 ・オーディオ端子 ・シリアル端子 ・Micro SD カードスロット ・SVC ボタン ・リセットボタン
バックパネル	 <ul style="list-style-type: none"> ・JAE TX25 端子
対応ビデオフォーマット	<ul style="list-style-type: none"> ・1 x 1080 60p ・対応ビデオコーデック : H.265、H.264 (MPEG4 Part10)、MPEG-2、MPEG-1 ・対応ビデオコンテナ : .ts、.mpg、.vob、.mov、.mp4、.m2ts、.wmv <p>※wmv は PowerPoint から出力したファイルのみ対応。音声はサポートしません。</p>
対応画像フォーマット	1080p までの BMP、JPEG、PNG
対応オーディオフォーマット	MP2、MP3、AAC、WAV (AC3 パススルー)
IP Streaming デコード	SRT、HLS、UDP/RTP/RTSP、HTTP including SHOTcast
その他フォーマット	HTML5
ネットワーク配信	対応

動作環境温度	0℃ ～ 50℃
電源	12～19V DC
サイズ	幅 200mm×奥行 122mm×高さ 30mm
重量	650g
パッケージサイズ	幅 260mm×奥行 178mm×高さ 43mm
パッケージ重量	880g
付属品	・ DVD-ROM (User's Guide 収録)

【GPIO ピンアサイン】

PIN	Function	PIN	Function
1	GND	4	BUTTON 1
2	3.3V	5	BUTTON 2
3	BUTTON 0	6	BUTTON 3



【製品図面】

